構造設計特記仕様　その１

・適用は　■　印を記入する。

1. 本仕様の適用範囲

(1)本仕様の適用範囲

本特記仕様および配筋標準図は、設計基準強度が18N/mm²以上60N/mm²以下のコンクリートと、JIS G 3112に規定するSD295、SD345、SD390およびSD490の鉄筋コンクリート用棒鋼を用いる高さが60m以下の鉄筋コンクリート造、鉄骨造等建築物の設計及び工事に適用する。

(2)仕様書等の優先順位

設計図書および仕様書の優先順位は以下による。

①特記仕様
②設計図(伏図、軸組図、部材リスト、詳細図など)
③標準図(鉄筋コンクリート構造配筋標準図など)
④建築工事標準仕様書・同解説(日本建築学会)等

2. 建築物の構造内容

(1)建築場所　　徳島県三好市池田町

(2)工事種別

■新築　　□増築　　□改築

(3)構造設計一級建築士の関与　　■必要　　□必要としない

□法第20条第二号(　□RC造高さ20m超　　□S造4階建以上　□木造高さ13m超　　□その他　)

(4)階数

地下　－階　　地上　3階　　塔屋　1階

(5)構造種別

構造種別	該当階等	架構特徴等
□鉄筋コンクリート造(RC)	基礎　階～ 階	□耐震建物
□鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC)	階～ 階	□免震建物
■鉄骨造(S)	1階～3階	□制震建物
□木造	階～ 階	□搭状建物
□		□
□		□

(6) 主要用途

□事務所　■共同住宅　□病院　□店舗　□倉庫　□工場　■集会所

(7) 屋上付属物

□キュービクル　kN　□高架水槽　kN　□広告塔　kN　□煙突　m
■太陽光発電設備　□　□　□

(8) 設計荷重

(a) 主な積載荷重　(N/m²)

室　名	床　用	架構用	地震用
屋上(1)	900	650	300
居室	1800	1300	600
食堂	3500	3200	2100

(b) 1次設計用地震力

Co＝ 0.2　Z＝ 1.0　Rt＝ 1.0　K(地下)＝

(c) 風荷重

地表面粗度区分　　基準風速　Vo＝　34　m/sec

(d) 雪荷重

■垂直積雪量　50　cm　■設計用雪荷重　20　N/m²/cm　□割増率

(e) 特殊の荷重及び仕上材

□エレベーター　kN　基　□受水槽　kN　□エスカレーター
□　□　□　□

(9) 構造計算ルート

X方向ルート　3　－(　)　Y方向ルート　3　－(　)

(10) 一次設計時用層間変形角

X方向　1/ 200　rad　Y方向　1/ 200　rad

(11) 付帯工事

□門塀　□擁壁　□駐輪場　□機械式駐車場　□

(12) 特定天井

□有　□無

(13) 屋根、床、壁

材　種	型式　厚　その他	使用箇所	仕様・構法
□ALC　(JIS A 5416)	厚 60	■壁　□床版	□スライド　□ボルト止め
■押出し成形セメント版			■ロッキング □
□ハーフPca版　□Pca版	厚	□壁　□床版	□
□折　版	H＝　厚 H＝　厚	□屋根 □庇	
□特殊デッキプレート　大臣認定(　)	型式　厚	□屋根 □床版	□

3. 使用建築材料表・使用構造材料一覧表

(1) コンクリート(レディーミクストコンクリート　JIS Q 1001, JIS Q 1011, JIS A 5308)

適用箇所 階	適用箇所 部位	設計基準強度 Fc＝N/mm²	品質基準強度 Fq＝N/mm²	スランプ cm (スランプフロー)	比重 γ＝kN/m³	備考
	□　□ □　□					
2～PHR階	■機械基礎 ■立ち上げ壁 ■ハト小屋	21	21	18	23.0	
2～PHR階	■押えコンクリート ■厨房増し打ちコンクリート	18	18	18	23.0	
2～PHR階	□柱　□梁 □壁　■床版	21	21	18	23.0	
基礎	■S1　□	24	24	18	23.0	
	■基礎　■FS1 ■基礎梁 ■柱脚	27	27	18	23.0	
	土間コンクリート	■　18	―	15	―	
	捨てコンクリート	■　18	―	15	―	
セメントの種類		■普通ポルトランドセメント　□中庸熱ポルトランドセメント □低熱ポルトランドセメント　□				
細骨材の種類		■砂　■山砂　■砕砂　□				
粗骨材の種類		■砂利　■砕石　□　□				
水の区分		■水道水　□地下水　□工業用水　□スラッジ水				
構造体コンクリート強度を保証する材齢		材齢(■28日　□56日　□91日　□　　) 養生(■標準　□現場水中　□現場封かん　□　　)				
単位水量		■185kg/m³以下　□175kg/m³以下　□				
単位セメント量		■270kg/m³以上　□				
混和剤		■AE減水剤　■高性能減水剤　■高性能AE減水剤 □　□　□				
空気量		■4.5%以下　□3.0%以下　□				
塩化物量		■0.3kg/m³以下　□　□				
水セメント比		■65%以下　□50%以下　□				

(2) コンクリートブロック　(□ JIS A 5406)

□A種　□B種　□C種　厚　□100　□120　□150　□190　使用箇所(□　□　)

(3) 鉄　筋

鉄　筋	種　類	使用径mm	使用箇所	備考
異形鉄筋 (JIS G 3112)	□SD295	D10～D16		■重ね継手
	□SD345	D19～D25		■ガス圧接継手
	□SD390	D29～D35		□溶接継手
	□SD490			□機械式継手
				□
	□			□機械式定着工法
高強度せん断補強筋	□685			□大臣認定番号
	□785			MSRB-
	□1275			
	□			
溶接金網 (JIS G 3551)	□			
	□			

注1) SD490をガス圧接する場合は施工前に試験を行うこと。
注2) 各継手の使用詳細については本仕様その2の9. (2)鉄筋の項の鉄筋継手の項に □ にて表示すること。

(4) 鉄　骨

種　類	鋼　種	使用箇所	備　考
形鋼	■SS400　□SS490	大梁, 小梁, 間柱	JIS G 3101
	□SM490A　□SM490B　□SM490C		JIS G 3106
	□SN400A　□SN400B　□SN400C ■SN490B　■SN490C	ダイアフラム ベースプレート	JIS G 3136
軽量形鋼	□SSC400		JIS G 3350
表面処理軽量形鋼	□SGH400　□SGC400		JIS G 3302
角形鋼管	■BCR295(TSC295)※	柱	MSTL-0495同等品
	□BCP235		MSTL-0278同等品
	□BCP325		MSTL-0277同等品
	□STKR400 □STKR490		JIS G 3466
鋼管	□STK400　□STK490		JIS G 3444
建築用ターンバックル	■SN400B　■SNR400B	水平ブレース	JIS A 5540(2008)

※BCR295と同等製品(TSC295 MSTL-0385)の使用は可能とする。

(5) ボルト等

■高力ボルト

■F10T(JIS B 1186)　(■M16、■M20、□M22、□M24、□　)
■S10T　大臣認定番号(　MBLT-0125同等品　)　(■M16、■M20、□M22、□M24、□　)
■溶融亜鉛めっき高力ボルト　F8T　大臣認定番号(　MBLT-0050同等品　)(■M16、□M20、□M22、□M24、□　)
□

■中ボルト(JIS B 1180)M　■4.8(4T)　□　□

■アンカーボルト(構造用アンカーボルト)構造図部材リストによる

■SS400　M 20　L＝ 400 mm　ナット(□シングル、■ダブル)
□ABR400　M　L＝　mm　ナット(□シングル、□ダブル)(JIS B 1220)
□　M　L＝　mm　ナット(□シングル、□ダブル)

■頭付スタッド(JIS B 1198)

φ＝ 16　L＝ 80 mm　使用箇所(□柱　■大梁　■小梁)
φ＝　L＝　mm　使用箇所(□柱　□大梁　□小梁)

4. 地　盤

(1) 地盤調査資料と調査計画

■有　(■敷地内　□近隣)　　□無　(調査計画　□有　□無)

調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査	●		静的貫入試験			標準貫入試験	●	
水平地盤反力係数の測定			土質試験	●		物理探査		
試験掘(支持層の確認)			平板載荷試験			液状化判定	●	
スウェーデン式サウンディング			現場透水試験			PS検層		

注)上記表中の資料が有るもの、調査計画があるものに ● を記入する。

(2) ボーリング標準貫入値、土質構成　(基礎、杭の位置を明記すること)

深度	土質	N値	標準貫入試験 10 20 30 40 50 60
	GL		
			S-13～14参照

○調査地番

○位置図

○支持地盤、地層及び深さについてのコメント

○孔内水位
GL　－　　m

○近隣データの調査地番と設計地番とは約　mの距離がある

○備考(土質試験の内容等)
□
□
□
□
□
□

注1)地盤調査及び試験杭の結果により、杭長さ、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

5. 地業工事

(1) 直接基礎　□ベタ基礎　□布基礎　□独立基礎　試験掘□有□無
深さ GL-　m、支持層－　、長期許容支持力度　kN/m²　載荷試験□有□無

(2) 地盤改良　□浅層混合処理工法　□深層混合処理工法　□
深さ GL-　m、支持層－　、長期許容支持力度　kN/m²　載荷試験□有□無
注)「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針：日本建築センター2018」を参考とする

(3) 杭基礎　支持層－玉石混じり砂礫層

杭種	材料	施工法	備考
■場所打ちコンクリート杭	コンクリートFc＝ 27 N/mm² スランプ cm以下 セメント量 kg/m³ 単位水量 kg/m³	■オールケーシング □リバースサーキュレーション □アースドリル □拡底杭　□拡頭・拡底杭 □鋼管補強杭 □ □深礎 (□手掘 □機械掘)	認定 第　号 年　月　日

既製杭・杭種	種　類	材　料	施工法	備考
□PRC	□Ⅰ種□Ⅱ種□Ⅲ種□	鋼材□	□埋め込み	認定
□PHC	□A種□B種□C種□	鋼材□	□打ち込み	第　号
□鋼管	□	コンクリート□FC85	□	年　月　日
□SC	□	コンクリート□FC105	□	

杭仕様　□施工計画書承認　□杭施工結果報告書
試験杭　(□有・□無)　(□打ち込み・□載荷・□孔壁測定)　本

杭径(mm)	設計支持力(kN)	杭の先端の深さ(m)	本数	特記事項

6. 鉄骨工事　(施工方法等計画書)

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による

■日本建築学会「JASS6　2018年版」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
■一社)日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
■鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」

(2) 工事監理者の承認を必要とするもの

■製作工場　■製作要領書　■工作図　■施工計画書
■認定または登録工場(大臣認定　□S　□H　■M　□R　□J　グレード)
■材料規格証明書※、または試験成績書
■鋼材　■高力ボルト　■特殊ボルト　■頭付スタッド
※一社)日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート。
■社内検査表　□　□

(3) 工事監理者が行う検査項目

(■印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)
■現寸検査　■組立・開先検査　■製品検査　■建方検査　□

(4) 接合部の溶接は下記によること

■平成12年建設省告示第1464号第二号　イ、ロ
□鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱
■日本建築学会「溶接工作規準、同解説Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ, Ⅴ, Ⅵ, Ⅶ, Ⅷ, Ⅸ」
■日本建築学会「鉄骨工事技術指針工事現場施工編」

(5) 接合部の検査

■溶接部の検査(検査結果は工事監理者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数 工場自主検査	第三者受入検査	工事監理者	備考
■完全溶込み溶接部(突合せ溶接) □	外観検査(※)	100 %	100 %	―― %	※平成12年建設省告示第1464号第二号による(目視及び計測)
	超音波探傷検査	100 %	※2 %	―― %	※2「公共建築工事標準仕様書」におけるAOQL4.0%第6水準とする。
	内質検査 □硬さ試験	―― %	―― %	―― %	
	内質検査 □示温塗料塗布	―― %	―― %	―― %	
	マクロ試験・その他	――	――	――	
■隅肉溶接部	外観検査(※)	100 %	100 %	―― %	
第三者検査機関名					
第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社でCIW認定検査事業者とする。					

注1)現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと
注2)重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事等に報告すること

■高力ボルトの検査(検査結果は後日工事監理者に報告すること)
軸力導入試験　□要■否　高力ボルトすべり係数試験　□要■否
■一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共回り等の異常がないことを確認する。
■トルシア形高力ボルトは二次締め後、マーキングのずれとピンテールの破断を確認する。

(6) 防錆塗装

■防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、■JIS K 5674、□JIS K 5551、□JPMS 28、□JASS18 M-109、を使用し、2回塗りを標準とするが、実状に応じて決定すること。
■現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し、2回塗りとする。

(7) 耐火被覆の材料

□

7. 設備関係　令第129条の2の3の事項　※　設計が該当する場合には、■ 印を記入する。

■特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
■設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
■床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。
・建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。
■建築設備(昇降機を除く。)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとすること。
□屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するもの(以下「屋上水槽等」という。)は、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。
□煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支柱を設けたものを除き、90cm以下とすること。
□煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。
■建築物に設ける給水、排水その他の配管設備(給湯設備　を除く。)は
■風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
■建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
■管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
■管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
□建築物に設ける第129条の3第1項第一号及び第二号に掲げる昇降機にあっては、第129条の4及び第129条の5(これらの規定を第129条の12第2項において準用する場合を含む。)、第129条の6第一号、第129条の8第1項並びに第129条の12第1項第六号の規定(第129条の3第2項第一号に掲げる昇降機にあっては、第129条の6第一号の規定を除く。)に適合すること。
□法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上水槽等にあっては、平成12年建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとすること。
□給湯設備　は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃対して安全上支障のない構造とすること。
満水時の質量が15Kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。
＊「給湯設備」：建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの

8. その他

■諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
■各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
■必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

構造設計者
株式会社　コンパース
一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号　戸田　友一

徳島県県土整備部営繕課

●工事名　第２三好察・三好市地域利便性施設
(仮称)新築工事のうち建築工事

●図面番号　S-01

●図面名　構造設計特記仕様(1)

●縮尺　――

１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号
株式会社　宮建築設計
徳島市福島１丁目５番６号
TEL　(088)－625－5505(代)
管理建築士　清水　康代　１級333707

構造設計特記仕様　　その２

・適用は　■　印を記入する。

９．鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート

鉄筋コンクリート工事の施工に関しては記載無きは、JASS　5　2018　による。

(a) コンクリートの仕様

本仕様書では、JASS　5に規定する普通骨材を用いた一般仕様のコンクリートを「普通コンクリート」と定義し、表9．1に示す様に設計基準強度が36N／mm²以下のコンクリートについてはJASS5の3節～11節を適用し、36N／mm²を超えるコンクリートについてはJASS5の17節（高強度コンクリート）を適用する。
また、設計基準強度もしくは品質基準強度と構造体強度補正値から定める調合管理強度以上とし、
発注するレディーミクストコンクリートの呼び強度が表9．2に示すJIS規格外となる場合は、法第37条の大臣認定を受けた製品を用いる必要がある。
軽量コンクリートについてはJASS　5の14節によること。

表9．1　コンクリート圧縮強度（N／mm²）に応じた仕様書の使い分け

設計基準強度　Fc	18	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60
JASS　5での区分	普通コンクリート							高強度コンクリート							

表9．2　レディーミクストコンクリートのJIS規格品

調合管理強度（N／mm²）	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60	60超
呼び強度（JIS規格品）	21	24	27	30	33	36	40	42	45	50	55	55	60	60	※

※印は規格外

(b) 品質と施工

■ 構造体の計画供用期間の級は特記による。特記が無い場合は標準とする。（　）は耐久設計基準強度Fd
　□ 短期（18）　　■ 標準（24）　　□ 長期（30）　　□ 超長期（36）

■ コンクリートはJIS　A　5308（レディーミクストコンクリート）に適合するJIS認証工場の製品とする。

■ 設計基準強度が36N／mm²を超えるコンクリートを扱うレディーミクストコンクリート工場は、「高強度コンクリート」の製品認証を受けているか、建築基準法第37条第二号によって国土交通大臣が指定建築材料として認定した高強度コンクリートの製造工場とする。

■ レディーミクストコンクリート工場および高強度コンクリートを打設する施工現場には、コンクリート主任技士またはコンクリート技士、あるいはこれらと同等以上の知識経験を有すると認められる技術者が常駐していなければならない。

■ 施工者は、工事に先立ち、コンクリートの調合・製造計画、施工計画、品質管理計画書を作成し、工事監理者の承認を得ること。

■ フレッシュコンクリートの流動性は、スランプまたはスランプフローで表し、調合管理強度が33N／mm²以上の場合スランプ21cm以下、33N／mm²未満の場合スランプ18cm以下とし
設計基準強度が36N／mm²超45N／mm²未満の場合はスランプ21cm以下またはスランプフロー50cm以下、
設計基準強度が45N／mm²以上の場合はスランプ23cm以下またはスランプフロー60cm以下とし、
特記による。

■ コンクリートに含まれる塩化物量は、塩化物イオン量として0．3kg／m³以下とする。

■ コンクリートの練混ぜから打込み終了までの時間は、原則として120分を限度とする。

■ コンクリート打込み時の自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。

■ 打継ぎ部は構造的に影響の少ない位置を選び打継ぎ処理を行い、打込み前に十分な水湿しを行う。

■ 打込み後の湿潤養生の期間は、セメントの種類および設計基準強度に応じて3日以上とする。

(c) 調合および構造体コンクリート強度

i）高強度コンクリート

□ 調合強度を定めるための基準とする材齢は、特記による。特記のない場合は28日とする。

□ 構造体コンクリート強度を保証する材齢は、特記による。特記のない場合は91日とする。

□ 構造体コンクリート強度は、次の①または②を満足するものとする。
　① 標準養生した供試体による場合、調合強度を定めるための基準とする材齢において調合管理強度以上とする。
　② 構造体温度養生した供試体による場合、構造体コンクリート強度を保証する材齢において設計基準強度に3N／mm²加えた値以上とする。

□ 調合管理強度は、以下による。
　$_{H}F_{m}=F_{c}+{}_{m}S_{s}$（N／mm²）
　　$_{H}F_{m}$：高強度コンクリートの調合管理強度（N／mm²）
　　F_{c}：コンクリートの設計基準強度（N／mm²）
　　$_{m}S_{s}$：高強度コンクリートの構造体強度補正値でJASS　5による。

□ 調合強度は標準養生供試体の圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。
　$_{H}F \geqq {}_{H}F_{m}+1.73\sigma_{H}$（N／mm²）
　$_{H}F \geqq 0.85\,{}_{H}F_{m}+3\sigma_{H}$（N／mm²）
　　$_{H}F$：高強度コンクリートの調合強度（N／mm²）
　　σ_{H}：高強度コンクリートの圧縮強度の標準偏差（N／mm²）で、レディーミクストコンクリート工場の実績による。実績がない場合は、0．1（$F_{c}+{}_{m}S_{s}$）とする。

ii）普通コンクリート

■ 調合を定めるための基準とする材齢は、原則として28日とする。

■ 構造体コンクリート強度は表9．3 表満足すれば合格とする。

表9．3　構造体コンクリートの圧縮強度の判定基準

供試体の養生方法	試験材齢 (1)	判定基準
標準養生 (2)	28　日	$X \geqq F_{m}$
コ　　ア	91　日	$X \geqq F_{q}$

ただし、X：1回の試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値（N／mm²）
　F_{m}：コンクリートの調合管理強度（N／mm²）
　F_{q}：コンクリートの品質基準強度（N／mm²）

［注］（1）早い材齢において試験を行い、合否判定基準を満たした場合は、合格とする。
　　（2）工事監理者の承認を得て、供試体成型後、翌日までは20±10℃の日光および風が直接当たらない箇所で、乾燥しないように養生して保管することができる。

＊標準養生供試体の代わりにあらかじめ準備した現場水中養生供試体によることができる。
その場合の判定基準は材齢28日までの平均気温が20℃以上の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値が調合管理強度以上であり、平均気温が20℃未満の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値から3N／mm²を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

＊コア供試体の代わりにあらかじめ準備した現場封かん養生供試体によることができる。
その場合の判定基準は材齢28日を超え91日以内のn日において3個の供試体の圧縮強度の平均値から3N／mm²を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

■ 調合管理強度は、以下による。
　$F_{m}=F_{q}+{}_{m}S_{s}$（N／mm²）
　　F_{m}：コンクリートの調合管理強度（N／mm²）
　　F_{q}：コンクリートの品質基準強度（N／mm²）
　　${}_{m}S_{s}$：標準養生した供試体の材齢m日における圧縮強度と構造体コンクリートのn日における圧縮強度の差による構造体強度補正値（N／mm²）

■ 調合強度は標準養生した供試体の材齢m日における圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。調合強度を定める材齢m日は、原則として28日とする。
　$F \geqq F_{m}+1.73\sigma$　（N／mm²）
　$F \geqq 0.85F_{m}+3\sigma$　（N／mm²）
　　F：コンクリートの調合強度（N／mm²）
　　σ：使用するコンクリートの圧縮強度の標準偏差（N／mm²）で、レディーミクストコンクリート工場の実績による。実績のない場合は2．5N／mm²、または0．1F$_{m}$の大きい方の値とする。

■ 品質基準強度Fqは、設計基準強度Fcおよび耐久設計基準強度Fdは以上の値とし、特記による。
特記がない場合は、設計基準強度Fcまたは耐久設計基準強度Fdの大きい方の値とする。

(d) 検査

■ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（一財）国土開発技術センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し、工事監理者の承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。

■ スランプの許容差は、普通コンクリートの場合、スランプが18cm以下の場合±2．5cm、21cmの場合±1．5cm（呼び強度27以上で高性能AE減水剤を使用する場合は±2cm）とする。
高強度コンクリートの場合は、スランプが18cm以下の場合±2．5cm、21cm以上の場合±2cmとし、
スランプフローの許容差は、目標スランプフローが50cm以下の時は±7．5cm、50cmを超える時は±10cmとする。

■ 使用するコンクリートの圧縮強度試験は、普通コンクリートでは標準養生を行った供試体を用いて材齢28日で行い、1回の試験は打込み工区ごと、打込み日ごと、かつ150m³またはその端数ごとに3個の供試体を用いて行う。3回の試験で1検査ロットを構成する。
高強度コンクリートでは、打込み日かつ300m³ごとに検査ロットを構成して行う。1検査ロットにおける試験回数は3回とする。検査は適当な間隔をあけた任意の3台のトラックアジテータから採取した合計9個の供試体による試験結果を用いて行う。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生とする。

■ 構造体コンクリートの圧縮強度の検査は普通コンクリートでは、打込み工区ごと、打込み日ごと、かつ150m³またはその端数ごとに1回行う。1回の試験には適当な間隔をおいた3台の運搬車から1個ずつ採取した合計3個の供試体を用いる。
高強度コンクリートでは打込み日、打込み工区かつ300m³ごとに行う。検査には適当な間隔をあけた任意の3台のトラックアジテータから採取した合計9個の供試体を用いる。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生または構造体温度養生とする。

■ 使用するコンクリートの圧縮強度の判定は、JASS5による。
構造体コンクリートの圧縮強度の判定は、（c）調合および構造体コンクリート強度による。

■ コンクリートの試験は、公的試験機関、または第三者機関で行うこととし、第三者機関による場合は工事監理者の承認を得ること。

(2) 鉄　筋

(a) 施工

■ 鉄筋はJIS　G　3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）に適合するものを用いる。溶接金網および鉄筋格子は、JIS　G　3551（溶接金網および鉄筋格子）に適合するものを用いる。

□ 高強度せん断補強筋は、技術評価を取得し、建築基準法第37条の材料認定を受けたものを用いる。

■ 鉄筋の加工寸法、形状、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）～（3）」による。

■ 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手、機械式継手または溶接継手によることとし、鉄筋径と使用箇所を定め特記による。

表9．4　鉄筋の継手

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級				鉄筋の径	使用箇所
	(1)引張力最小部位	(2)(1)以外の部位 (注)				
		A　級	B　級	SA級		
■ 重ね継手	標準図による	＼	＼	＼	■ D（ 16 ）以下	
■ 圧接継手	■ 告示1463号第2項各号	■	＼	＼	■ D（ 19 ）以上	
□ 溶接継手	□ 告示1463号第3項各号	□	□	＼	□ D（　　）以上	
□ 機械式継手	□ 告示1463号第4項各号	□	□	□	□ D（　　）以上	

注）（1）以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって『鉄筋継手使用基準（2020年版建築物の構造関係技術基準解説書）』によって検討した部材の条件・仕様によること。

■ 機械式継手および圧接継手および溶接継手は（公社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」による他、所要の品質が得られるように工事計画および工事管理計画を定めて、工事監理者の承認を受ける。

■ ガス圧接の施工は、強風時または降雨時には原則として作業を行わない。ただし、風除け・覆いなどの設備をした場合には、工事監理者の承認を得て作業を行うことができる。

■ 圧接技量資格者は、（公社）日本鉄筋継手協会によって認証された技量適格性証明書を工事監理者に提出し、承認を受ける。

□ 機械式鉄筋定着工法に用いる定着板には信頼できる機関による性能証明書等を取得した定着金物を用いる。

(b) 検査

継手部の検査方法

各継手工法ごとの検査は平12建告1463号による他、具体的な検査方法は、（公社）日本鉄筋継手協会の仕様書を参照のこと。

表9．5　継手の検査

	継手方法	外観検査	引張試験	超音波探傷試験
1	ガス圧接	■有　100　%	□ 有 ■無　%　個	■ 有 □無　30箇所/ロット
2	溶　接	□有　%　%	□ 有 □無　%　個	□ 有 □無　%　個
3	機　械　式	□有　%		□ 有 □無　%　個

ガス圧接部分の検査を超音波探傷検査によって行う場合、最初の数ロットについては引張試験も併用し、1回の引張試験は5本以上とする。（1ロットは同一作業班が同一日中に作業した圧接箇所で 200箇所程度とする。）

■ 鉄筋の継手の試験・検査は、公的試験機関、または第三者機関で行うこととし、(公社)日本鉄筋継手協会「鉄筋継手部検査技術者技量検定規定」によって認定された技術者が行うこと。

(3) かぶり厚さ

■ 最小かぶり厚さは、表9．6に規定する設計かぶり厚さを10mm減じた値とする。

■ 設計かぶり厚さは、コンクリート打込み時の変形・移動などを考慮して、最小かぶり厚さが確保されるように、部位・部材ごとに定めるものとし、表9．6以上の値とする。

表9．6　設計かぶり厚さ（単位：mm）

構造体の計画供用期間の級		標準・長期		超長期	
部 材 の 種 類		屋　内	屋　外 (2)	屋　内	屋　外 (2)
構造部材	柱・梁・耐力壁	40	50	40	50
	床スラブ・屋根スラブ	30	40	40	50
非構造部材	構造部材と同等の耐久性を要求する部材	30	40	40	50
	計画供用期間中に維持保全を行う部材 (1)	30	40	(30)	(40)
直接土に接する柱・梁・壁・床および布基礎の立上り部分、擁壁の壁部分		50			
基礎、擁壁の基礎・底盤		70			

注）（1）計画供用期間の級が超長期で計画供用期間中に維持保全を行う部材では、維持保全の周期に応じて定める。
　　（2）計画供用期間の級が標準、長期および超長期で、耐久性上有効な仕上げを施す場合は、屋外側では設計かぶり厚さを10mm減じることができる。

■ 完成した構造体の各部位における最外側鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

■ コンクリート構造体に誘発目地・施工目地などを設ける場合は、建築基準法施工令第79条に規定する数値を満足し、構造耐力上必要な断面寸法を確保し、防水上および耐久性上有効な措置を講じれば上記によらなくても良い。

(4) 型　枠

■ 型枠および支保工の存置期間は、昭63年建告第1655号に基づき下表による。

表9．7　型枠存置日数　　昭和46年建設省告示第110号（昭和63年改正建設省告示第1655号）

種類		せ　き　板				支　柱		
部位		基礎、梁側、柱、壁		スラブ下、梁下		スラブ下		梁下
セメントの種類		早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種
存置期間の平均気温								
コンクリートの材令（日）	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
	5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
	5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度		※ 5．0 N／mm²		設計基準強度の50%		設計基準強度の		
						85%		100%

※　JASS　5では普通コンクリートの場合計画供用期間の級が標準にあっては5N／mm²以上、長期及び超長期の場合は10N／mm²以上、または高強度コンクリートの場合は10N／mm²以上。
注）1　片持ち梁、庇、スパン9．0m以上の梁下は、工事監理者の承認による。
注）2　大梁の支柱の盛替えは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。
注）3　支柱の盛替えは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注）4　盛替え後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注）5　支柱の盛替えは、小梁が終わってからスラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って盛り替えをしてはならない。
注）6　直上階に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱（大梁の支柱を除く）の盛替えを行わないこと。
注）7　支柱の盛替えは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動または衝撃を与えないように行うこと。

構造設計者
株式会社　コンパース
一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号　戸田　友一

１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号
株式会社　宮建築設計
徳島市福島１丁目５番６号
TEL　（088）－625－5505（代）
管理建築士　清水　康代　１級333707

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

・修正箇所は下線を引くこと

１．一般事項

（１）構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

（２）記号

ｄ…異形棒鋼の呼び名に用いた数値（径）　　Ｄ…部材の成、又は鉄筋内法直径

@…間隔　　ｒ…半径　　℄…中心線　　ℓ。…部分間の内法距離　　ｈ。…部材間の内法高さ

ＳＴ…あばら筋　　ＨＯＯＰ…帯筋　　Ｓ．ＨＯＯＰ…補強帯筋

２．鉄筋加工

（１）鉄筋の折り曲げ加工

図	折り曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内法直径（Ｄ）
180°　余長４ｄ以上	180° 135° 90°	SD295 SD345	D16以下	３ｄ以上
			D19～D41	４ｄ以上
135°　余長６ｄ以上		SD390	D41以下	５ｄ以上
90°　余長８ｄ以上	90°	SD490	D25以下	
			D29～D41	６ｄ以上

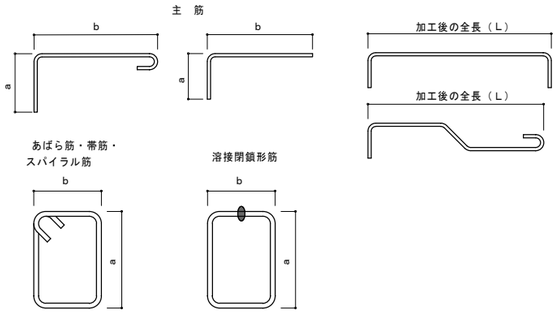
［注］（１）ｄは呼び名に用いた数値とする。
（２）スパイラル筋の重ね継手部に９０°フックを用いる場合は、余長は１２ｄ以上とする。
（３）片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で９０°フックまたは１３５°フックを用いる場合は、余長は４ｄ以上とする。
（４）スラブ筋、壁筋には、溶接金網を除いて丸鋼を使用しない。
（５）折り曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。
（６）ＳＤ４９０の鉄筋を９０°を超える曲げ角度で折り曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

（２）加工寸法の許容差

（mm）

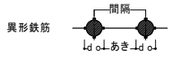
項目			符号	許容差
各加工寸法(1)	主筋	D25以下	a，b	±15
		D29以上D41以下	a，b	±20
	あばら筋・帯筋・スパイラル筋		a，b	± 5
加工後の全長			L	±20

［注］（１）各加工寸法及び加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



（３）鉄筋のあき

異形鉄筋では呼び名に用いた数値１．５ｄ以上、粗骨材の最大寸法の１．２５倍以上かつ２５mmのうち最も大きい値。

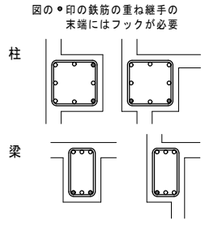


（４）鉄筋のフック

ａ～ｅに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。

ａ．あばら筋、帯筋、および幅止メ筋
ｂ．煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
ｃ．柱、梁（基礎梁は除く）の出すみ部分
　　および下端の両端にある場合の鉄筋（右図参照）
ｄ．単純梁の下端筋
ｅ．その他、本配筋標準に記載する箇所

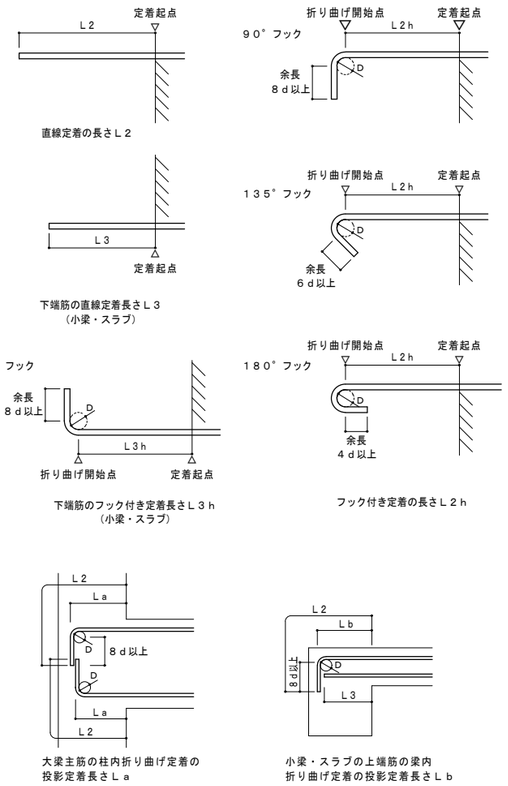
図の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要



（５）定着長さ

鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	定着の長さ 一般 L2（フックなし）	一般 L2h（フックあり）	一般 La(3)	一般 Lb	小梁下端筋 L3（フックなし）	小梁下端筋 L3h（フックあり）	スラブ下端筋 L3（フックなし）
SD295	18	40d	30d	20d	15d	20d	10d	10d かつ 150以上
	21	35d	25d	15d	15d			
	24～27	30d	20d	15d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	25d	15d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD345	18	40d	30d	20d	20d			
	21	35d	25d	20d	20d			
	24～27	35d	25d	20d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	30d	20d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD390	21	40d	30d	20d	20d			
	24～27	40d	30d	20d	20d			
	30～36	35d	25d	20d	15d			
	39～45	35d	25d	15d	15d			
	48～60	30d	20d	15d	15d			
SD490	24～27	45d	35d	25d	—	—	—	—
	30～36	40d	30d	25d	—			
	39～45	40d	30d	20d	—			
	48～60	35d	25d	20d	—			

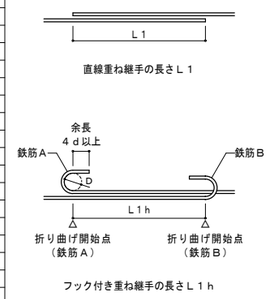
［注］（１）フック付き鉄筋の定着長さＬ２ｈは、定着起点から鉄筋の折り曲げ開始点までの距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。
（２）フック部の折り曲げ内法直径Ｄ及び余長は、「鉄筋の折り曲げ加工」の表による。
（３）梁主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さがＬ２ｈ確保できない場合は折り曲げ定着とし、全定着長をＬ２以上とするとともに、水平投影長さをＬａ以上とし、余長を８ｄ以上とする。尚、Ｌａの値は原則として柱せいの３／４倍以上とする。
（４）耐圧スラブの下端筋の定着長は一般定着Ｌ２とする。
（５）構造設計標準仕様より構造計算ルートが３以外の場合、柱への定着長さは４０ｄ以上とする。



（６）継手

■重ね継手

鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	重ね継手長さ L1（フックなし）	重ね継手長さ L1h（フックあり）
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24～27	35d	25d
	30～36	35d	25d
	39～45	30d	20d
	48～60	30d	20d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24～27	40d	30d
	30～36	35d	25d
	39～45	35d	25d
	48～60	30d	20d
SD390	21	50d	35d
	24～27	45d	35d
	30～36	40d	30d
	39～45	40d	30d
	48～60	35d	25d
SD490	24～27	55d	40d
	30～36	50d	35d
	39～45	45d	35d
	48～60	40d	30d

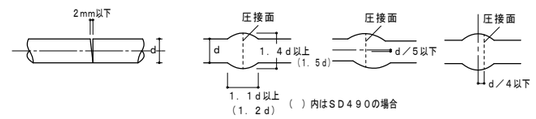


［注］（１）表中のｄは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。
（２）直径の異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは、細い方のｄによる。
（３）フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の折り曲げ開始点間の距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は継手長さに含まない。

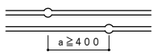
■継手に関する注意点

１．継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
２．Ｄ２９以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。
３．鉄筋径ｄの差が７mmを超える場合は、圧接としてはならない。
４．ガス圧接継手の形状、および継手の配置は下図による。

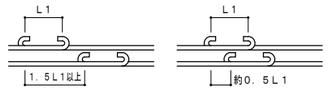
・ガス圧接形状（平成１２年建設省告示１４６３号下図のほか、折れ曲がり、焼き割れ、へこみ、垂れ下がり及び内部欠損がないもの）



・圧接継手



・重ね継手（下図のいずれかとする）

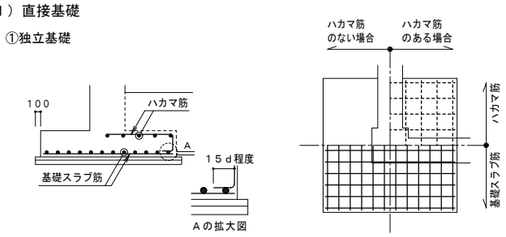


５．溶接継手および機械式継手を用いる場合は、信頼できる機関の評定等を受けたＡ級継手工法とする。
６．非破壊検査は工事監理者が承認した信頼できる検査機関で行うこと。

３．杭・基礎　（配筋については地震力等の水平力等を考慮して別途検討すること）

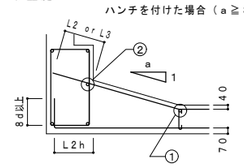
（１）直接基礎

①独立基礎



②ベタ基礎

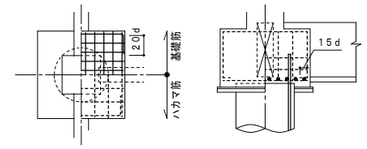
ハンチを付けた場合（ａ≧３）



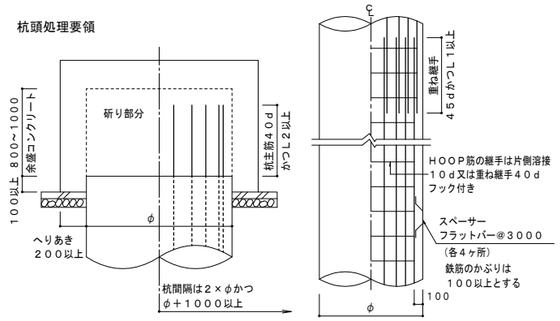
１．耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう
　但し上筋と下筋を読みかえる
２．①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
３．②の鉄筋はＤ１３以上
４．埋戻し土のある場合は４０を７０とする

（２）杭基礎

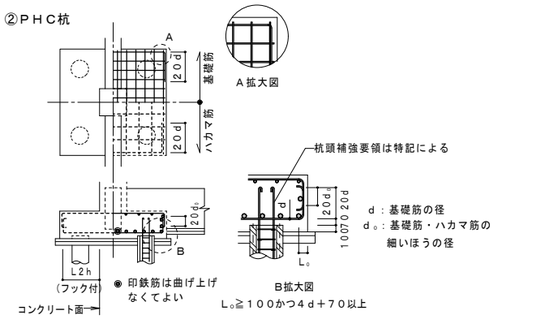
①場所打ち杭



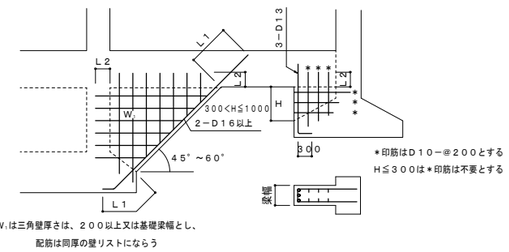
杭頭処理要領



②ＰＨＣ杭



（３）基礎接合部の補強



構造設計者
株式会社　コンパース
一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号　戸田　友一

徳島県県土整備部営繕課	●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事	●図面番号　S-03	１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号 株式会社　宮建築設計 徳島市福島１丁目５番６号 TEL　(088)－625－5505（代） 管理建築士　清水　康代　１級333707
	●図面名　鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)	●縮尺　――	

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

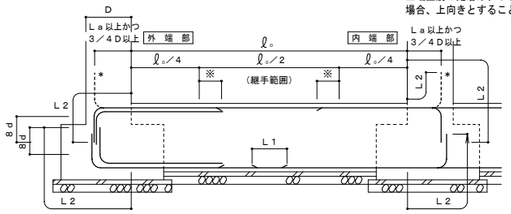
・修正箇所は下線を引くこと

４．基礎梁

（１）独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）

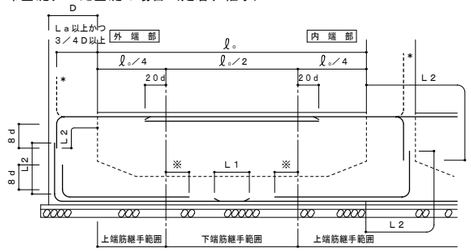
（長期荷重が支配的な場合の継手は６．（２）大梁継手位置とする）

＊上端主筋の定着は、やむをえない場合、上向きとすることができる



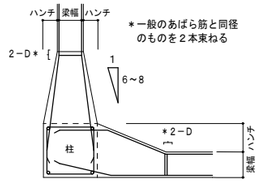
※主筋のカットオフ長さはℓ。／４＋１５ｄを基本とし、特別な長さを要する部分は部材リストによる

（２）布基礎、べた基礎の場合（定着、継手）



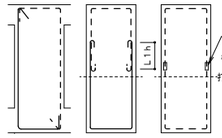
※主筋のカットオフ長さはℓ。／４＋１５ｄを基本とし、特別な長さを要する部分は部材リストによる

（３）水平ハンチの場合のあばら筋加工要領



＊一般のあばら筋と同径のものを２本束ねる

（４）せいの高い梁のあばら筋加工要領図

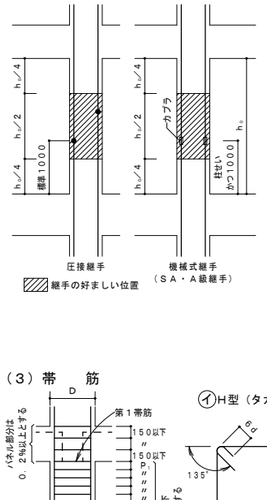


［注］（イ）で、└┘を使用してよいが、└┘は使用してはいけない。

（ロ）では、あばら筋の継手は１８０°フック付きとする。

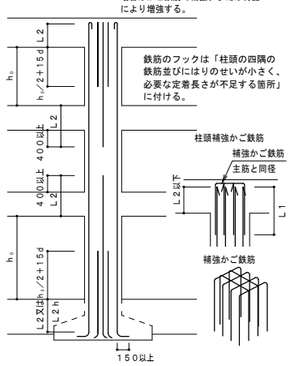
５．柱

（１）柱主筋の継手位置

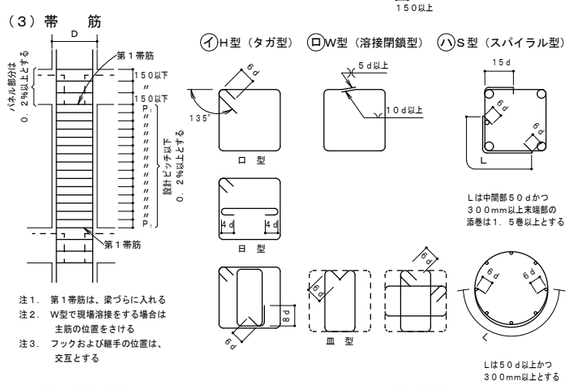


（２）柱主筋の定着

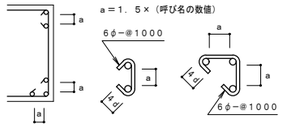
柱、梁の定着Ｌ２以上が確保されていない場合はかご鉄筋で補強、または特記により増強する。



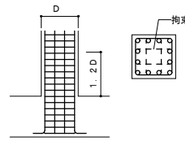
（３）帯　筋



（４）寄せ筋の保持



（５）柱脚部の補強



１階柱脚の主筋は梁上から柱せいの１．２倍の範囲を拘束筋で拘束する

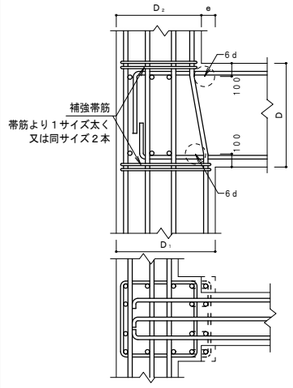
拘束筋は以下による

■ 帯筋と同径・同ピッチ、Ｘ・Ｙ　２巻ずつ

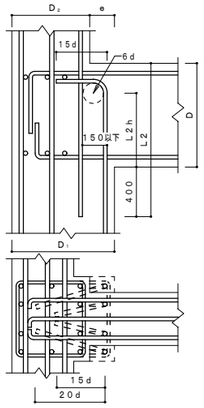
□ 図示による

（６）絞り

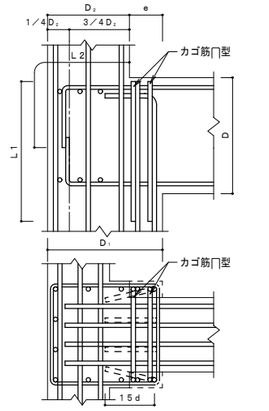
（ａ）e≦D／6かつ150



（ｂ）150≧e>D／6



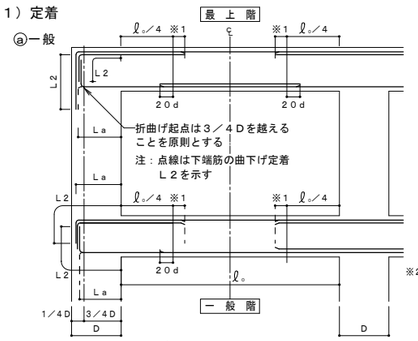
（ｃ）e＝150以上（下図を参考に設計図書に追記する）



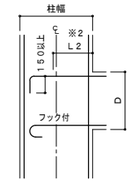
６．大梁

（１）定着

ⓐ一般



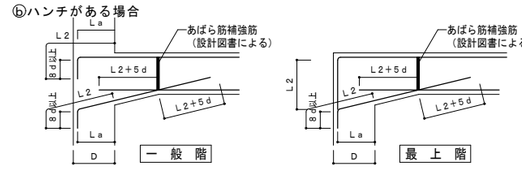
柱幅が大きい場合



※2 柱幅が大きくて、直線部だけでＬ2がとれる場合でも柱中心線を超えて中間折曲げテール長１５０以上又は１８０°フック付きとする

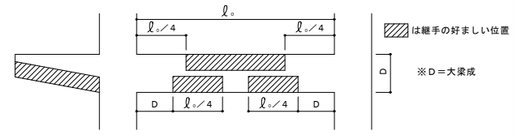
※1 主筋のカットオフ長さはℓ。／４＋１５ｄを基本とし、特別な長さを要する部分は設計図書による

ⓑハンチがある場合

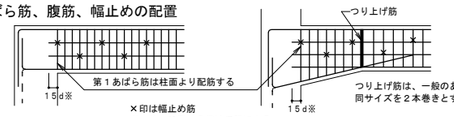


（２）大梁主筋の継手

（ＳＡ級、Ａ級継手を使用する場合の継手位置は特記による）



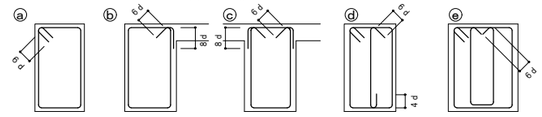
（３）あばら筋、腹筋、幅止めの配置



×印は幅止め筋
※ねじれを受ける梁は特記による

（４）あばら筋の型

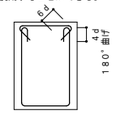
（注、床版がない場合は１３５°以上のフックとする）



（イ）原則としてⓐのフック先曲とする。片側床版付（Ｌ型）梁でⓑ、両側床版付（Ｔ型）梁でⓒ又はⓑとすることができる。

（ロ）フックの位置はⓐにあっては交互、ⓑにあってはスラブ付側とする。

ⓕ 梁成の大きい場合やＳＲＣ造のあばら筋の納まりに使用することができる。

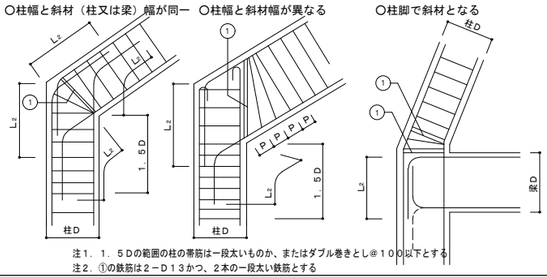


（５）幅止め筋の本数、加工

腹　筋	D<600　不要	
	600≦D<900	2−D10　1段
	900≦D<1200	4−D10　2段
	1200≦D	D10@300以内
	1200以上	D13@300以内
幅止め筋	D10@1000以内で割り付ける	

（６）斜め柱・斜め梁

○柱幅と斜材（柱又は梁）幅が同一　○柱幅と斜材幅が異なる　○柱脚で斜材となる

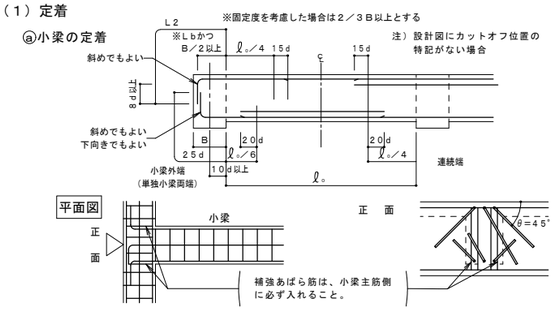


注１．１．５Ｄの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、またはダブル巻きとし@１００以下とする
注２．①の鉄筋は２−Ｄ１３かつ、２本の一段太い鉄筋とする

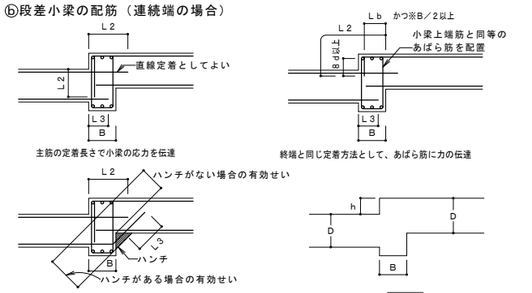
７．小梁、片持梁

（１）定着

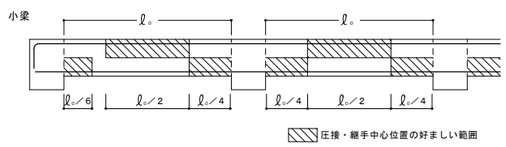
ⓐ小梁の定着



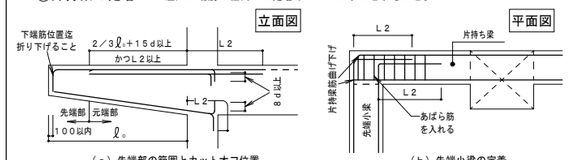
ⓑ段差小梁の配筋（連続端の場合）



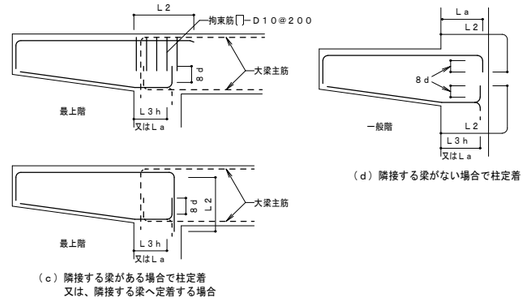
ⓒ小梁筋の継手位置



ⓓ片持梁の定着　注）上端筋の柱内への定着は３／４Ｄ以上とすること。



（ａ）先端部の範囲とカットオフ位置　（ｂ）先端小梁の定着



（ｄ）隣接する梁がない場合で柱定着

（ｃ）隣接する梁がある場合で柱定着
又は、隣接する梁へ定着する場合

構造設計者
株式会社　コンパース
一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号　戸田　友一

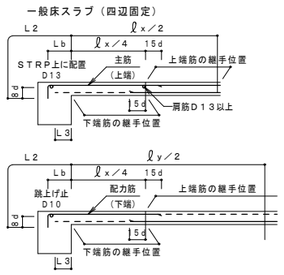
徳島県県土整備部営繕課	●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事	●図面番号　S-04	１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号 株式会社　宮建築設計 徳島市福島１丁目５番６号 TEL　（088）−625−5505（代） 管理建築士　清水　康代　１級333707
	●図面名　鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)	●縮尺　――	

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（３）

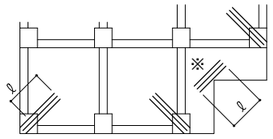
８．床　　版

（１）定着および継手

一般床スラブ（四辺固定）



（２）屋根スラブの補強

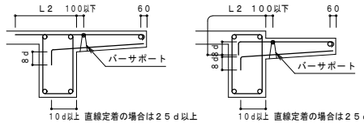


ⓐ 補強筋は各３－Ｄ１３又はスラブ主筋の同一径で ℓ＝１５００とし、上端筋の上に配筋する。配筋の際かぶり厚に注意すること。

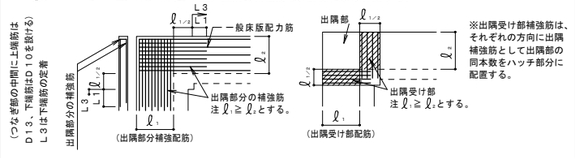
ⓑ ※の箇所（入隅）は各階補強する

（３）片持床スラブ定着及び出隅部補強

ⓐ片持床スラブ定着

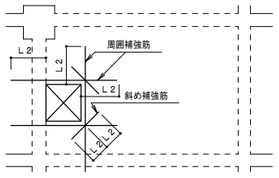


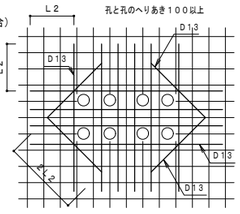
ⓑ片持スラブ出隅部補強　注）出隅の補強筋は、計算により算出する。



※出隅受け部補強筋は、それぞれの方向に出隅補強筋として出隅部の同本数をハッチ部分に配置する。

（４）床版開口部の補強　（開口の径５００以下程度の場合）

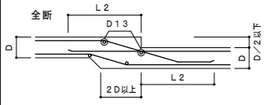


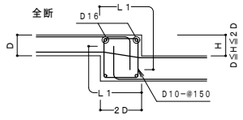


床版厚さＤ	周　囲	斜　め
Ｄ≦１５０	各２－Ｄ１３	各１－Ｄ１３
１５０＜Ｄ≦３００	各２－Ｄ１３	各２－Ｄ１３
３００＜Ｄ≦５００	各２－Ｄ１９	各２－Ｄ１６

注）設備の小開口が連続してあく場合は縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切断される鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。

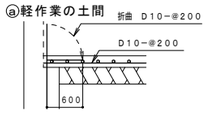
（５）床版段差



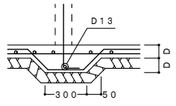


（６）土間コンクリート

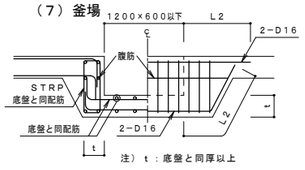
ⓐ軽作業の土間



ⓑ間仕切壁との交叉部



（７）釜場



注）ｔ：底盤と同厚以上

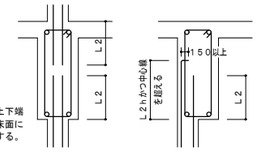
（８）打継ぎ補強（ダメ穴打断面について）

●設計配筋間隔の１／２ピッチ　長さ２Ｌ1以上
●無筋部分Ｄ１０−@２００　長さ８００以上

９．壁

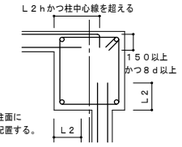
（１）定着

ⓐ梁に



横筋の配置は上下端とも梁、又は床面に一段目を配置する。

ⓑ柱に（平面図）

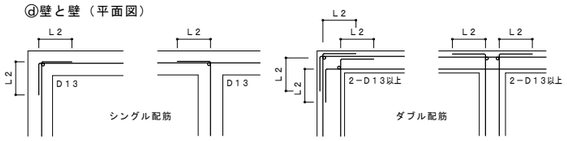


縦筋は、柱面に一本目を配置する。

ⓒ床に（非耐力壁とスラブが取り合う場合）

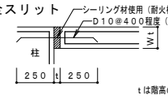
ⓓは盛配筋と同じ

ⓓ壁と壁（平面図）



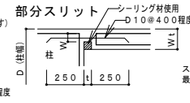
（２）スリット部（設計図に記入のあるとき）

完全スリット



tは階高の１／１００程度

部分スリット

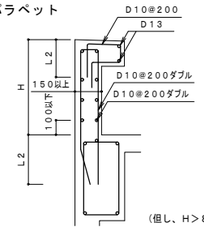


Ｗ≦Ｄ／６．Ｗｔ／２かつ７cm

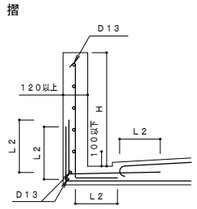
スリット部の鉄筋の被り厚さは最少かぶり厚さ以上とする。

（３）手摺、パラペット

パラペット



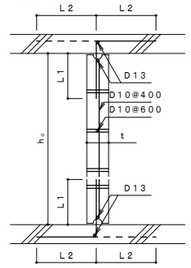
手　摺



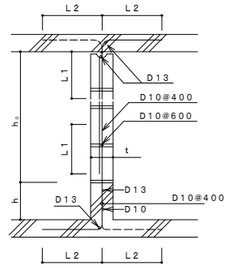
（但し、Ｈ＞８００以上の場合、設計図による）

（４）コンクリートブロック帳壁

一般の場合

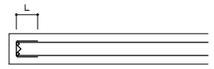


下部防水立上りのある場合



注）ｈ0≦２５ｔかつ３５００以下とする。但し直交方向２５ｔ以内に壁、又は柱がある場合は除く
注）ｈはコンクリートブロック段数調整寸法とする。但し、２００≦ｈ≦４００
注）継手部は必ずモルタルを充填すること

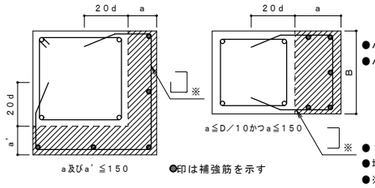
（５）耐震壁端部の納まり



：鉄筋径および間隔は盛筋と同等、同ピッチ以上とし、壁筋に１３５°フックを設けた場合のＬはｄとする。
壁筋にフックを設けない場合のＬはＬ２とする。

１０．柱、梁増打コンクリート補強（　増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと　）

（１）柱



a及びa'≦150　　●印は補強筋を示す

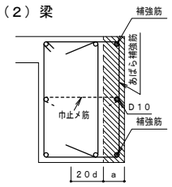
●ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
●ハッチ部分の面積　Ａ　cm²

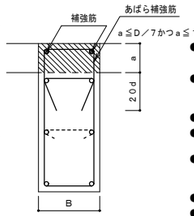
補強タテ筋

A<500	500≦A<1000
3−D16	4−D16

●１５０以上の増打ちは図示による。
●増打ち５０以下は補強なし。
●※柱ＨＯＯＰと同径、同ピッチとする。

（２）梁





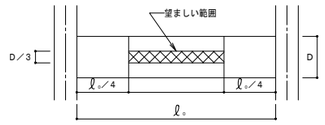
●印は補強筋を示す

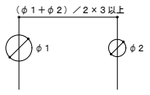
●補強筋は、梁主筋の１段落とし径（Ｄ１６以上）とする。
●あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
●腹筋Ｄ１０ピッチは、梁の腹筋と合わせる。
●Ｂ≧４００の場合は補強筋を３本とする。
●梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。
●ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
●１５０以上の増打ちは図示による。
●増打ち５０以下は補強なし。

１１．梁貫通孔補強（開口補強筋については計算により確認すること）

（１）設置可能範囲

梁端部（スパンℓ／１０以内かつ２Ｄ以内）は原則として避ける

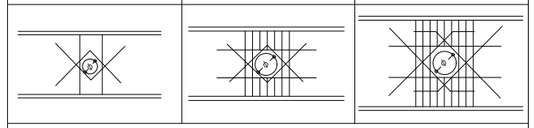




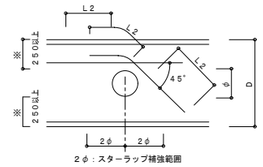
貫通孔が連続して間隔等が取れない場合は設計者又は工事監理者と打合せのこと。

（２）鉄筋標準配筋　　但しφ≦Ｄ／３とする

８０≦φ≦１００	１００＜φ≦１５０	１５０＜φ≦２５０
折　筋　２−（２−Ｄ１３） 縦　筋　ＳＴ　２−Ｄ１３	折　筋　２−（２−Ｄ１３） 縦　筋　ＳＴ　２−Ｄ１３−@５０ 横　筋　２−（２−Ｄ１３） 上下縦筋　ＳＴ　２−Ｄ１３−@５０	斜　筋　４−（２−Ｄ１３） 縦　筋　ＳＴ　２−Ｄ１３−@５０ 横　筋　２−（２−Ｄ１３） 上下縦筋　ＳＴ　２−Ｄ１３−@５０



孔補強の有効範囲と定着長さのとり方



2φ：スターラップ補強範囲

※部分について計算で確認された場合は左記の位置寸法によらなくて良い。

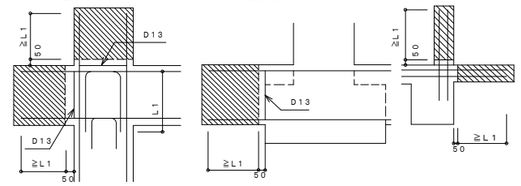
（３）　既製品　（使用する際には、設計者又は工事監理者と打合せのこと）

ウェブレン、ダイヤレン　等　日本建築センター評価取得品とする。
施工前に計算書を提出し、承認を得ること。
設計時に使用する評価取得品については計算書を提出する事。

■リング型　　□パイプ型　　□金網型　　□プレート型

１２．増築予定　（将来増築予定のコンクリート増打ち部分は、増築時の鉄筋継手工法を考慮して措置する）

（１）柱、梁　　（２）基礎梁　　（３）床版、壁



構造設計者
株式会社　コンパース
一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号　戸田　友一

徳島県県土整備部営繕課	●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事	●図面番号　S-05	１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号 株式会社　宮建築設計 徳島市福島１丁目５番６号 TEL　（088）−625−5505（代） 管理建築士　清水　康代　１級333707
	●図面名　鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3)	●縮尺　――	

鉄　骨　構　造　標　準　図　（1）

※修正箇所は下線を引くこと

1．一般事項

（1）材料及び検査

（a） 構造設計特記仕様による

（b） 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが４０㎜以下のものとする
　　但し、ベースプレートの厚さは除く

（c） 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する

（2） 工作一般

（a） 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る

（b） 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による

（c） 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする

（3） 高力ボルト接合

（a） 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない

（b） 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを座金外径２倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。但し、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面粗さが、５０μｍＲｚ以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。

（c） 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。

（4） 溶接接合

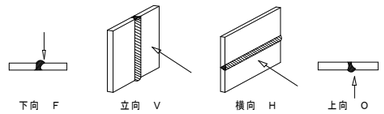
（a） 平成１２年建設省告示第１４６４号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶着金属の性能を満足すること。

（b） 溶接技能者
　　溶接技能者は施工する溶接に適応するＪＩＳ　Ｚ３８０１（手溶接）又はＪＩＳ　Ｚ３８４１（半自動溶接）の溶接技術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする

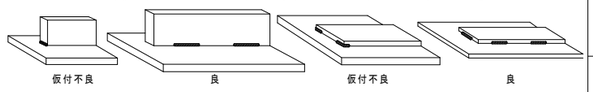
（c） 溶接機器
　　（イ） 交流アーク溶接機　３００Ａ～５００Ａ　　（ニ） 炭酸ガスアーク半自動溶接機
　　（ロ） アークエアーガウジング機（直流）　　（ホ） 溶接電流を測定する電流計
　　（ハ） サブマージアーク溶接機一式　　（ヘ） 溶接棒乾燥器

（d） 溶接方法
　　アーク手溶接（ＭＣ）　　ガスシールドアーク半自動溶接（ＧＣ）
　　セルフ（ノンガス）シールドアーク半自動溶接（ＮＧＣ）　　アークエアーガウジング（ＡＡＧ）

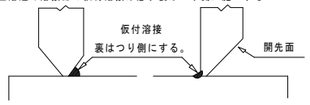
（e） 溶接姿勢



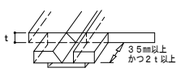
（f） 組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う
　　（イ） 仮付位置
　　組立溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける



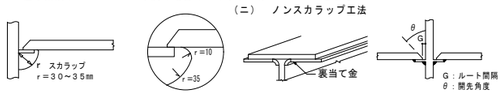
　　（ロ） 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する



（g） 溶接施工
　　（イ） エンドタブ
　　Ⅰ）完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
　　Ⅱ） エンドタブの材質は、母材と同質とする
　　Ⅲ） エンドタブの長さは、ＭＣ：３５㎜以上
　　ＮＧＣ、ＧＣ：４０㎜以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より１０㎜程度残し切断して、グラインダー仕上げとする
　　Ⅳ） 固形エンドタブを使用する場合、溶接技能者はJIS Z 3841の溶接技能検定に合格した有資格者で、固形エンドタブ工法のための溶接技能者技量付加試験等により、工事監理者の承認を得る。



　　（ロ） 裏当て金
　　材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で６㎜、半自動溶接で９㎜以上とし、巾は２５ｍｍ以上を原則とする。但し、溶接性能が確認できれば監理者の承認を得て変更することが出来る。
　　（ハ） スカラップ　半径は３０～３５㎜と、１０㎜のダブルアールとする
　　但し梁成がＤ＝１５０㎜未満の場合のスカラップはｒ＝２０㎜とする
　　（ニ） ノンスカラップ工法



　　（ホ） 裏はつり
　　規準図の溶接においてＡＡＧと記載のある部分は全て、アークエアガウジングを行ったうえで、部材に確認マークをつける
　　（ヘ） 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部を痛めない様に、養生を行なう

（5） 塗装

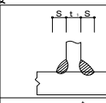
コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

2．溶接規準図

（注） ｆ：余盛　Ｇ：ルート間隔　Ｒ：フェース　Ｓ：脚長　（単位㎜）

（1）隅肉溶接

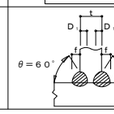
①



t≦16㎜				
t	7以下	8～10	11～13	14～16
S	6	7	10	12

・t₁はt₁、t₂の小なる方とする。余盛は（１＋０．１Ｓ）㎜以下とする。
・軸力が加わる場合のＳは母材と同厚とするのが望ましい。

②



t＞16㎜							
t	19	22	25	28	32	36	40
S	12	13	15	17	19	21	24

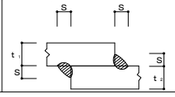
・ｔはｔ₁、ｔ₂の小なる方とする。余盛は（１＋０．１Ｓ）㎜以下とする。
・軸力が加わる場合のＳは母材と同厚とするのが望ましい。

Ｒ≦２　ｔ／４≦ｆ≦１０㎜　ｔ≦ｔ₁

t	t＞16㎜
溶接姿勢	F．V

（2）隅肉溶接（片面溶接）

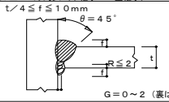
③



板厚と脚長は（１）隅肉溶接と同等とする。

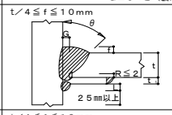
（3） 完全溶込み溶接（平継手　Ｔ型継手）

④



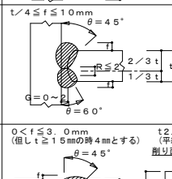
t	6＜t＜19㎜
溶接姿勢	F．V

⑤



	MC			NGC			
t㎜	θ	G	t₁	L	θ	G	t₁	L
6≦t	35°	9	9	8	35°	7	9	8
					30°	7	9	8
溶接姿勢	F．V							

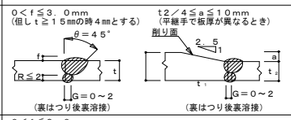
⑥



T形突合せ継手余盛	
のど厚ｔ㎜	余盛の高さ㎜
t≦4	1
4＜t≦12	2
12＜t≦19	3
19＜t	4

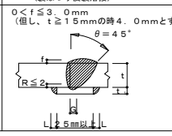
t	t≧19㎜
溶接姿勢	F．V

⑦



t	6＜t＜19㎜
溶接姿勢	F．V

⑧

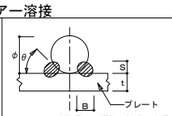


	MC，NGC				GC			
t㎜	θ	G	t₁	L	θ	G	t₁	L
6≦t	35°	9	9	5	35°	7	9	8
					30°	7	9	8
溶接姿勢	F．V							

（4） フレアー溶接

K形の場合

⑨

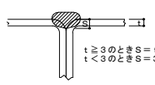


・フレアー溶接長は、鋼板に接する全長とする
・９㎜～１６㎜は１パス以上、１９㎜以上は２パス以上とする
溶接棒角度θは30°～40°とする

寸法（㎜）		
φ	B	S
9	7	4
13	8	4．5
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

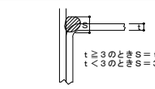
軽量形鋼Ｖ型溶接

⑩



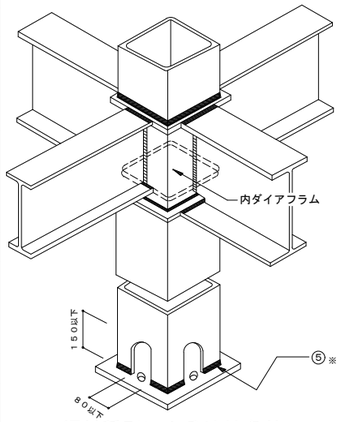
軽量形鋼Ｌ型溶接

⑪

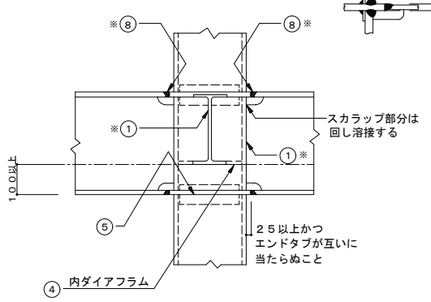


※溶接記号番号を○中に記入のこと

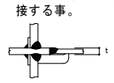
●ＢＯＸ型　（通しダイアフラムの場合）



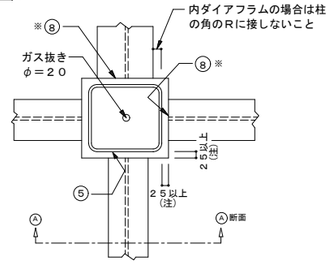
Ⓐ－Ⓐ 断面図



⑦※はりフランジは、通しダイアフラムの厚み（ｔ）の内部で溶接する事。



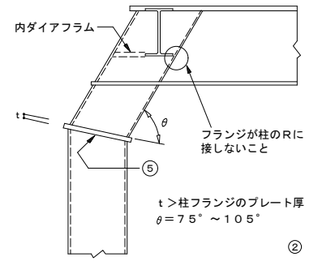
平面詳細



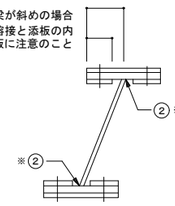
（注）柱板厚が２８㎜以上の場合、３０㎜以上とする。

① ※ｔ＞１６㎜の場合の溶接は、②又は④～⑥とする。

●柱が途中で折れる場合及梁成が異なる場合



大梁が斜めの場合は溶接と添板の内側板に注意のこと



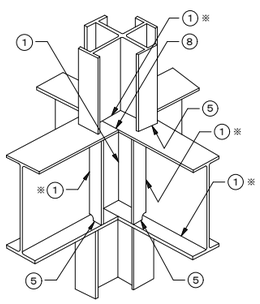
② ※ｔ＞１６㎜の場合の溶接は、④～⑥とする。

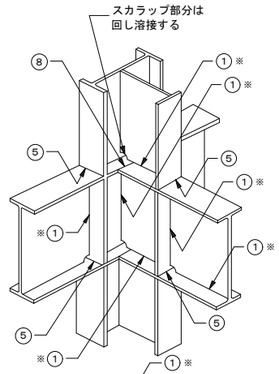
● 鋼材種別による溶接条件

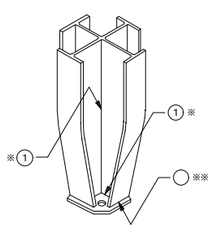
鋼材の種類		溶接材料	入熱(KJ/cm)	パス間温度(℃)
400N/mm²級鋼	JIS Z 3312	YGW11，15	40以下	350以下
		YGW18，19	30以下	450以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U，T490Tx-yMA-U	40以下	350以下
		T550Tx-yCA-U，T550Tx-yMA-U	30以下	450以下
490N/mm²級鋼	JIS Z 3312	YGW11，15	30以下	250以下
		YGW18，19	40以下	350以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U，T490Tx-yMA-U	30以下	250以下
		T550Tx-yCA-U，T550Tx-yMA-U	40以下	350以下
520N/mm²級鋼	JIS Z 3312	YGW18，19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U，T550Tx-yMA-U		
400N/mm²級鋼 STKR・BCR・BCPに限る	JIS Z 3312	YGW11，15	30以下	250以下
		YGW18，19	40以下	350以下
	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U，T550Tx-yMA-U	40以下	350以下
490N/mm²級鋼	JIS Z 3312	YGW18，19	30以下	250以下
STKR・BCPに限る	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U，T550Tx-yMA-U	30以下	250以下

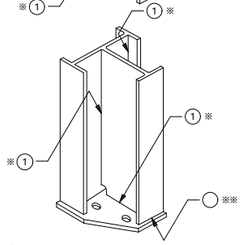
注）ＳＴＫＲ、ＢＣＲ、ＢＣＰ材はＪＩＳ　Ｚ　３３１２のみ使用可
「新構造設計特記仕様その１　６．鉄骨工事（２）」口認定または登録工場」のグレード別に定められた適用範囲と溶接条件制限事項による。

●　型

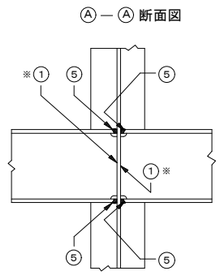


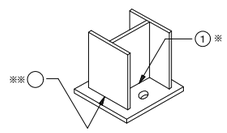




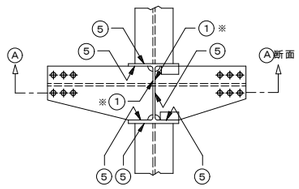


Ⓐ－Ⓐ 断面図





平面詳細



① ※ｔ＞１６㎜の場合の溶接は、②又は④～⑥とする。

○ ※※　印は設計者が記入すること。

構造設計者
株式会社　コンパース
一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号　戸田　友一

徳島県県土整備部営繕課	●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事	●図面番号　S-06	１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号 株式会社　宮建築設計 徳島市福島１丁目５番６号 TEL　(088)－625－5505（代） 管理建築士　清水　康代　１級333707
	●図面名　鉄骨構造標準図(1)	●縮尺　――	

鉄　骨　構　造　標　準　図　（２）

※修正箇所は下線を引くこと

３．継手規準図、その他

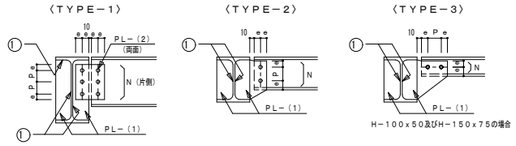
（１）　高力ボルト、ボルト、アンカーボルトのピッチ（Ｐ）

ボルト穴径・最小縁端距離（mm）

	呼び径　d	ボルト穴径	最小縁端距離　（e）				ピッチ　（P）	
			（1）	（2）	（3）	(2)（3）の標準	最小	標準
	M16	18	40	28	22	40	40	60
	M20	22	50	34	26	40	50	60
	M22	24	55	38	28	40	55	60
	M24	26	60	44	32	45	60	70
アンカーボルト（〜）内はボルトを示す	M16	21（16．5）		28	22	（40）	（40）	（60）
	M20	25（20．5）		34	26	（40）	（50）	（60）
	M22	27（22．5）		38	28	（40）	（55）	（60）
	M24	29（24．5）		44	32	（45）	（60）	（70）
	M27	32		49	36			
	M30	35		54	40			
	M34以上	呼び径＋5		9d／5	4d／3			

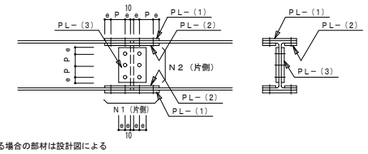
〔注〕　（1）引張材の接合部で応力方向にボルトが３本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
　　（2）せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離
　　（3）圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

（２）　ピン接合梁継手リスト



符　号	タイプ	部　　材	ＰＬ－（１）　ＰＬ－（２）	Ｎ－径

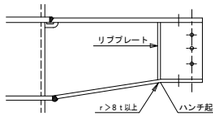
（３）　梁剛接合継手リスト（SCSS-H97による）



注）端部をＢＨとする場合の部材は設計図による

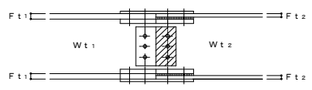
符　号	部　　材	フランジ			ウエブ	
		ＰＬ－（１）	ＰＬ－（２）	Ｎ１－径	ＰＬ－（３）	Ｎ２－径

（４）　ハンチ部の継手



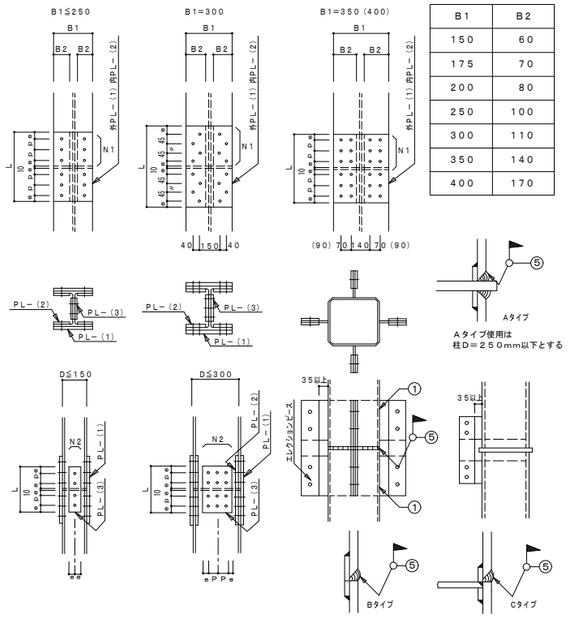
ハンチ勾配は普通１：４程度であるが構造図による
ｒ：半径　ｔ：板厚

フランジ及ウエブ厚の差のある場合



Ｆｔ１－Ｆｔ２
Ｗｔ１－Ｗｔ２≧１mmフィラプレート併用の事

（５）　柱継手リスト



B1	B2
150	60
175	70
200	80
250	100
300	110
350	140
400	170

注）　現場溶接は原則として超音波探傷試験を１００%を行う

符　号	部　　材	フランジ			ウエブ	
		ＰＬ－（１）	ＰＬ－（２）	Ｎ１－径	ＰＬ－（３）	Ｎ２－径

（６）　鉄筋ブレース　（ＪＩＳ規格品とする…ＪＩＳ　Ａ　5540…2008／5541…2008）

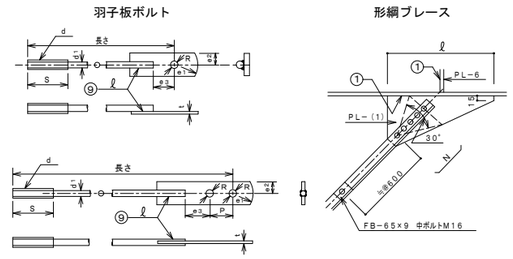
（ａ）　羽子板ボルト

ねじの呼び（d）			M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径d_1	最　大		10．83	12．66	14．66	16．33	18．33	20．33	22．00
	最　小		10．59	12．41	14．41	16．07	18．07	20．07	21．69
調整ねじの長さ		S	100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト穴径 許容差＋０．－０．５mm		R	13．0	17．0	17．0	21．5	21．5	23．5	21．5
はしあき（最小）（2）		e_1	40	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき（最小）（1）	e_2	28	28	28	34	34	38	38
	板　厚	t	6	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき（最小）（1）	e_2	25．0	25．0	25．0	32．5	32．5	37．5	37．5
	板　厚	t	5	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付ボルト穴心のあき（最小）		e_3	52	52	59	66	66	73	70
溶接長さ（最小）		ℓ	40	50	55	60	75	85	85
取付ボルト（2）	種　類		ＪＩＳ　Ｂ　1186　２種高力ボルト（Ｆ１０Ｔ）						
	ねじの呼び		M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20
	本　数		1	1	1	1	1	1	2

注　（1）　e_1、e_2が確保されていれば形状は自由でよい
　　（2）　羽子板とガセットプレートの場合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断（支圧）接合とする

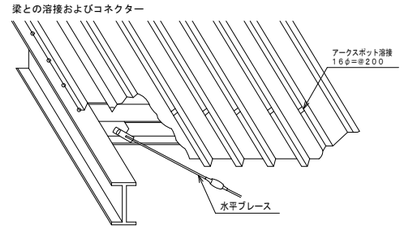
（ｂ）　形鋼ブレース

符　号	部　　材	ＰＬ－（１）	Ｎ－径	ℓ

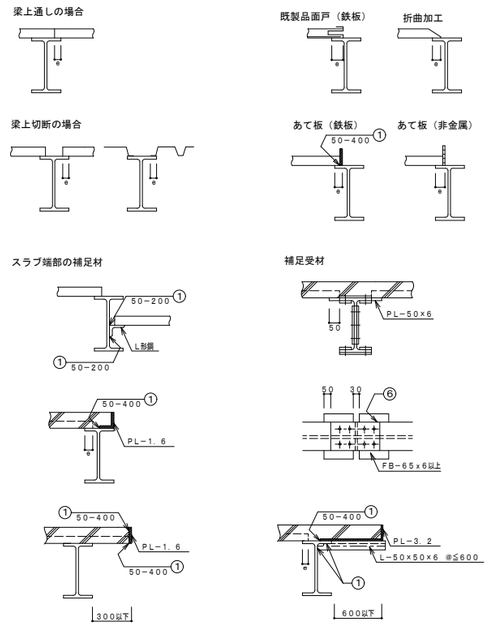


（７）　デッキプレート（床剛性を考慮する合成床、合成梁のときは構造図参照）

梁との溶接およびコネクター

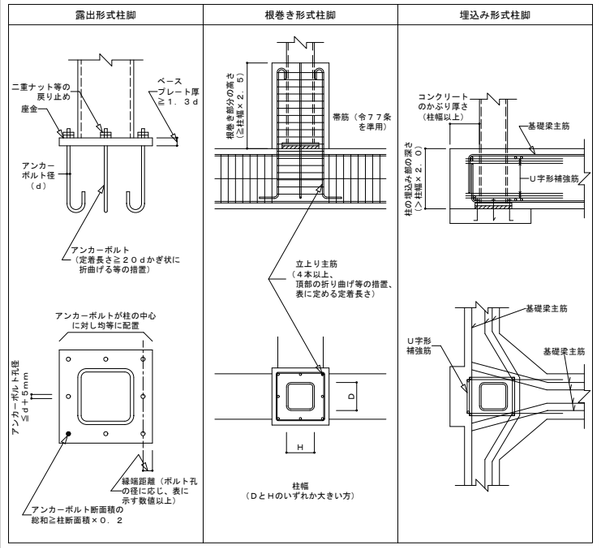


受梁へのかかり寸法及び端部処理　e≧35mm



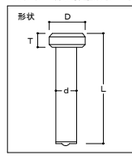
（８）　柱脚

注）許容応力度計算を行わなかった場合の構造形式
※構造用アンカーボルトは原則としてJIS B 1220, JIS B 1221を使用する。



（９）　頭付きスタッド　（ＪＩＳ　Ｂ　1198 − 2011）

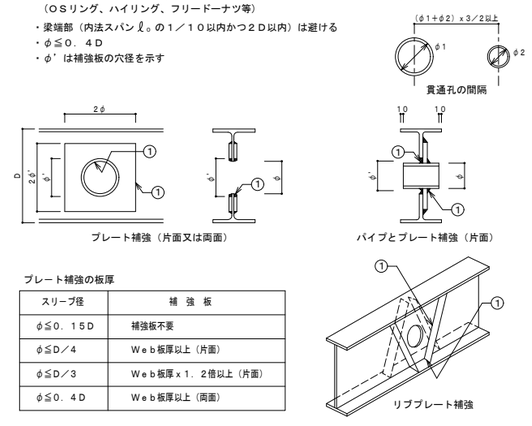
スタッド材の標準形状・寸法



スタッド材				
呼び名	軸径d mm	頭径D mm	頭高さT mm	溶接後の長さL mm
φ13mm	13.0	25.0	8.0	80 100 120
φ16mm	16.0	29.0	8.0	80 100 120
φ19mm	19.0	32.0	10.0	80 100 120 150
φ22mm	22.0	35.0	10.0	80 100 120 150
φ25mm	25.0	41.0	12.0	120 150 170

（１０）　梁貫通補強

・既製品を使用する場合で計算により確認された場合は下記の位置、寸法及び補強方法によらなくて良い。
　（ＯＳリング、ハイリング、フリードーナツ等）
・梁端部（内法スパンℓ₀の１／１０以内かつ２Ｄ以内）は避ける
・φ≦０．４Ｄ
・φ’は補強板の穴径を示す



プレート補強の板厚

スリーブ径	補　強　板
φ≦０．１５Ｄ	補強板不要
φ≦Ｄ／４	Ｗｅｂ板厚以上（片面）
φ≦Ｄ／３	Ｗｅｂ板厚ｘ１．２倍以上（片面）
φ≦０．４Ｄ	Ｗｅｂ板厚以上（両面）

構造設計者
株式会社　コンパース
一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号　戸田　友一

徳島県県土整備部営繕課	●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事	●図面番号　S-07	１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号 株式会社　宮建築設計 徳島市福島１丁目５番６号 TEL　(088) −625−5505（代） 管理建築士　清水　康代　１級333707
	●図面名　鉄骨構造標準図(2)	●縮尺　――	

ベースパックⅡ 型

角形鋼管
F値295N/mm²以下
□-350×350 ～ □-550×550 用

（一財）日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-17」（平成30年9月21日付）

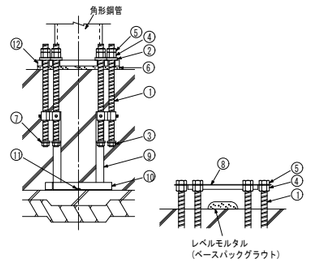
ベースパック柱脚工法 設計 施工 標準図

●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。

参考図

1．工法概要

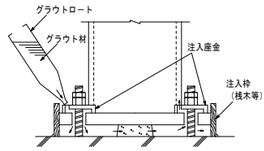
1．1 構成部材



①アンカーボルト
②注入座金
③Mナット
④Dナット
⑤Dナット(S)
⑥ベースパックグラウト(グラウト材)
⑦定着座金
⑧テンプレート
⑨フレームポスト
⑩フレームベース
⑪ステコンアンカー（コンクリートアンカー）
⑫ベースプレート

(注)上記①～⑫ の構成部材はベースパック構成部品として供給される。
(注)上記⑧～⑪ は現場状況により仕様が異なる場合がある。
(注)アンカーボルト12本の場合はつなぎプレートが取り付く。

1．2 柱脚の定着方法概要



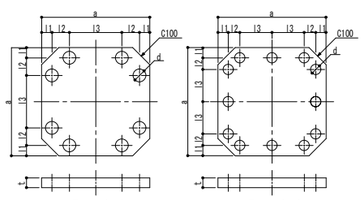
2．柱

F値(N/mm²)	鋼種	採用
235	BCP235	
	STKR400	
295	BCR295	○
	JBCR295	
	TSC295	

3．構成部材・寸法

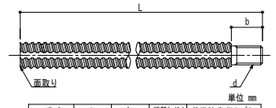
3．1 ベースプレート

●材質
SN490B 【JIS G 3136】
BT-HT440B-SP 【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】
（建築構造用高溶接性高性能５９０N/mm² 鋼材）



3．2 アンカーボルト（Dアンカーボルト）

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

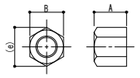


単位 mm

呼び	L	b	端部ねじd	基準強度(N/mm²)
D38	850	46	M33	390
D41	900	49	M36	390
D41H	995	49	M36	490
D51	1110	57	M45	390
D51H	1215	57	M45	490

3．3 Mナット・Dナット

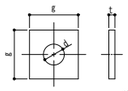
【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】



単位 mm

	呼び	A	B	(e)
Mナット	M33	26	50	58
	M36	29	55	64
	M45	36	70	81
Dナット	D38	45	65	75
	D41	48	70	80
	D51	60	80	92
D-ナット(S)	D38	30	65	75
	D41	32	70	80
	D51	40	80	92

3．4 定着座金

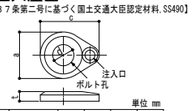


単位 mm

適用アンカーボルト	g	t	d	材質
D38	65	12	37	SS400
D41,D41H	70	12	37	SS490
D51,D51H	85	12	46	

3．5 注入座金

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料,SS490】

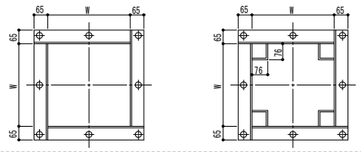


単位 mm

記号	適用アンカーボルト	a	c	t	d
PD38	D38	96	122	20	43
PD41	D41,D41H	100	127	20	46
PD51	D51,D51H	110	140	20	58

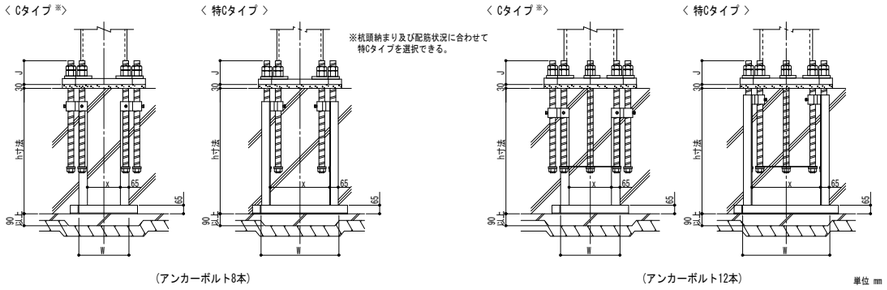
3．6 フレームベース

i）Cタイプ　　ii）特Cタイプ



3．7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

●ベースパックの据付け高さ（h寸法）はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ（最低h寸法）は下表に記載の値とする。



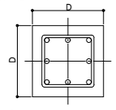
単位 mm

採用	ベースパック記号	柱 外径(mm)	柱 板厚(mm)	ベースプレート 材質	形状	寸法(mm) a	t	l1	l2	l3	d	アンカーボルト 本数-呼び	基準強度(N/mm²)	標準アンカーフレームタイプ	コンクリート柱型 寸法 D(mm) 標準フレーム	特C	配筋 立上り筋	フープ筋	設計基準強度(N/mm²)	フレームベース 寸法 W(mm) 標準フレーム	特C	フレームポスト間 寸法 x(mm) 標準フレーム	特C	最低h寸法(mm)	J寸法(mm)
C2	35-16R	□-350×350	t≦16	SN490B	(ハ)	630	45	65	85	330	φ70	8-D38	390	C	800	840	12-D25	D13@100	21以上	380	590	250	450	750	180
	35-19R	□-350×350	t≦19	BT-HT440B-SP	(ハ)	630	44	65	85	330	φ70	8-D38	390	C	800	840	12-D25	D13@100	21以上	380	590	250	450	750	180
	35-22R	□-350×350	t≦22	BT-HT440B-SP	(ハ)	630	44	65	85	330	φ75	8-D41	390	C	800	830	16-D22	D13@100	21以上	380	590	250	450	800	190
	35-25R	□-350×350	t≦25	BT-HT440B-SP	(ニ)	650	48	75	85	165	φ70	12-D38	390	C	850	－	16-D25	D13@100	21以上	380	－	250	－	800	180
	40-16R	□-400×400	t≦16	BT-HT440B-SP	(ハ)	700	44	65	85	400	φ75	8-D41	390	C	870	910	12-D25	D13@100	21以上	450	660	320	520	800	190
C1	40-19R	□-400×400	t≦19	BT-HT440B-SP	(ハ)	700	48	65	85	400	φ75	8-D41	390	C	870	900	16-D22	D13@100	21以上	450	660	320	520	800	190
	40-22R	□-400×400	t≦22	BT-HT440B-SP	(ニ)	700	48	65	85	200	φ70	12-D38	390	C	900	910	16-D25	D13@100	21以上	450	660	320	520	800	180
	40-25R	□-400×400	t≦25	BT-HT440B-SP	(ニ)	710	48	70	85	200	φ75	12-D41	390	C	900	910	16-D25	D13@100	21以上	450	660	320	520	800	190
	45-19R	□-450×450	t≦19	BT-HT440B-SP	(ニ)	750	48	65	85	225	φ70	12-D38	390	C	950	960	16-D25	D13@100	21以上	500	710	370	570	800	180
	45-22R	□-450×450	t≦22	BT-HT440B-SP	(ニ)	750	52	65	85	225	φ75	12-D41	390	C	1000	1000	20-D25	D13@100	21以上	500	710	370	570	800	190
	45-25R	□-450×450	t≦25	BT-HT440B-SP	(ニ)	750	52	65	85	225	φ75	12-D41H	490	C	1000	1000	24-D25	D13@100	24以上	500	710	370	570	850	200
	45-28R	□-450×450	t≦28	BT-HT440B-SP	(ニ)	770	60	75	110	200	φ75	12-D51	390	C	1000	－	24-D25	D13@100	24以上	460	－	330	－	950	230
	50-19R	□-500×500	t≦19	BT-HT440B-SP	(ニ)	820	52	65	85	260	φ75	12-D41	390	C	1000	1030	20-D25	D13@100	21以上	570	780	440	640	800	190
	50-22R	□-500×500	t≦22	BT-HT440B-SP	(ニ)	820	60	65	85	260	φ75	12-D41H	490	C	1050	1050	24-D25	D16@100	21以上	570	780	440	640	850	200
	50-25R	□-500×500	t≦25	BT-HT440B-SP	(ニ)	820	60	75	110	225	φ75	12-D51	390	C	1050	1050	24-D25	D16@100	24以上	510	750	380	610	950	230
	50-28R	□-500×500	t≦28	BT-HT440B-SP	(ニ)	820	60	75	110	225	φ75	12-D51H	490	C	1140	－	32-D25	D16@100	24以上	510	－	380	－	1050	235
	55-19R	□-550×550	t≦19	BT-HT440B-SP	(ニ)	840	52	65	85	270	φ75	12-D41H	490	C	1100	1100	24-D25	D16@100	24以上	590	800	460	660	850	200
	55-22R	□-550×550	t≦22	BT-HT440B-SP	(ニ)	900	60	65	85	300	φ75	12-D41H	490	C	1100	1120	24-D25	D16@100	24以上	650	860	520	720	850	200
	55-25R	□-550×550	t≦25	BT-HT440B-SP	(ニ)	900	60	75	110	265	φ75	12-D51	490	C	1100	1100	32-D25	D16@100	24以上	590	830	460	690	950	230
	55-28R	□-550×550	t≦28	BT-HT440B-SP	(ニ)	900	65	75	110	265	φ75	12-D51H	490	C	1150	－	36-D25	D16@100	24以上	590	－	460	－	1050	235

4．コンクリート柱型

4．1 形状・材質

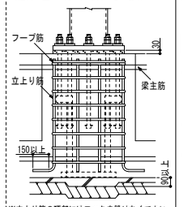
●形状
形状は正方形とし、寸法は下表に記載の値とする。



●コンクリート
普通コンクリートとし、設計基準強度は下表に記載の値とする。
●鉄筋
SD295(D13,D16)
SD345(D22,D25)

4．2 配筋

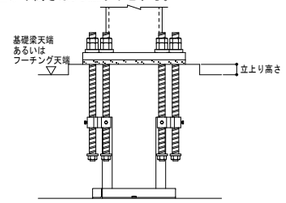
配筋仕様は下表による。



※立上り筋の頂部にはフックを設けなくてよい。
※トップフープはダブルとし、柱型上端近くに配置する。

4．3 基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以上とする。



4．4 特記事項 上記内容によらない場合は下記による。

採用
□ 下表標準柱型寸法からの変更あり（「柱型寸法最大・最小値一覧」による）
□ 下表標準配筋仕様からの変更あり
□ 立上り筋に頂部フックが必要

5．工場製作（溶接）

■組立
●ベースプレートの中心線（ｹﾀﾞｷ線）に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法（完全溶込み溶接）
●完全溶込み溶接とする。(JASS 6 鉄骨工事による)

完全溶込み溶接の開先標準（JASS 6 鉄骨工事 2007年版より ）

図	溶接方法	適用板厚T(mm)	ルート間隔G(mm) 標準値	許容差	ルート面R(mm) 標準値	許容差	開先角度α1(°) 標準値	許容差	溶接姿勢
	被覆アーク溶接	6～	7	-2,+∞(-3,+∞)	2	-2,+1(-2,+2)	α1：45	-2.5,+∞(-5,+∞)	下向き
			9	-2,+∞(-3,+∞)	2	-2,+1(-2,+2)	α1：35		
	ガスシールドアーク溶接 セルフシールドアーク溶接	6～	6	-2,+∞(-3,+∞)	2	-2,+1(-2,+2)	α1：45	-2.5,+∞(-5,+∞)	下向き
			7	-2,+∞(-3,+∞)	2	-2,+1(-2,+2)	α1：35		

許容差・記号+∞は制限無しを示す。
・2段書きは「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差（上段：管理許容差、下段括弧内：限界許容差）を示す。

■ベースプレートの予熱
●気温(鋼材表面温度)が5°C以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚(mm) 40≦t≦50	50<t≦75
低水素系被覆アーク溶接	SN490B	50 °C	
	BT-HT440B-SP	予熱なし	予熱なし
CO₂ガスシールドアーク溶接	SN490B	予熱なし	
	BT-HT440B-SP	予熱なし	予熱なし

■検査方法：溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。
■施工管理：７．本工法の施工及び施工管理参照。

6．工事場施工

6．1 基礎工事

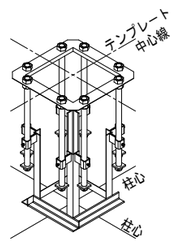
●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

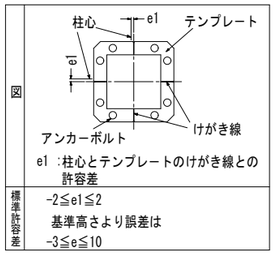
6．2 アンカーボルト据付け

●アンカーボルト（フレーム）の組立ては、4隅のアンカーボルト4本(8本)で組立てを行う。

●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。



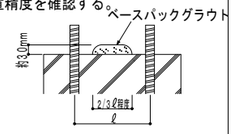


6．3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト（フレーム）との取り合いを考慮する。
●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

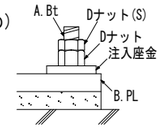
6．4 建方

●レベルモルタルはベースパックグラウト（グラウト材）を使用し大きさは右図による。



6．5 アンカーボルトの本締め（弛み止め）

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。
●Dナット(S)による弛み止めは右図による。



6．6 ベースパックグラウト(グラウト材)の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材１袋(6kg)に対して、計量カップで1.0～1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7．本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者（元請）の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち６．２アンカーボルト据付け及び６．６ベースパックグラウトの注入は、ベースパック施工技術委員会によって認定された有資格者（ベースパック施工管理技術者・施工技能者）が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作業者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

構造設計者
株式会社　コンパース
一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号　戸田　友一
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号

徳島県県土整備部営繕課

●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事

●図面名　露出型弾性固定柱脚工法設計施工標準図(1)

●図面番号　S-08

●縮尺　―――

１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号
株式会社　宮建築設計
徳島市福島１丁目５番６号
TEL　(088)－625－5505（代）
管理建築士　清水　康代　１級333707

ベースパックⅠ型

角形鋼管
F値295N/mm²以下
□-150×150 ～ □-300×300 用

（一財）日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-17」（平成30年9月21日付）

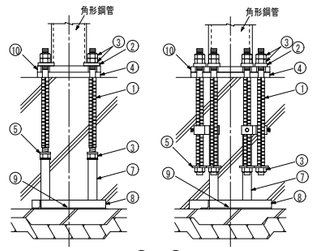
ベースパック柱脚工法 設計施工標準図

●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。

参考図

1．工法概要

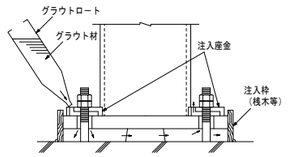
1．1 構成部材



①アンカーボルト
②注入座金
③Mナット
④ベースパックグラウト(グラウト材)
⑤定着座金
⑥テンプレート
⑦フレームポスト
⑧フレームベース
⑨ステコンアンカー（コンクリートアンカー）
⑩ベースプレート

(注)上記①～⑩の構成部材はベースパック構成部品として供給される。
(注)上記⑥～⑨は現場状況により仕様が異なる場合がある。

1．2 柱脚の定着方法概要



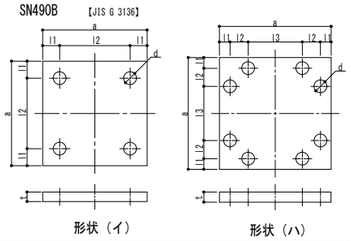
2．柱

F値(N/mm²)	鋼種	採用
235	BCP235	
	STKR400	
295	BCR295	○
	TSC295	

3．構成部材・寸法

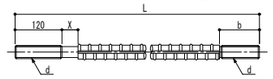
3．1 ベースプレート

●材質
SN490B 【JIS G 3136】



3．2 アンカーボルト（Mアンカーボルト）【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

i）アンカーフレーム Aタイプの場合

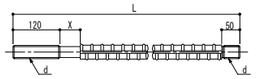


単位 mm

呼び d	異形部呼び名	L 注1)	X	b 注1)	基準強度 (N/mm²)
M27	D29	650	45	128	490
M30	D32	695	45	133	490
M33	D35	690, 735	45	95, 140	490
M36	D38	770	60	130	490
M39	D41	770, 810	60	98, 135	490

注1)据付け高さが低い場合に短いアンカーボルトを使用する。

ii）アンカーフレーム Cタイプ の場合

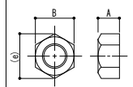


単位 mm

呼び d	異形部呼び名	L	X	基準強度 (N/mm²)
M30	D32	695	45	490
M33	D35	720	45	490
M36	D38	770	60	490

3．3 Mナット

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

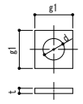


単位 mm

呼び	A	B	(e)
M27	22	41	47
M30	24	46	53
M33	26	50	58
M36	29	55	64
M39	31	60	69

3．4 定着座金

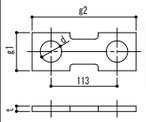
i）アンカーフレーム Aタイプの場合



単位 mm

適用アンカーボルト	g1	t	d	材質
M27	55	9	28	SS400
M30	55	9	31	
M33	60	9	34	
M36	65	12	37	
M39	80	12	40	

ii）アンカーフレーム Cタイプ の場合

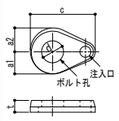


単位 mm

適用アンカーボルト	g1	g2	t	d	材質
M30	55	168	9	32	SS400
M33	60	173	9	35	
M36	65	178	9	38	

3．5 注入座金

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

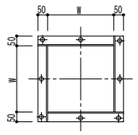


単位 mm

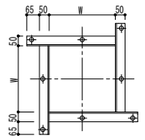
記号	適用アンカーボルト	a1	a2	c	t	d
PM27	M27	32	42	101	18	28
PM30	M30	32	42	101	18	31
PM33	M33	35	45	110	18	34
PM36	M36	35	45	110	18	37
PM39	M39	38	48	118	18	40

3．6 フレームベース

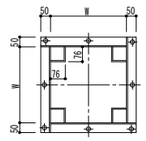
i）Aタイプ



ii）Cタイプ



iii）特Cタイプ

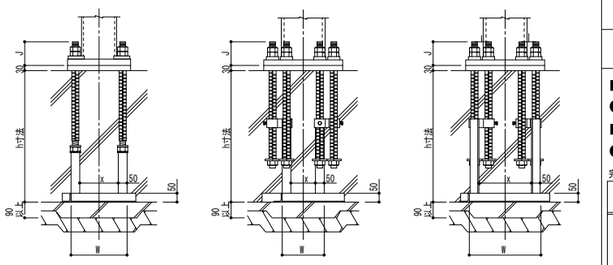


3．7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

●ベースパックの据付け高さ（h寸法）はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ（最低h寸法）は下表に記載の値とする。

〈 Aタイプ 〉　〈 Cタイプ ※〉　〈 特Cタイプ 〉

※杭頭納まり及び配筋状況に合わせて特Cタイプを選択できる。

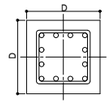


単位 mm

4．コンクリート柱型

4．1 形状・材質

●形状
形状は正方形とし、寸法は下表に記載の値とする。

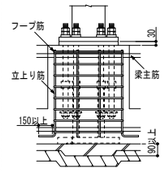


●コンクリート
普通コンクリートとし、設計基準強度は21N/mm² 以上とする。

●鉄筋
SD295(D13, D16)
SD345(D19, D22)

4．2 配筋

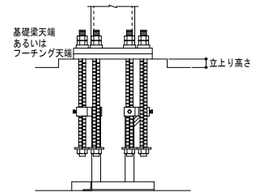
配筋仕様は下表による。



※立上り筋の頂部にはフックを設けなくてよい。
※トップフープはダブルとし、柱型上端近くに配置する。

4．3 基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。
※ただし基礎立上がり高さが50mmを超え300mm以下の場合、Lシリーズを使用することができる。



4．4 特記事項 上記内容によらない場合は下記による。

採用
☐ 下表標準柱型寸法からの変更あり（「柱型寸法最大・最小値一覧」による）
☐ 下表標準配筋仕様からの変更あり
☐ 立上り筋に頂部フックが必要

5．工場製作（溶接）

■組立
●ベースプレートの中心線（ｹｶﾞｷ線）に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法（完全溶込み溶接）
●完全溶込み溶接とする。(JASS 6　鉄骨工事による)

完全溶込み溶接の開先標準（JASS 6　鉄骨工事 2007年版より）

図	溶接方法	適用板厚T(mm)	ルート間隔G(mm) 標準値	ルート間隔G(mm) 許容差	ルート面R(mm) 標準値	ルート面R(mm) 許容差	開先角度α1(°) 標準値	開先角度α1(°) 許容差	溶接姿勢
	被覆アーク溶接	6～	7	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1：45	-2.5, +∞ (-5, +∞)	下向き
			9	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1：35		
	ガスシールドアーク溶接 セルフシールドアーク溶接	6～	6	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1：45	-2.5, +∞ (-5, +∞)	下向き
			7	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1：35		

許容差・記号+∞は制限無しを示す。
・2段書きは「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差（上段：管理許容差、下段括弧内：限界許容差）を示す。

■ベースプレートの予熱
●気温(鋼材表面温度)が5° C以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚(mm) t<32	32≦t<40	40≦t≦50
低水素系被覆アーク溶接	SN490B	予熱なし	50 ℃	50 ℃
CO₂ガスシールドアーク溶接	SN490B	予熱なし	予熱なし	予熱なし

■検査方法：溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。
■施工管理：７．本工法の施工及び施工管理参照。

6．工事場施工

6．1 基礎工事

●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6．2 アンカーボルト据付け

●アンカーボルト（フレーム）の組立ては、4隅のアンカーボルト4本で組立てを行う。

●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。

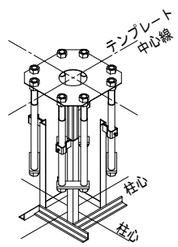
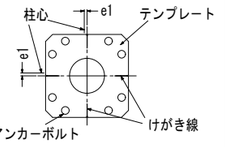


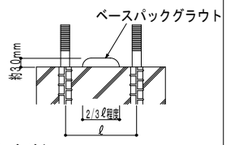
図	 e1 ：柱心とテンプレートのけがき線との許容差
標準許容差	-2≦e1≦2 基準高さより誤差は -3≦e≦10

6．3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト（フレーム）との取り合いを考慮する。
●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6．4 建方

●レベルモルタルはベースパックグラウト（グラウト材）を使用し大きさは右図による。



6．5 アンカーボルトの本締め（弛み止め）

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

6．6 ベースパックグラウト(グラウト材)の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材１袋（6kg）に対して、計量カップで1.0~1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7．本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者（元請）の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち６．２アンカーボルト据付け及び６．６ベースパックグラウトの注入は、ベースパック施工技術委員会によって認定された有資格者（ベースパック施工管理技術者・施工技能者）が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作業者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

採用	ベースパック記号	柱 外径(mm)	柱 板厚(mm)	ベースプレート 材質	形状	寸法(mm) a	t	l1	l2	l3	d	アンカーボルト 本数-呼び	基準強度(N/mm²)	アンカーフレームタイプ	コンクリート柱型 寸法D(mm) 標準フレーム	特C	配筋 立上り筋	フープ筋	設計基準強度(N/mm²)	フレームベース 寸法W(mm) 標準フレーム	特C	フレームポスト間 寸法X(mm) 標準フレーム	特C	最低h寸法(mm)	J寸法(mm)
	15-12V	□-150×150	t≦12	SN490B	(イ)	300	28	50	200	-	φ45	4-M27	490	A	500	-	12-D16	D13@100	21以上	250	-	150	-	550	135
	17-12V	□-175×175	t≦12	SN490B	(イ)	320	32	45	230	-	φ45	4-M30	490	A	530	-	12-D19	D13@100	21以上	280	-	180	-	600	135
	20-09V	□-200×200	t≦9	SN490B	(イ)	360	28	50	260	-	φ45	4-M30	490	A	560	-	12-D16	D13@100	21以上	310	-	210	-	600	135
	20-12V	□-200×200	t≦12	SN490B	(イ)	360	32	50	260	-	φ50	4-M33	490	A	560	-	12-D19	D13@100	21以上	310	-	210	-	600	135
	25-09V	□-250×250	t≦9	SN490B	(イ)	420	32	55	310	-	φ55	4-M36	490	A	610	-	12-D19	D13@100	21以上	360	-	260	-	650	150
	25-12V	□-250×250	t≦12	SN490B	(イ)	420	36	55	310	-	φ55	4-M39	490	A	630	-	12-D19	D13@100	21以上	370	-	270	-	650	150
	25-16V	□-250×250	t≦16	SN490B	(ハ)	450	32	50	80	190	φ50	8-M33	490	C	620	640	12-D19	D13@100	21以上	240	440	140	300	650	135
	30-09V	□-300×300	t≦9	SN490B	(イ)	480	36	60	360	-	φ55	4-M39	490	A	680	-	12-D22	D13@100	21以上	420	-	320	-	650	150
	30-12V	□-300×300	t≦12	SN490B	(ハ)	520	32	50	80	260	φ50	8-M30	490	C	700	710	12-D22	D13@100	21以上	310	510	210	370	650	135
C3	30-16V	□-300×300	t≦16	SN490B	(ハ)	520	40	50	80	260	φ55	8-M36	490	C	710	710	12-D22	D13@100	21以上	310	510	210	370	700	150
	30-19V	□-300×300	t≦19	SN490B	(ハ)	550	50	50	80	290	φ55	8-M36	490	C	740	740	12-D22	D13@100	21以上	340	540	240	400	700	150

構造設計者
株式会社　コンパース
一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号　戸田　友一

徳島県県土整備部営繕課

●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事

●図面名　露出型弾性固定柱脚工法設計施工標準図(2)

●図面番号　S-09

●縮尺　―――

１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号
株式会社　宮建築設計
徳島市福島１丁目５番６号
TEL　(088)－625－5505（代）
管理建築士　清水　康代　１級333707

円形鋼管用
ベースパック

円形鋼管
F値235N/mm² φ190～φ812 用
F値325N/mm²以下 φ190～φ812 用

（一財）日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-17」（平成30年9月21日付）

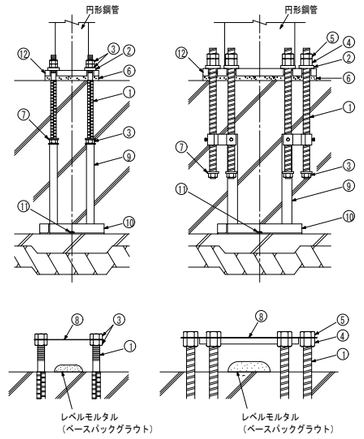
ベースパック柱脚工法 設計施工標準図 1/2

●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。
●本標準図は1/2～2/2で構成されている。

参考図

1．工法概要

1．1 構成部材

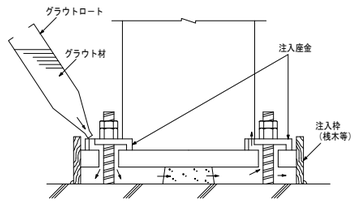


(Mアンカーボルト)　(Dアンカーボルト)

①アンカーボルト
②注入座金
③Mナット
④Dナット
⑤Dナット(S)
⑥ベースパックグラウト(グラウト材)
⑦定着座金
⑧テンプレート
⑨フレームポスト
⑩フレームベース
⑪ステコンアンカー（コンクリートアンカー）
⑫ベースプレート

(注)上記①～⑫ の構成部材はベースパック構成部品として供給される。
(注)上記⑧～① は現場状況により仕様が異なる場合がある。
(注)アンカーボルト12本の場合はつなぎプレートが取り付く。

1．2 柱脚の定着方法概要



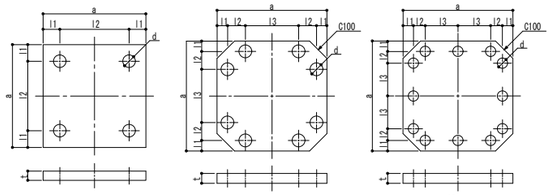
2．柱

F値(N/mm²)	鋼種	採用
235	STK400	○
	STKN400	
325	STK490	
	STKN490	

3．構成部材・寸法

3．1 ベースプレート

●材質
SN490B 【JIS G 3136】
TMCP325B 【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】
BT-HT440B-SP 【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】
(建築構造用高溶接性高性能５９０N/mm² 鋼材)

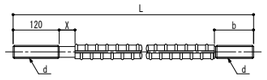


形状（イ）　形状（ハ）　形状（ニ）

3．2 アンカーボルト【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

●Mアンカーボルト

i）アンカーフレーム Aタイプ の場合

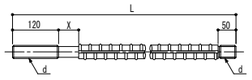


単位 mm

呼び d	異形部呼び名	L 注1)	X	b 注1)	基準強度 (N/mm²)
M30	D32	695	45	133	490
M33	D35	690,735	45	95,140	490

注1)据付け高さが低い場合に短いアンカーボルトを使用する。

ii）アンカーフレーム Cタイプ の場合

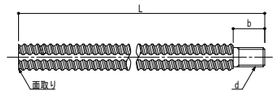


単位 mm

呼び d	異形部呼び名	L	X	基準強度 (N/mm²)
M30	D32	695	45	490
M33	D35	720	45	490

●Dアンカーボルト

iii）アンカーフレーム Cタイプ・Dタイプ の場合

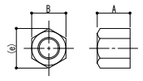


単位 mm

呼び	L	b	端部ねじd	基準強度(N/mm²)
D38	850	46	M33	390
D41	900	49	M36	390
D41H	995	49	M36	490
D51	1110	57	M45	390
D51H	1215	57	M45	490

3．3 Mナット・Dナット

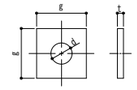
【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】



単位 mm

	呼び	A	B	(e)
Mナット	M30	24	46	53
	M33	26	50	58
	M36	29	55	64
	M45	36	70	81
Dナット	D38	45	65	75
	D41	48	70	80
	D51	60	80	92
Dナット(S)	D38	30	65	75
	D41	32	70	80
	D51	40	80	92

3．4 定着座金



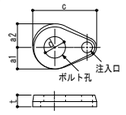
単位 mm

適用アンカーボルト	g	t	d	材質
M30	55	9	31	SS400
M33	60	9	34	
D38	65	12	37	
D41,D41H	70	12	37	SS490
D51,D51H	85	12	46	

3．5 注入座金

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料,SS490】

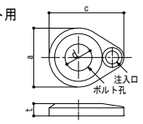
i）Mアンカーボルト用



単位 mm

記号	適用アンカーボルト	a1	a2	c	t	d
PM30	M30	32	42	101	18	31
PM33	M33	35	45	110	18	34

ii）Dアンカーボルト用

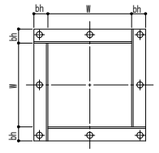


単位 mm

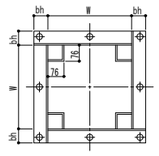
記号	適用アンカーボルト	a	c	t	d
PD38	D38	96	122	20	43
PD41	D41,D41H	100	127	20	46
PD51	D51	110	140	20	58

3．6 フレームベース

i）Aタイプ・Cタイプ



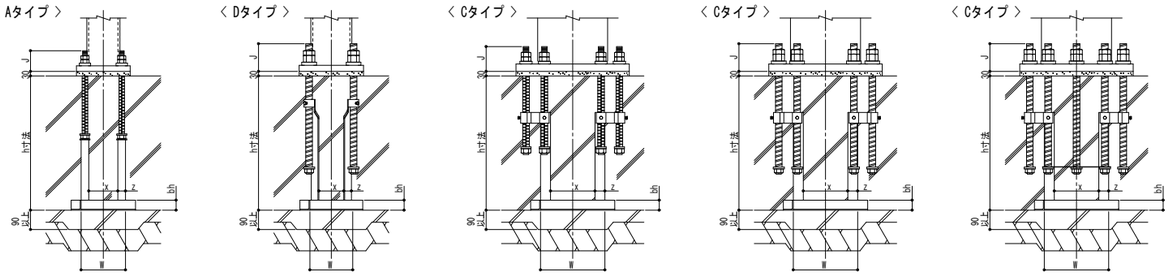
ii）Dタイプ



3．7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

●ベースパックの据付け高さ（h寸法）はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ（最低h寸法）は「円形鋼管用ベースパック柱脚工法設計施工標準図2/2」(以下「標準図2/2」と記す)の表に記載の値とする。

〈 Aタイプ 〉　〈 Dタイプ 〉　〈 Cタイプ 〉　〈 Cタイプ 〉　〈 Cタイプ 〉



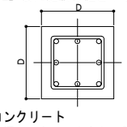
(Mアンカーボルト4本)　(Dアンカーボルト4本)　(Mアンカーボルト8本)　(Dアンカーボルト8本)　(Dアンカーボルト12本)

単位 mm

4．コンクリート柱型

4．1 形状・材質

●形状
形状は正方形とし、寸法は「標準図2/2」表に記載の値とする。

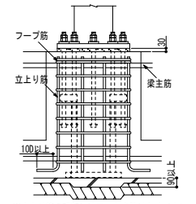


●コンクリート
普通コンクリートとし、設計基準強度は「標準図2/2」表に記載の値とする。

●鉄筋
SD295(D13,D16)
SD345(D19,D22,D25)

4．2 配筋

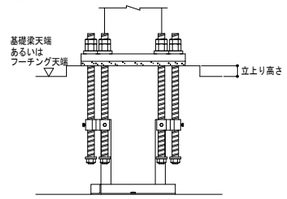
配筋仕様は「標準図2/2」の表による。



※立上り筋の頂部にはフックを設けなくてよい。
※トップフープはダブルとし、柱型上端近くに配置する。

4．3 基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。



4．4 特記事項

上記内容によらない場合は下記による。

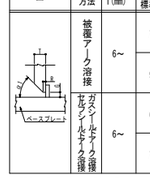
採用
□ 「標準図2/2」表標準柱型寸法からの変更あり（「柱型寸法最大・最小値一覧」による）
□ 「標準図2/2」表標準配筋仕様からの変更あり
□ 立上り筋に頂部フックが必要

5．工場製作（溶接）

■組立
●ベースプレートの中心線（ｹﾀﾞﾁ線）に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法（完全溶込み溶接）
●完全溶込み溶接とする。(JASS 6 鉄骨工事による)

完全溶込み溶接の開先標準（JASS 6 鉄骨工事 2007年版より）

図	溶接方法	適用板厚T(mm)	ルート間隔G(mm) 標準値	ルート間隔G(mm) 許容差	ルート面R(mm) 標準値	ルート面R(mm) 許容差	開先角度α1(°) 標準値	開先角度α1(°) 許容差	溶接姿勢
	被覆アーク溶接	6～	7	−2,+∞ (−3,+∞)	2	−2,+1 (−2,+2)	α1：45	−2.5,+∞ (−5,+∞)	下向き
			9	−2,+∞ (−3,+∞)	2	−2,+1 (−2,+2)	α1：35		
	ガスシールドアーク溶接 フラックスシールドアーク溶接	6～	6	−2,+∞ (−3,+∞)	2	−2,+1 (−2,+2)	α1：45	−2.5,+∞ (−5,+∞)	下向き
			7	−2,+∞ (−3,+∞)	2	−2,+1 (−2,+2)	α1：35		

許容差・記号+∞は制限無しを示す。
・2段書きは「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差（上段：管理許容差、下段括弧内：限界許容差）を示す。

■ベースプレートの予熱
●気温(鋼材表面温度)が5°C以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚(mm) 32≦t<40	40≦t≦50	50<t≦75
低水素系被覆アーク溶接	SN490B	50 ℃	50 ℃	
	BT-HT440B-SP		予熱なし	予熱なし
	TMCP325B		50 ℃	
CO_2ガスシールドアーク溶接	SN490B	予熱なし	予熱なし	
	BT-HT440B-SP		予熱なし	予熱なし
	TMCP325B		予熱なし	

■検査方法：溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。
■施工管理：７．本工法の施工及び施工管理参照。

構造設計者
株式会社　コンパース
一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号　戸田　友一

徳島県県土整備部営繕課

●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事

●図面名　露出型弾性固定柱脚工法設計施工標準図(3)

●図面番号　S-10

●縮尺　＿＿＿

１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号
株式会社　宮建築設計
徳島市福島１丁目５番６号
TEL　(088)－625－5505（代）
管理建築士　清水　康代　１級333707

円形鋼管用
ベースパック

円形鋼管

F値235N/mm²　　φ190～φ812 用
F値325N/mm²以下　φ190～φ812 用

（財）日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-17」（平成30年9月21日付）

ベースパック柱脚工法 設計 施工 標準図

2/2

●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。
●本標準図は1/2～2/2で構成されている。

参考図

6．工事場施工

6．1 基礎工事

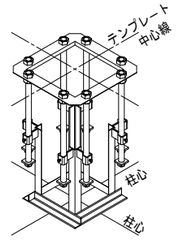
●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6．2 アンカーボルト据付け

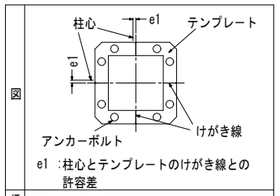
●アンカーボルト（フレーム）の組立ては、4隅のアンカーボルト4本(8本)で組立てを行う。

●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。



図



e1 ：柱心とテンプレートのけがき線との許容差

標準許容差　-2≦e1≦2
基準高さより誤差は
-3≦e≦10

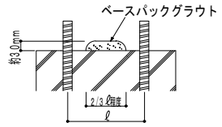
6．3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト（フレーム）との取り合いを考慮する。

●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6．4 建方

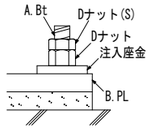
●レベルモルタルはベースパックグラウト（グラウト材）を使用し大きさは右図による。



6．5 アンカーボルトの本締め（弛み止め）

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

●Dナット(S)による弛み止めは右図による。



6．6 ベースパックグラウト(グラウト材)の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材１袋(6kg)に対して、計量カップで1.0～1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7．本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者（元請）の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち6．2アンカーボルト据付け及び6．6ベースパックグラウトの注入は、ベースパック施工技術委員会によって認定された有資格者（ベースパック施工管理技術者・施工技能者）が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作業者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

種別	採用	ベースパック記号	柱 外径(mm)	柱 板厚(mm)	ベースプレート 材質	形状	寸法(mm) a	t	l1	l2	l3	d	アンカーボルト 本数-呼び	基準強度 (N/mm²)	コンクリート柱型 寸法(mm) D	配筋 立上り筋	フープ筋	設計基準強度 (N/mm²)	アンカーフレームタイプ	フレームベース 寸法(mm) W	bh	フレームポスト間 寸法(mm) x	z	最低h寸法 (mm)	J寸法 (mm)
V2 柱材F値235用		216-13V2	φ190.7, φ216.3	t≦12.7	SN490B	(イ)	350	36	55	240	－	φ50	4-M30	490	540	12-D16	D13@100	21以上	A	290	50	190	50	600	135
		216-16V2	φ190.7, φ216.3	t≦16.0	SN490B	(イ)	350	36	55	240	－	φ50	4-M33	490	540	12-D19	D13@100	21以上	A	290	50	190	50	600	135
		267-13V2	φ267.4	t≦12.7	SN490B	(イ)	400	36	55	290	－	φ50	4-M33	490	590	12-D19	D13@100	21以上	A	340	50	240	50	600	135
		267-16V2	φ267.4	t≦16.0	SN490B	(イ)	420	40	65	290	－	φ60	4-D38	390	580	12-D19	D13@100	21以上	D	324	50	184	50	800	180
	C11	318-13V2	φ300.0, φ318.5	t≦12.7	SN490B	(イ)	460	40	65	330	－	φ60	4-D38	390	610	12-D19	D13@100	21以上	D	364	50	224	50	800	180
		318-16V2	φ300.0, φ318.5	t≦16.0	SN490B, TMCP325B	(イ)	460	50	65	330	－	φ65	4-D41	390	610	12-D19	D13@100	21以上	D	364	50	224	50	800	190
		318-25V2	φ300.0, φ318.5	t≦25.0	SN490B, TMCP325B	(ハ)	530	50	65	85	230	φ60	8-D38	390	690	12-D22	D13@100	21以上	C	280	65	150	65	800	180
		355-13V2	φ350.0, φ355.6	t≦12.7	SN490B	(ハ)	540	36	55	85	260	φ45	8-M30	490	700	16-D19	D13@100	21以上	C	310	50	210	50	600	135
		355-16V2	φ350.0, φ355.6	t≦16.0	SN490B	(ハ)	540	40	55	85	260	φ50	8-M33	490	710	16-D19	D13@100	21以上	C	310	50	210	50	650	135
		355-22V2	φ350.0, φ355.6	t≦22.0	SN490B, TMCP325B	(ハ)	560	50	65	85	260	φ60	8-D38	390	720	20-D19	D13@100	21以上	C	310	65	180	65	800	180
		406-13V2	φ400.0, φ406.4	t≦12.7	SN490B	(ハ)	600	40	65	85	300	φ45	8-M30	490	750	16-D19	D13@100	21以上	C	350	50	250	50	600	135
		406-19V2	φ400.0, φ406.4	t≦19.0	SN490B, TMCP325B	(ハ)	600	50	65	85	300	φ60	8-D38	390	760	16-D19	D13@100	21以上	C	350	65	220	65	800	180
		406-22V2	φ400.0, φ406.4	t≦22.0	SN490B, TMCP325B	(ハ)	600	50	65	85	300	φ65	8-D41	390	760	20-D19	D13@100	21以上	C	350	65	220	65	800	190
		406-25V2	φ400.0, φ406.4	t≦25.0	BT-HT440B-SP	(ハ)	610	44	70	85	300	φ65	8-D41H	490	800	20-D19	D13@100	21以上	C	350	65	220	65	850	200
		457-13V2	φ450.0, φ457.2	t≦12.7	SN490B	(ハ)	610	40	55	85	330	φ50	8-M33	490	790	20-D19	D13@100	21以上	C	380	50	280	50	650	135
		457-19V2	φ450.0, φ457.2	t≦19.0	SN490B, TMCP325B	(ハ)	630	50	65	85	330	φ65	8-D41	390	800	20-D22	D13@100	21以上	C	380	65	250	65	800	190
		457-25V2	φ450.0, φ457.2	t≦25.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	740	48	65	120	185	φ60	12-D38	390	930	20-D22	D13@100	21以上	C	420	65	290	65	800	180
		457-36V2	φ450.0, φ457.2	t≦36.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	740	60	65	120	185	φ65	12-D41H	490	980	24-D22	D13@100	21以上	C	420	65	290	65	850	200
		508-14V2	φ500.0, φ508.0	t≦14.0	SN490B, TMCP325B	(ハ)	700	50	65	85	400	φ60	8-D38	390	860	20-D19	D13@100	21以上	C	450	65	320	65	800	180
		508-22V2	φ500.0, φ508.0	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ハ)	700	52	65	85	400	φ65	8-D41H	490	920	24-D22	D13@100	21以上	C	450	65	320	65	850	200
		508-32V2	φ500.0, φ508.0	t≦32.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	810	60	65	135	205	φ65	12-D41H	490	1000	24-D22	D13@100	21以上	C	460	65	330	65	850	200
		508-40V2	φ500.0, φ508.0	t≦40.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	830	65	75	135	205	φ75	12-D51	390	1050	28-D22	D16@100	24以上	C	470	65	340	65	950	230
		558-16V2	φ550.0, φ558.8	t≦16.0	BT-HT440B-SP	(ハ)	710	48	65	85	410	φ65	8-D41H	490	900	20-D22	D13@100	24以上	C	460	65	330	65	850	200
		558-28V2	φ550.0, φ558.8	t≦28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	850	60	65	135	225	φ65	12-D41H	490	1050	24-D22	D16@100	24以上	C	500	65	370	65	850	200
		558-36V2	φ550.0, φ558.8	t≦36.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	870	65	75	135	225	φ75	12-D51	390	1100	28-D22	D16@100	24以上	C	510	65	380	65	950	230
		609-22V2	φ600.0, φ609.6	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ハ)	820	52	80	110	440	φ75	8-D51	390	1000	24-D22	D16@100	24以上	C	500	65	370	65	950	230
		609-28V2	φ600.0, φ609.6	t≦28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	910	60	75	155	225	φ75	12-D51	390	1100	28-D22	D16@100	24以上	C	510	65	380	65	950	230
		609-36V2	φ600.0, φ609.6	t≦36.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	910	65	75	155	225	φ75	12-D51	390	1150	24-D25	D16@100	24以上	C	510	65	380	65	950	230
		660-28V2	φ650.0, φ660.4	t≦28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	970	65	75	160	250	φ75	12-D51	390	1150	28-D22	D16@100	24以上	C	560	65	430	65	950	230
		660-36V2	φ650.0, φ660.4	t≦36.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	970	70	75	160	250	φ75	12-D51H	490	1200	28-D25	D16@100	24以上	C	560	65	430	65	1050	235
		711-28V2	φ700.0, φ711.2	t≦28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1030	65	75	175	265	φ75	12-D51	390	1250	28-D25	D16@100	24以上	C	590	65	460	65	950	230
		711-32V2	φ700.0, φ711.2	t≦32.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1030	70	75	175	265	φ75	12-D51H	490	1300	28-D25	D16@100	24以上	C	590	65	460	65	1050	235
		762-25V2	φ750.0, φ762.0	t≦25.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1070	65	75	185	275	φ75	12-D51	390	1270	28-D25	D16@100	24以上	C	610	65	480	65	950	230
		762-28V2	φ750.0, φ762.0	t≦28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1070	70	75	185	275	φ75	12-D51H	490	1300	28-D25	D16@100	24以上	C	610	65	480	65	1050	235
		812-22V2	φ800.0, φ812.8	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1150	65	75	200	300	φ75	12-D51	390	1350	32-D25	D16@100	24以上	C	660	65	530	65	950	230
		812-28V2	φ800.0, φ812.8	t≦28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1150	70	75	200	300	φ75	12-D51H	490	1400	32-D25	D16@100	24以上	C	660	65	530	65	1050	235
V3 柱材F値325以下用		216-10V3	φ190.7 φ216.3	t≦12.7 t≦9.5	SN490B	(イ)	350	36	55	240	－	φ45	4-M30	490	540	12-D16	D13@100	21以上	A	290	50	190	50	600	135
		216-13V3	φ216.3	t≦12.7	SN490B	(イ)	350	36	55	240	－	φ50	4-M33	490	540	12-D19	D13@100	21以上	A	290	50	190	50	600	135
		267-09V3	φ267.4	t≦9.3	SN490B	(イ)	400	36	55	290	－	φ50	4-M33	490	590	12-D19	D13@100	21以上	A	340	50	240	50	600	135
		267-13V3	φ267.4	t≦12.7	SN490B	(イ)	420	40	65	290	－	φ60	4-D38	390	580	12-D19	D13@100	21以上	D	324	50	184	50	800	180
		318-09V3	φ300.0, φ318.5	t≦9.0	SN490B	(イ)	460	40	65	330	－	φ60	4-D38	390	610	12-D19	D13@100	21以上	D	364	50	224	50	800	180
		318-13V3	φ300.0, φ318.5	t≦12.7	TMCP325B	(イ)	460	50	65	330	－	φ65	4-D41	390	610	12-D19	D13@100	21以上	D	364	50	224	50	800	190
		318-19V3	φ300.0, φ318.5	t≦19.0	TMCP325B	(ハ)	530	50	65	85	230	φ60	8-D38	390	690	12-D22	D13@100	21以上	C	280	65	150	65	800	180
		355-10V3	φ350.0, φ355.6	t≦9.5	SN490B	(ハ)	540	36	55	85	260	φ45	8-M30	490	700	16-D19	D13@100	21以上	C	310	50	210	50	600	135
		355-13V3	φ350.0, φ355.6	t≦12.7	SN490B	(ハ)	540	40	55	85	260	φ50	8-M33	490	710	16-D19	D13@100	21以上	C	310	50	210	50	650	135
		355-16V3	φ350.0, φ355.6	t≦16.0	TMCP325B	(ハ)	560	50	65	85	260	φ60	8-D38	390	720	20-D19	D13@100	21以上	C	310	65	180	65	800	180
		406-10V3	φ400.0, φ406.4	t≦9.5	SN490B	(ハ)	600	40	65	85	300	φ45	8-M30	490	750	16-D19	D13@100	21以上	C	350	50	250	50	600	135
		406-13V3	φ400.0, φ406.4	t≦12.7	TMCP325B	(ハ)	600	50	65	85	300	φ60	8-D38	390	760	16-D19	D13@100	21以上	C	350	65	220	65	800	180
		406-16V3	φ400.0, φ406.4	t≦16.0	TMCP325B	(ハ)	600	50	65	85	300	φ65	8-D41	390	760	20-D19	D13@100	21以上	C	350	65	220	65	800	190
		406-19V3	φ400.0, φ406.4	t≦19.0	BT-HT440B-SP	(ハ)	610	44	70	85	300	φ65	8-D41H	490	800	20-D19	D13@100	21以上	C	350	65	220	65	850	200
		457-10V3	φ450.0, φ457.2	t≦9.5	SN490B	(ハ)	610	40	55	85	330	φ50	8-M33	490	790	20-D19	D13@100	21以上	C	380	50	280	50	650	135
		457-13V3	φ450.0, φ457.2	t≦12.7	TMCP325B	(ハ)	630	50	65	85	330	φ65	8-D41	390	800	20-D22	D13@100	21以上	C	380	65	250	65	800	190
		457-19V3	φ450.0, φ457.2	t≦19.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	740	48	65	120	185	φ60	12-D38	390	930	20-D22	D13@100	21以上	C	420	65	290	65	800	180
		457-28V3	φ450.0, φ457.2	t≦28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	740	60	65	120	185	φ65	12-D41H	490	980	24-D22	D13@100	21以上	C	420	65	290	65	850	200
		508-10V3	φ500.0, φ508.0	t≦9.5	TMCP325B	(ハ)	700	50	65	85	400	φ60	8-D38	390	860	20-D19	D13@100	21以上	C	450	65	320	65	800	180
		508-16V3	φ500.0, φ508.0	t≦16.0	BT-HT440B-SP	(ハ)	700	52	65	85	400	φ65	8-D41H	490	920	24-D22	D13@100	21以上	C	450	65	320	65	850	200
		508-22V3	φ500.0, φ508.0	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	810	60	65	135	205	φ65	12-D41H	490	1000	24-D22	D13@100	21以上	C	460	65	330	65	850	200
		508-32V3	φ500.0, φ508.0	t≦32.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	830	65	75	135	205	φ75	12-D51	390	1050	28-D22	D16@100	24以上	C	470	65	340	65	950	230
		558-13V3	φ550.0, φ558.8	t≦12.7	BT-HT440B-SP	(ハ)	710	48	65	85	410	φ65	8-D41H	490	900	20-D22	D13@100	24以上	C	460	65	330	65	850	200
		558-22V3	φ550.0, φ558.8	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	850	60	65	135	225	φ65	12-D41H	490	1050	24-D22	D16@100	24以上	C	500	65	370	65	850	200
		558-28V3	φ550.0, φ558.8	t≦28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	870	65	75	135	225	φ75	12-D51	390	1100	28-D22	D16@100	24以上	C	510	65	380	65	950	230
		609-16V3	φ600.0, φ609.6	t≦16.0	BT-HT440B-SP	(ハ)	820	52	80	110	440	φ75	8-D51	390	1000	24-D22	D16@100	24以上	C	500	65	370	65	950	230
		609-22V3	φ600.0, φ609.6	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	910	60	75	155	225	φ75	12-D51	390	1100	28-D22	D16@100	24以上	C	510	65	380	65	950	230
		609-25V3	φ600.0, φ609.6	t≦25.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	910	65	75	155	225	φ75	12-D51	390	1150	24-D25	D16@100	24以上	C	510	65	380	65	950	230
		660-22V3	φ650.0, φ660.4	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	970	65	75	160	250	φ75	12-D51	390	1150	28-D22	D16@100	24以上	C	560	65	430	65	950	230
		660-25V3	φ650.0, φ660.4	t≦25.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	970	70	75	160	250	φ75	12-D51H	490	1200	28-D25	D16@100	24以上	C	560	65	430	65	1050	235
		711-22V3	φ700.0, φ711.2	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1030	65	75	175	265	φ75	12-D51	390	1250	28-D25	D16@100	24以上	C	590	65	460	65	950	230
		711-25V3	φ700.0, φ711.2	t≦25.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1030	70	75	175	265	φ75	12-D51H	490	1300	28-D25	D16@100	24以上	C	590	65	460	65	1050	235
		762-19V3	φ750.0, φ762.0	t≦19.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1070	65	75	185	275	φ75	12-D51	390	1270	28-D25	D16@100	24以上	C	610	65	480	65	950	230
		762-22V3	φ750.0, φ762.0	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1070	70	75	185	275	φ75	12-D51H	490	1300	28-D25	D16@100	24以上	C	610	65	480	65	1050	235
		812-19V3	φ800.0, φ812.8	t≦19.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1150	65	75	200	300	φ75	12-D51	390	1350	32-D25	D16@100	24以上	C	660	65	530	65	950	230
		812-22V3	φ800.0, φ812.8	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1150	70	75	200	300	φ75	12-D51H	490	1400	32-D25	D16@100	24以上	C	660	65	530	65	1050	235

構造設計者
株式会社　コンパース
一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号　　戸田　友一
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号

徳島県県土整備部営繕課

●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事

●図面番号　S-11

●図面名　露出型弾性固定柱脚工法設計施工標準図(4)

●縮尺　＿＿＿

１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号
株式会社　宮建築設計
徳島市福島１丁目５番６号
TEL　（088）－625－5505（代）
管理建築士　清水　康代　１級333707

ＱＬデッキ合成スラブ設計・施工標準 耐火仕様⑤ 参考図

QL50−6000 高荷重・耐火補強筋不要仕様 ［耐火認定FP120FL-0180-1,0181-1用］

ＱＬデッキ合成スラブの設計・施工は、(一社)日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」「鉄骨工事技術指針」「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5鉄筋コンクリート工事及びJASS6鉄骨工事」、(一社)日本鋼構造協会「デッキプレート床構造設計・施工規準 2018」、ＱＬデッキ設計マニュアルによる。

設　　計

材料／デッキプレート　［ISO 9001認証取得］

デッキプレート種類		板厚(mm)	表　面　処　理
■ＱＬ９９−５０	端部加工 □ｴﾝｸﾛ有り □無し	□1.0	□亜鉛めっき ［ □Z12 □Z27 ］ □JFEｴｺｶﾞﾙ(高耐食溶融めっき鋼板) ［ □Y18 □Y27 ］ □その他(　　)
		■1.2 □1.6	□裏面防錆処理(一次塗装) ＱＬプライマー(P) *1*2 □亜鉛めっき ［ □Z12 □Z27 ］ □JFEｴｺｶﾞﾙ(高耐食溶融めっき鋼板) ［ □Y18 □Y27 ］ □その他(　　) □無し*2
材　質	ＪＩＳ Ｇ ３３５２に定めるＳＤＰ１Ｔ、ＳＤＰ２、ＳＤＰ２Ｇ		

*1 現場搬入までの一次防錆（ＪＩＳ Ｋ ５６２１ ２種または3種相当）
*2 板厚1.2mm、1.6mmに限る

材料／コンクリート

種　　類	■普通コンクリート				
設計基準強度	□18	■21	□24	□（　）	N／mm²
厚さ(ＱＬデッキ山上)	□80	■85	■90	□95	□100 □（　）mm

材料／溶接金網・異形鉄筋

□ 溶 接 金 網	ＪＩＳ Ｇ ３５５１	□φ6−75×75 □φ6−100×100	□φ6−150×150 □（　）*3
■ 異 形 鉄 筋	ＪＩＳ Ｇ ３１１２、３１１７	□D10−150×150 ■D10−200×200	□（　）

*3 線形6mm以上を用いたもの

接　　合

デッキプレート端部梁	頭付きスタッド	JIS B 1198 ■φ16 □φ19 □φ22 （各長さ・ピッチは特記による*4）

*4 頭付きスタッドは長さ80mm以上、デッキプレート幅方向はピッチ300mm以下

デッキプレート中間梁	□焼抜き栓溶接	下記焼抜き栓溶接の項による
	■頭付きスタッド	デッキプレート端部梁と同仕様

耐　　火

ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ	耐火区分	支持条件	ｺﾝｸﾘｰﾄ種別	耐火補強筋	認定番号
QL99-50	床２時間	単純	普通	不要	■ＦＰ１２０ＦＬ−０１８０−１
		連続			■ＦＰ１２０ＦＬ−０１８０−１

注）床２時間は床１時間耐火を含む

その他	□指定なし □（　　）□（　　）

特　　記

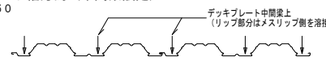
支保工有無	その他：
■ 無　□ 有	

上欄内の採用項目に☑を記して下さい。

焼抜き栓溶接

φ18以上、ピッチ下図の通り（300mm以下）

デッキプレート幅方向（中間梁限定）
ＱＬ９９−５０



（注）接合に頭付きスタッドを用いる場合、焼抜き栓溶接は不要

※デッキプレート長手方向の接合については、構造計算による。

■施工時許容スパン表（デッキプレートの検討）

支保工が不要な最大スパン　普通コンクリート（単位体積重量24.0kN/m³）、表面処理が亜鉛めっきの場合

コンクリート厚(mm)		60			70			80			90			100		
板厚(mm)		1.0	1.2	1.6	1.0	1.2	1.6	1.0	1.2	1.6	1.0	1.2	1.6	1.0	1.2	1.6
支持条件	単純	2.38	2.52 (2.52)	2.75 (2.75)	2.33	2.47 (2.47)	2.69 (2.69)	2.28	2.42 (2.42)	2.64 (2.64)	2.24	2.37 (2.37)	2.59 (2.59)	2.20	2.33 (2.33)	2.54 (2.54)
	2連続	3.20	3.38 (3.36)	3.67 (3.67)	3.13	3.31 (3.31)	3.61 (3.61)	3.06	3.24 (3.24)	3.54 (3.54)	3.01	3.18 (3.15)	3.47 (3.47)	2.95	3.12 (3.07)	3.41 (3.41)
	3連続	2.95	3.12 (3.12)	3.40 (3.40)	2.88	3.05 (3.05)	3.33 (3.33)	2.82	2.99 (2.99)	3.26 (3.26)	2.77	2.93 (2.93)	3.20 (3.20)	2.72	2.88 (2.88)	3.15 (3.15)

注：上表を超える場合、別途支保工が必要です。　※（　）数値は、表面処理が亜鉛めっきなしまたは塗装品の許容スパンを示す。

S造・施工時のスパンの取り方

【単純支持】

【連続支持】

耐　火　仕　様

○共通事項　支持梁：鉄骨梁、コンクリート：設計基準強度18～42 N/mm² の普通コンクリート
溶接金網[JIS G 3551]又は異形鉄筋[JIS G 3112, G 3117]　寸法は下表参照

【ＱＬ９９−５０】

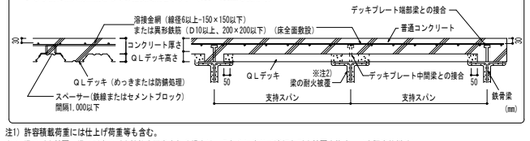
□認定番号［ＦＰ１２０ＦＬ−０１８０−１（床２時間耐火）］

デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重(注1)	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合
ＱＬ９９−５０−１０ ＱＬ９９−５０−１２ ＱＬ９９−５０−１６	連続支持	3,400mm 以下	80mm 以上	算出式 参照	線径6mm以上−100×100mm以下*5 D10以上−200×200mm以下	【デッキプレート端部梁】 頭付きスタッド(φ19以上) ピッチ300mm以下 【デッキプレート中間梁】 上記又は 焼抜き栓溶接(φ18以上) ピッチ300mm以下

□認定番号［ＦＰ１２０ＦＬ−０１８１−１（床２時間耐火）］

デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重(注1)	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合
ＱＬ９９−５０−１０ ＱＬ９９−５０−１２ ＱＬ９９−５０−１６	単純支持	3,000mm 以下	80mm 以上	算出式 参照	線径6mm以上−100×100mm以下*5 D10以上−200×200mm以下	同　上

*5 ひび割れ拡大防止筋としての推奨間隔を示す。（150×150mmも使用可）



注1）許容積載荷重には仕上げ荷重等も含む。
注2）梁の耐火被覆　梁に所定の耐火性能を要求される場合は、それらに応じて適切な耐火被覆を施す。（本認定仕様外）

許容積載荷重の算出式（耐火仕様）

$$\text{許容積載荷重}^{*6} = \frac{98.49}{\ell^2} - \text{ＤＬ かつ } 24.62 - \text{ＤＬ}\ \text{kN/m}^2 \text{ 以下}$$

ℓ ：支持スパン(m)
ＤＬ：合成スラブ自重(kN/m²)（下表参照）

*6 積載荷重と仕上げ等の総和は15kN/m²以下を推奨

※許容積載荷重は耐火時と常温時で異なるため、常温時も考慮した許容積載荷重を、JFE建材株式会社ホームページの耐火認定⑤対応合成スラブ許容積載荷重表を参照する。

合成スラブ自重：ＤＬ（kN/m²）

普通コンクリート／デッキプレート表面処理：Z12

ひび割れ拡大防止用鉄筋φ6−100×100の場合

デッキ山上厚(mm) / デッキ板厚	80	85	90	95	100
1.0	2.53	2.65	2.76	2.88	2.99
1.2	2.55	2.67	2.78	2.90	3.01
1.6	2.59	2.71	2.82	2.94	3.05

ひび割れ拡大防止用鉄筋D10−200×200の場合

デッキ山上厚(mm) / デッキ板厚	80	85	90	95	100
1.0	2.54	2.66	2.77	2.89	3.00
1.2	2.56	2.68	2.79	2.91	3.02
1.6	2.60	2.72	2.83	2.95	3.06

許容積載荷重の算出例

ＱＬ９９−５０−１２（Ｚ１２）、φ6−100×100、スパン ℓ=3.0m
山上スラブ厚80mm、普通コンクリート、設計基準強度21N/mm² の場合

①耐火認定の許容積載荷重：ｗ１

$$w1 = \frac{98.49}{3.0^2} - \text{ＤＬ}(=2.55：\text{上表より}) = 8.39\text{kN/m}^2$$

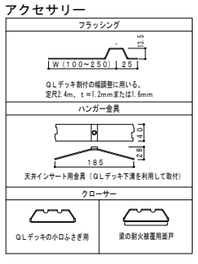
②合成スラブ構造の許容積載荷重：ｗ２

ｗ２=10.49kN/m²（梁との接合：頭付きスタッド）

→許容積載荷重は①②のうち数値の小さいｗ２=8.39kN/m² を採用する。

※許容積載荷重は、耐火時と常温時で異なるため、JFE建材株式会社が提供する構造計算ソフト等で必ず確認する。

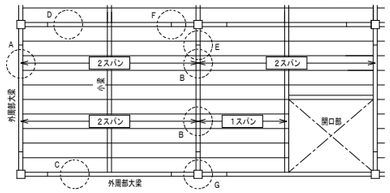
アクセサリー



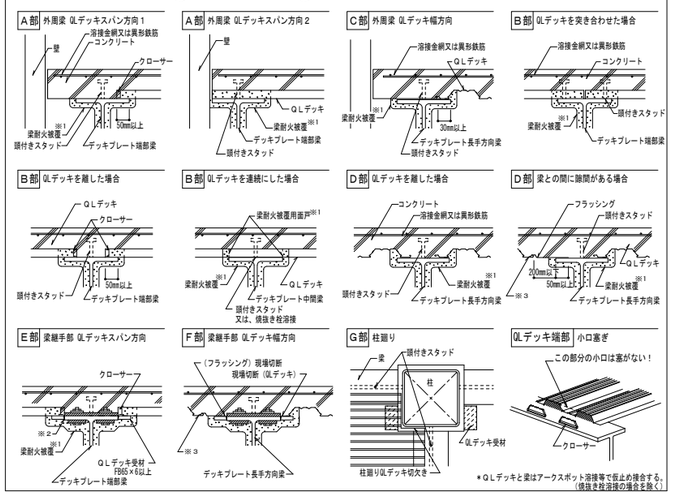
標　　準　　納　　ま　　り

支持梁：鉄骨梁

図中※1は、梁に1、2または3時間の耐火性能が要求される場合のみ適用。
※2 溶接方法等は別途検討が必要。（合成スラブ工業会Ｑ＆Ａ参照）
※3 コンクリート漏れ等が無いように、適切な処理が必要。
（隅肉溶接、スポット溶接、ドリルねじ止め等）



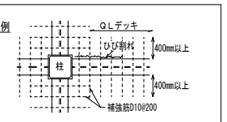
Ａ：外周梁（デッキスパン方向）
Ｂ：内部梁（　〃　）
Ｃ：外周梁（デッキ幅方向）
Ｄ：内部梁（　〃　）
Ｅ：梁継手（デッキスパン方向）
Ｆ：　〃　（デッキ幅方向）
Ｇ：柱廻り



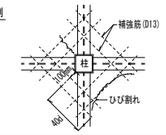
（参考）ひび割れ拡大防止のための留意事項

[1]設計上の留意点
1)小梁の剛性を大きくする。
2)ひび割れ拡大防止のための補強筋を設ける。（右図補強例参照）
3)スパンとスラブ厚さの比を小さくし、配筋量を大きくする。
4)デッキプレートは各溝で梁に接合すること。
デッキプレート各溝全てをアークスポット溶接するのが望ましい。
（焼抜き栓溶接の場合を除く）

大梁上の補強例



柱廻りの補強例

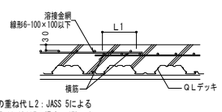


[2]施工上の留意点
1)乾燥収縮率の小さなコンクリートを用いる。
2)コンクリートの単位水量を小さくする。
3)溶接金網の位置一かぶり厚さ30mm一を確保する。
4)コンクリート打込み後１週間は載荷作業を行わない。歩行程度は可。
5)打込み後初期には散水や養生シート等で湿潤養生を行う。
最射日光が当たる屋上は、散水養生は必須。
6)打込み後４～７日間はスラブに振動や荷重を加えないようにし、
充分な養生期間を設ける。

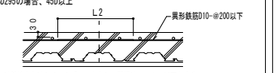
スラブの配筋

1)ひび割れ拡大防止用鉄筋(溶接金網又は異形鉄筋)
・コンクリート表面よりのかぶり厚さが30mmになるようレベル保持し、全面に配筋する。
・重ね位置はデッキプレート中間梁上以外とする。
・配筋の重ね代は特記(構造計定や性能証明を取得した工法等)による。
・特記なき場合は下記による。

溶接金網の重ね代Ｌ1：１メッシュと50mm以上、且つ150mm以上
（線径6−100×100の場合150mm以上）



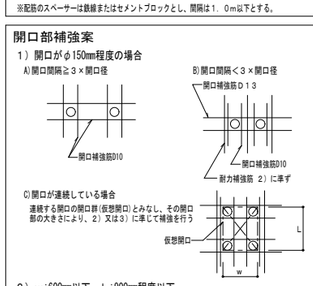
異形鉄筋の重ね代Ｌ2：JASS 5による
例）Fc18 SD295の場合、450以上



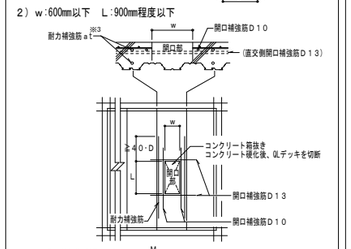
※配筋のスペーサーは鉄線またはセメントブロックとし、間隔は１．０ｍ以下とする。

開口部補強案

１）開口がφ150mm程度の場合

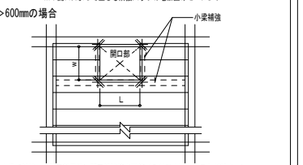


２）ｗ:600mm以下　Ｌ:900mm程度以下



※3 耐力補強筋 所要断面積 $a_t = \frac{M}{f_t \times j}$
Ｍ：開口によって生じる隣接スラブの増加曲げモーメント

３）ｗ>600mmの場合



小梁で補強し、開口部周辺に開口補強筋を配筋（D10以上）することが望ましい。

※開口補強の詳細は、合成スラブ工業会発行「合成スラブの設計・施工マニュアル」（１）合成スラブの設計　４．合成スラブの開口補強方法　を参照する。

施工

施工順序

墨出し
↓
敷込み仮止め溶接
↓
合成スラブと梁との接合
1）頭付きスタッド
2）焼抜き栓溶接
↓
ひび割れ拡大防止用鉄筋敷込み
↓
検　査
↓
コンクリート打設

敷　込　み

鉄骨梁の場合
1)墨出し線に合わせて１枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適当な枚数(５～１０枚)ごとに仮止め溶接する。
2)各大梁上にデッキプレートの溝部が乗るように敷込む。

デッキプレート幅方向のかかり代は、30mm以上あることを確認する。
3)デッキプレート長手方向の大梁のかかり代は、50mm以上あることを確認する。

合成スラブと梁との接合

1）頭付きスタッド
施工は、JASS6「鉄骨工事」による。
デッキプレートと梁とはアークスポット溶接等で接合する。

2）焼抜き栓溶接（デッキプレート中間梁限定）
国土交通省告示第３２６号(平成14年4月16日制定)及び国土交通省告示第６０６号(平成19年6月20日改正)の第２接合ハ(4)焼抜き栓溶接に基づく下記仕様による。（梁フランジの表面処理条件：黒皮または一般鋼止め塗装）
合成スラブ工業会主催の「焼抜き栓溶接講習会」の受講が望ましい。

焼抜き栓溶接［ＳＰＷ］ ―アーク手溶接―

（１）溶接機
交流アーク溶接機 ＡＷ２５０Ａ以上　エンジン溶接機 ２３０Ａ以上
（２）溶接棒
JIS Z 3211のE4316、E4916 に定める低水素系被覆アーク溶接棒で棒径４mmφのもの
（３）標準溶接条件
梁フランジ板厚：６mm以上
溶 接 電 流　：１９０～２３０Ａ(標準２１０Ａ)
（４）溶接工の資格
JIS Z 3801、JIS Z 3841 における基本級の有資格者
（５）手順・要領
右の１～４の順に行う。

	工　程	手　順　・　要　領
1	アーク発生	ＱＬデッキを梁になじませ（隙間２mm以下）溶接棒をＱＬデッキに垂直にしてアークを発生させる。
2	ＱＬデッキ焼抜き	溶接棒を若干引き上げてアークを飛ばし、径10mm程で“の”字を描いてＱＬデッキを焼抜く。
3	押し込み・溶着	溶接棒を梁上まで押し込み、焼抜きの内側をなぞるように円中央へ２～３回転しながら運棒。
4	整　形	溶着金属を整え、中央部でそっと溶接棒を引き上げる。スラグを除去して仕上がりを確認。

溶接時間の目安；電流値２１０Ａ(標準)の場合８秒程度

検　　査

【焼抜き栓溶接（ＳＰＷ）】
□事前検査
適正な溶接を行うため下記1)または2)の方法で電流値をチェックする。
1）検査台での計測
2）溶接棒の消費長さによる確認 ―― 未使用の規定の溶接棒を用いて、アーク長さを約3mmに保持し、１０mm程度の円を描いて１０秒間溶接した時の溶接棒の消費長さが４５～５３mmであること。
□溶接後の外観検査
1）溶接部の確認　2）焼き切れ、余盛り不足の有無
3）標準余盛り径　SPW：18mm以上
□不良部の補修
スラグ除去後、梁にデッキプレートを密着させて再溶接する。
不具合箇所に溶着金属を流し込む要領で補修。

【そ　の　他】
(1)ＱＬデッキ相互の嵌合状況　(2)ひび割れ拡大防止筋の敷込み状況
(3)開口部の補強状況

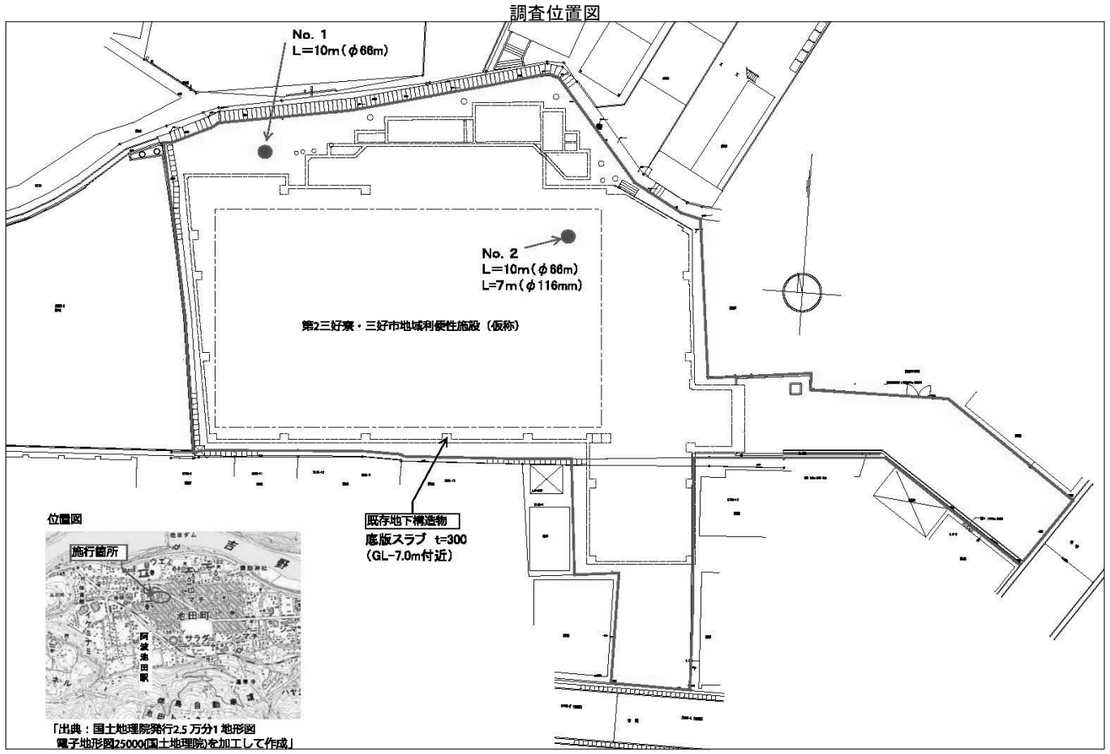
特記事項：

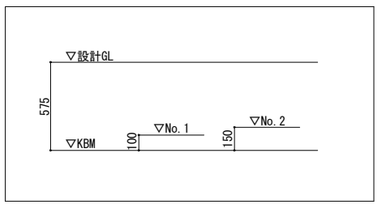
その他の納まり・参考例等については、ＱＬデッキ施工マニュアルまたは別途『納まり図』(技術資料CADデータ収録)を参照下さい。

構造設計者
株式会社　コンパース
一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号　戸田　友一

徳島県県土整備部営繕課	●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事	●図面番号　S-12	１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号 株式会社　宮建築設計 徳島市福島１丁目５番６号 TEL　(088)－625－5505（代） 管理建築士　清水　康代　１級333707
	●図面名　合成スラブ構造デッキプレート設計･施工標準	●縮尺　――	

調査位置図





ボーリング柱状図No.1

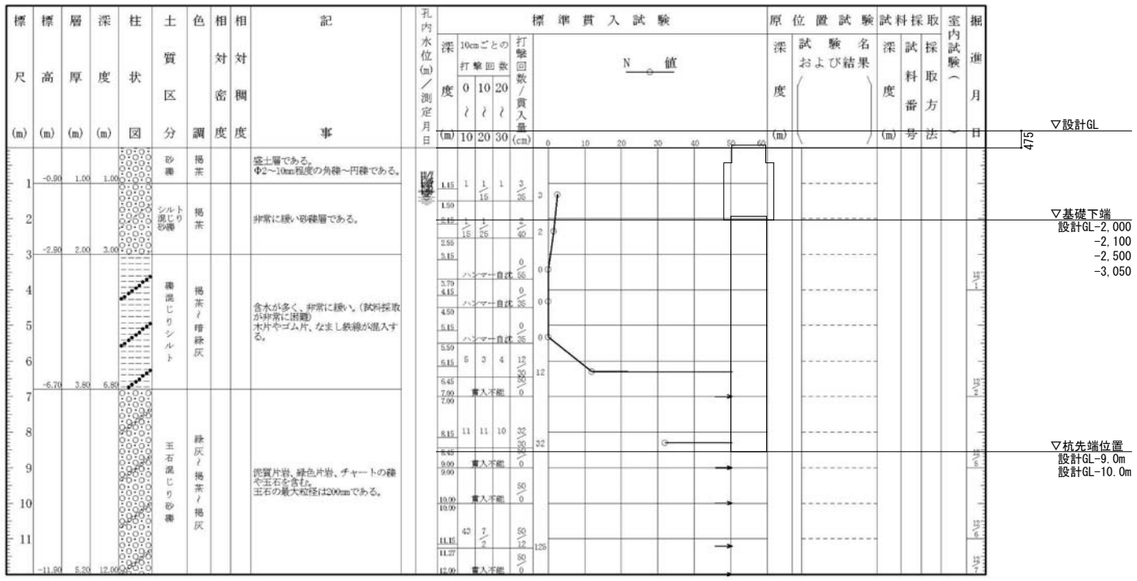
調査名　R4営繕　第2三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）三・池田　地質解

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No.1	調査位置	徳島県三好市池田町マチ					北緯	
発注機関				調査期間	令和 4年 12月 1日 ～ 年 月 日			東経	
調査業者名	株式会社エス・ピー・シー 電話（0883-52-1621）	主任技師	竹田 一貴	現場代理人	植杉 良輔	コア鑑定者		ボーリング責任者	植杉 良輔
孔口標高	KBM +0.10m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種 試錐機	東邦地下工機D-1
総掘進長	12.00m							エンジン	クボタER-80
ハンマー落下用具	半自動落下							ポンプ	東邦地下工機BG-3



構造設計者
株式会社　コンパース
一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号　　戸田　友一
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号

徳島県県土整備部営繕課	●工事名　第2三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事	●図面番号　S-13	1級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号 株式会社　宮建築設計 徳島市福島1丁目5番6号 TEL　(088)－625－5505（代） 管理建築士　清水　康代　1級333707
	●図面名　土質柱状図(1)	●縮尺　――	

ボーリング柱状図No.2

調　査　名　R４営繕　第２三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）三・池田　地質解

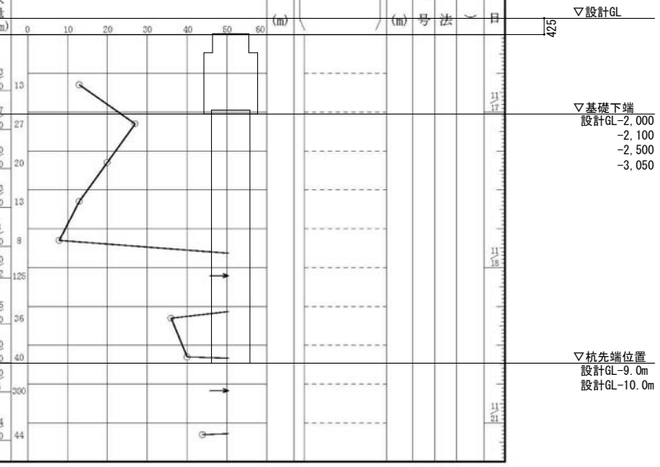
ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No.2	調査位置	徳島県三好市池田町マチ			北緯	
発注機関				調査期間	令和 4年 11月 17日 ～ 年 月 日	東経	
調査業者名	株式会社エス・ビー・シー 電話（0883-52-1621）	主任技師	竹田　一貴	現場代理人	植杉　良輔	コア鑑定者	ボーリング責任者 植杉　良輔
孔口標高	KBM +0.15m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°
総掘進長	10.00m	使用機種	試錐機	東邦地下工機D-1	ハンマー落下用具	半自動落下	
			エンジン	クボタER-80	ポンプ	東邦地下工機BG-3	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
1					砂礫	灰			表層は非常に硬質 礫はΦ5～10mm程度で、コンクリート片を含む。 所々に硬質な礫を含む。 少量の有機物を含む。 深度6m付近では50～100mm程度の結晶片岩礫が混入する。	11/21 1.30	1.15	5	4	4	13/30	13						11/17
2											1.45 2.15	5	10	12	27/30	27							
3											2.45 3.15	8	6	6	20/30	20							
4											3.45 4.15	3	4	6	13/30	13							
5											4.45 5.15	2	3/11	3/9	8/30	8							
6	-6.25	6.40	6.40								5.45 6.15	42	8/2		50/12	125							11/18
	-6.55	0.30	6.70		コンクリート						6.27 7.15	11	12	13	36/30	36							
7					玉石混じり砂礫	暗緑～暗青			50～150mmの玉石が点在する。 深度9.50～9.70mでは粘性土を挟む。		7.45 8.15	15	15	10	40/30	40							
8											8.45 9.15	50/5			50/5	300							
9											9.20 10.15	18	13	13	44/30	44							11/21
10	-9.85	3.30	10.00								10.45												



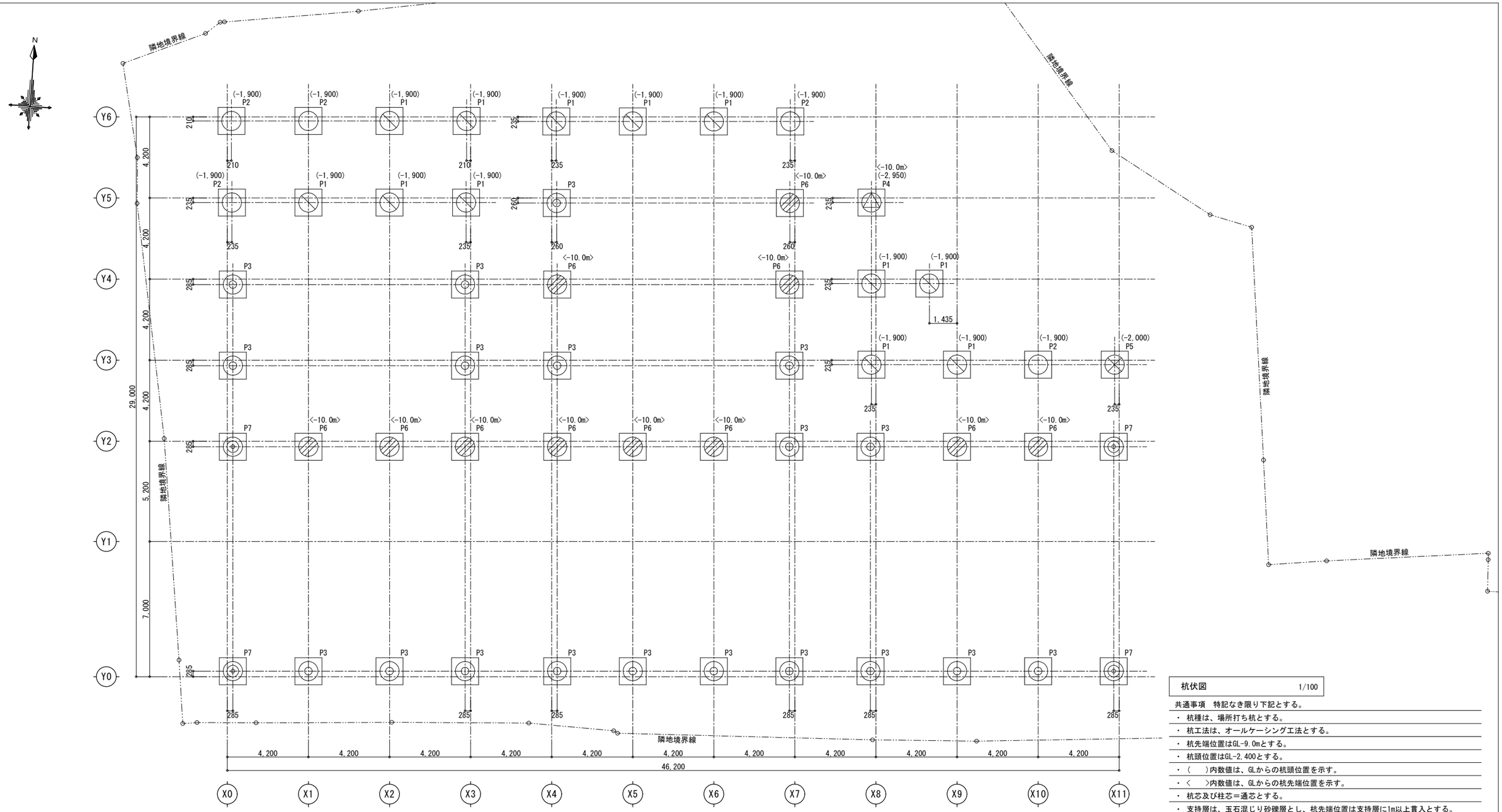
▽設計GL
425

▽基礎下端
設計GL-2,000
-2,100
-2,500
-3,050

▽杭先端位置
設計GL-9.0m
設計GL-10.0m

構造設計者
株式会社　コンパース
一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号　戸田　友一
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号

徳島県県土整備部営繕課	●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事	●図面番号　S-14	１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号 株式会社　宮建築設計 徳島市福島１丁目５番６号 TEL　（088）－625－5505（代）	
	●図面名　土質柱状図(2)	●縮尺　――	管理建築士　清水　康代　１級333707	



杭伏図　1/100

共通事項　特記なき限り下記とする。

- 杭種は、場所打ち杭とする。
- 杭工法は、オールケーシング工法とする。
- 杭先端位置はGL-9.0mとする。
- 杭頭位置はGL-2,400とする。
- (　　)内数値は、GLからの杭頭位置を示す。
- <　　>内数値は、GLからの杭先端位置を示す。
- 杭芯及び柱芯＝通芯とする。
- 支持層は、玉石混じり砂礫層とし、杭先端位置は支持層に1m以上貫入とする。
  設計杭先端位置まで掘削しても、杭先端位置が支持層に1m以上貫入されない場合は、
  支持層に1m貫入する位置まで掘削を行う。

杭リスト

符号	記号	頭部杭 (mm)	軸部杭 (mm)	拡底径 (mm)	杭天端 (m)	堀削長 (m)	杭実長 (m)	上部範囲 (m)	上部 主筋	上部 フープ	下部 主筋	下部 フープ	杭体Fc (N/mm²)	本数 (本)	総本数 (本)
P1	⊘	1,000	1,000	ストレート杭	1.90	9.0	7.10	5.0	12-D29	○-D13@150	6-D29	○-D13@300	27	12	53
P2	○	1,000	1,000	ストレート杭	1.90	9.0	7.10	5.0	12-D29	○-D13@150	6-D29	○-D13@300	27	5	
P3	◎	1,000	1,000	ストレート杭	2.40	9.0	6.60	5.0	12-D29	○-D13@150	6-D29	○-D13@300	27	19	
P4	△	1,000	1,000	ストレート杭	2.95	10.0	7.05	5.0	18-D29	○-D13@150	9-D29	○-D13@300	27	1	
P5	⊗	1,000	1,000	ストレート杭	2.00	9.0	7.00	5.0	12-D29	○-D13@150	6-D29	○-D13@300	27	1	
P6	⊘	1,000	1,000	ストレート杭	2.40	10.0	7.60	5.0	12-D29	○-D13@150	6-D29	○-D13@300	27	11	
P7	◎	1,000	1,000	ストレート杭	2.40	9.0	6.60	5.0	14-D29	○-D13@150	7-D29	○-D13@300	27	4	

構造設計者
株式会社　コンパース
一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号　戸田　友一

徳島県県土整備部営繕課

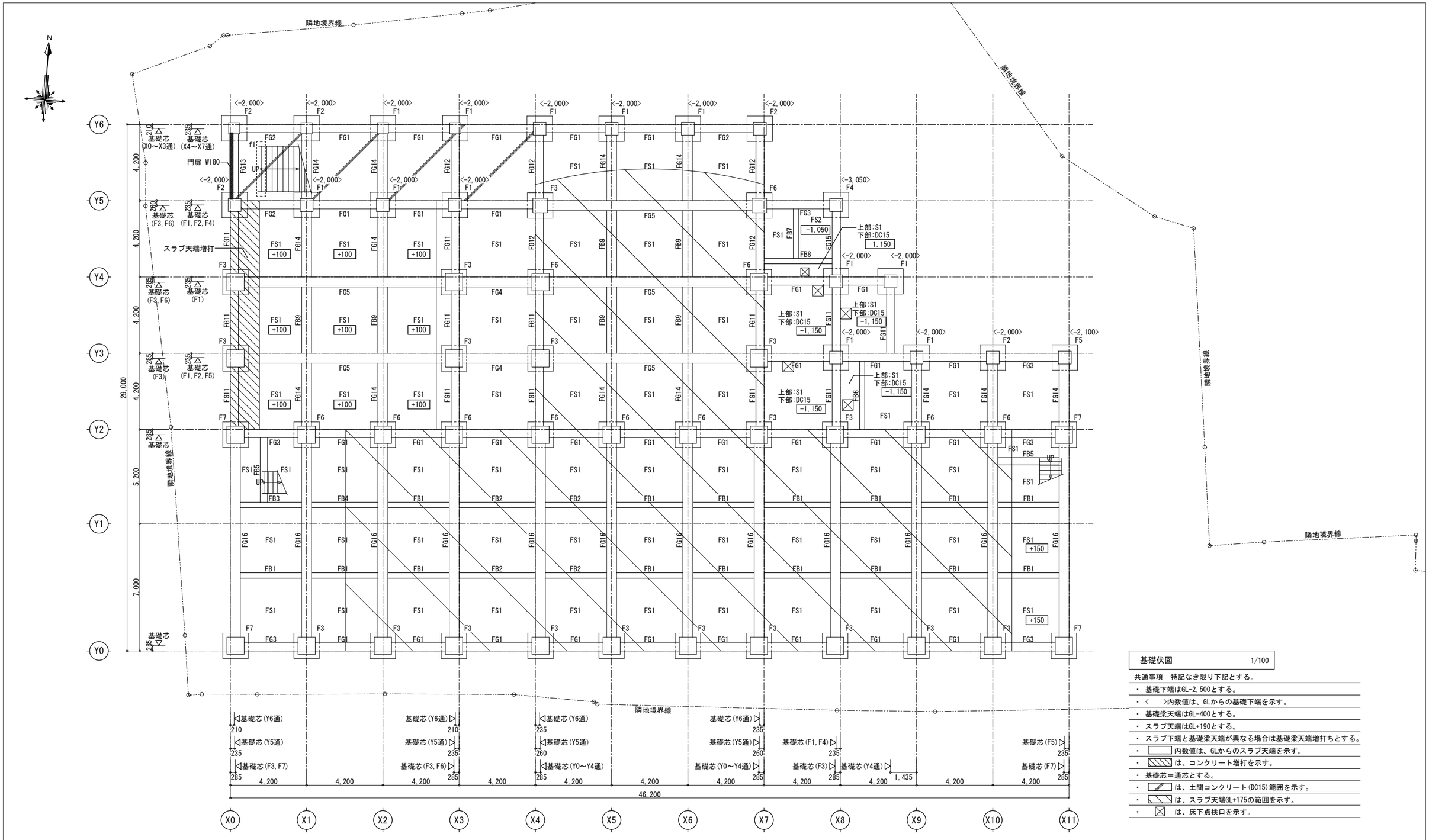
●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設
（仮称）新築工事のうち建築工事

●図面名　杭伏図

●図面番号　S-15

●縮尺　A1:1/100
A3:1/200

１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号
株式会社　宮建築設計
徳島市福島１丁目５番６号
TEL　(088)－625－5505（代）
管理建築士　清水　康代　１級333707



基礎伏図 1/100

共通事項　特記なき限り下記とする。

- 基礎下端はGL-2,500とする。
- 〈　〉内数値は、GLからの基礎下端を示す。
- 基礎梁天端はGL-400とする。
- スラブ天端はGL+190とする。
- スラブ下端と基礎梁天端が異なる場合は基礎梁天端増打ちとする。
- □ 内数値は、GLからのスラブ天端を示す。
- ▨ は、コンクリート増打を示す。
- 基礎芯＝通芯とする。
- ▨ は、土間コンクリート(DC15)範囲を示す。
- ▨ は、スラブ天端GL+175の範囲を示す。
- ⊠ は、床下点検口を示す。

構造設計者

株式会社　コンパース

一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号　　戸田　友一
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号

徳島県県土整備部営繕課	●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事	●図面番号　S-16	１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号 株式会社　宮建築設計 徳島市福島１丁目５番６号 TEL　(088)－625－5505（代） 管理建築士　清水　康代　１級333707
	●図面名　基礎伏図	●縮尺　A1:1/100　A3:1/200	

杭リスト

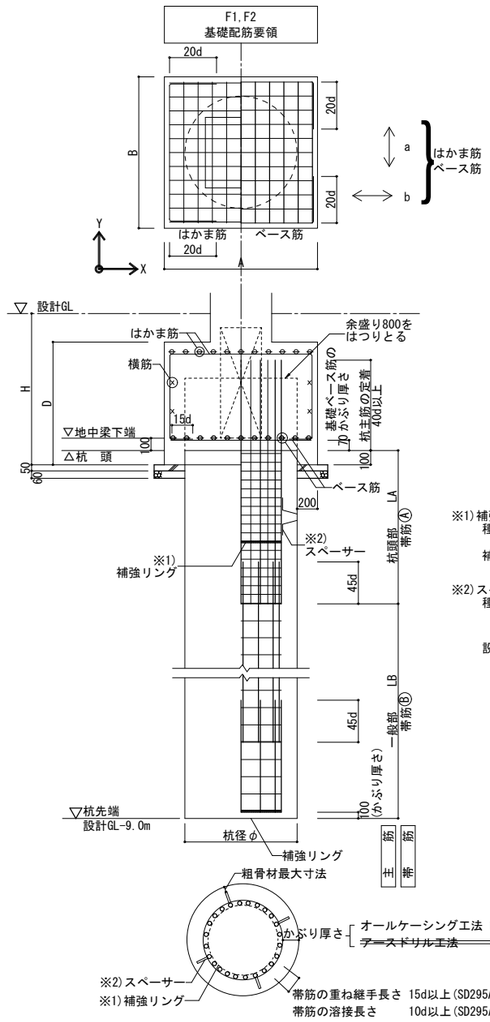
[特記事項]　※　杭施工管理技術者を置くこと。

1)工法　:●オールケーシング工法　○拡底杭(評定工法)
　○揺動式　●全周回転式
　○アースドリル工法
　○リバースサーキュレーション工法
　○ミニアース工法
　○深礎工法
　○手堀り　○機械堀り
　○BH工法
2)杭種　:場所打ちコンクリート杭
3)試験杭　:●1本　○2本　○3本　本杭として施工すること。
4)杭先端深さ　:設計GL-9.0m
5)超音波による側壁測定　:●全数実施する。(オールケーシング工法によるストレート杭は除く。)
6)杭頭処理　:硬化初期は、有害な振動や外力による悪影響を与えないようにすること。
7)コンクリートの種類　:●普通コンクリート
8)設計基準強度(Fc)　:27N/mm^2
9)調合管理強度(Fm)　:設計基準強度及び耐久設計基準強度に、構造体強度補正値(S)の3N/mm^2 を加えた値の内、大きい方の値とする。
10)セメントの種類　:●普通セメント　●高炉セメント(B種)　※高炉スラグの分量が、質量比で45%以下のものに限る。
　:スランプ　21cm以下、水セメント比60%以下
　※　高炉ｾﾒﾝﾄ(B種)使用時の水セメント比の算定方法については、特別評価方法認定第273号による。
　:単位水量200kg/m^3 以下、単位セメント量330kg/m^3 以上
　:空気量4.5%(空気量の許容差はレディーミクストコンクリート(JIS　A　5308)に準ずる)
11)鉄筋　:主筋　SD390(D29)
　帯筋　SD295A(D13)

杭符号	杭径 φ				主筋	帯筋			杭長(m)	
	杭頭部 φ	一般部 φ	拡底部 φ (設計径)	拡底部 φ (施工径)	杭頭部	一般部	Ⓐ	Ⓑ	LA	LB
P1	1000	1000	-	-	12-D29	6-D29	D13-150@	D13-300@	5.0	2.1
P2	1000	1000	-	-	12-D29	6-D29			5.0	2.1
P3	1000	1000	-	-	12-D29	6-D29			5.0	1.6
P4	1000	1000	-	-	18-D29	9-D29			5.0	2.05
P5	1000	1000	-	-	12-D29	6-D29			5.0	2.0
P6	1000	1000	-	-	12-D29	6-D29			5.0	2.6
P7	1000	1000	-	-	14-D29	7-D29			5.0	1.6

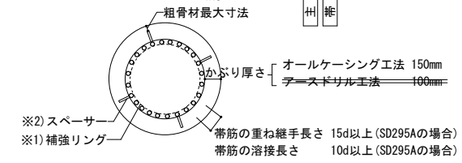
基礎リスト

基礎符号	杭径（φ１） 杭頭部	フーチング　A×B×D	フーチング深さH　GL-	ベース筋		はかま筋		横筋
				a	b	a	b	
F1	1000	1400 × 1400 × 1600	2000	8-D13	8-D13	8-D13	8-D13	D13-300@
F2	1000	1400 × 1400 × 1600	2000	8-D13	8-D13	8-D13	8-D13	D13-300@
F3	1000	1400 × 1400 × 1600	2500	8-D13	8-D13	8-D13	8-D13	D13-300@
F4	1000	1400 × 1400 × 1600	3050	8-D13	8-D13	8-D13	8-D13	D13-300@
F5	1000	1400 × 1400 × 1600	2100	8-D13	8-D13	8-D13	8-D13	D13-300@
F6	1000	1400 × 1400 × 1600	2500	8-D13	8-D13	8-D13	8-D13	D13-300@
F7	1000	1400 × 1400 × 1600	2500	8-D13	8-D13	8-D13	8-D13	D13-300@



※1)補強リング(環状保持)
　種別:鋼板6×50(杭径≦1.5m)
　　鋼板9×50～70(杭径>1.5m)
　補強間隔:
　3m以下且つ、1節につき3箇所程度

※2)スペーサー
　種別:オールケーシング工法　D13
　~~アースドリル工法　鋼板4.5×38(杭径≦1.2m)~~
　~~リバース工法　鋼板4.5×50(杭径>1.2m)~~
　設置間隔:3～5m且つ、4箇所以上



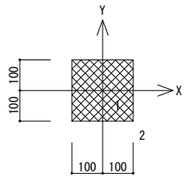
杭芯の偏心について

1.　杭の施工偏心量が
　X方向、Y方向とも100以下の場合

　・杭,基礎,基礎梁の変更はなし。

2.　杭の施工偏心量が
　X方向、Y方向のいずれかが、100を超える場合

　・杭,基礎,基礎梁とも再検討を行う。



構造設計者
株式会社　コンパース
一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号　戸田　友一
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号

徳島県県土整備部営繕課	●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事	●図面番号　S-17	１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号 株式会社　宮建築設計 徳島市福島１丁目５番６号 TEL　(088)－625－5505（代） 管理建築士　清水　康代　１級333707
	●図面名　杭・基礎リスト	●縮尺　A1:1/50　A3:1/100	

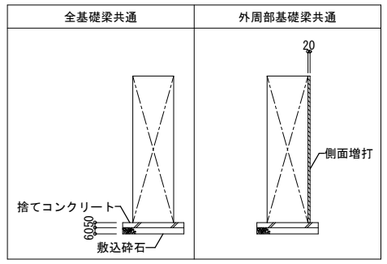
基礎大梁リスト　1/30

【特記事項】
・柱内に定着L2とする腹筋に重ね継手を設ける場合、重ね継手長さはL1とする。

符号	FG1	FG2	FG3	FG4	FG5	FG11	FG12	FG13	FG14	FG15	FG16
位置	全断	全断	全断	全断	両端　中央	全断	全断	全断	全断	全断	両端　中央
断面	▽設計GL 400 900 450	400 900 450	400 1,400 450	400 1,800 550	400 1,800 550	400 900 450	400 900 450	400 900 450	400 900 550	400 1,300 450	400 1,800 550
上端筋	7-D25	7-D25	7-D25	7-D25	8-D25　6-D25	6-D25	7-D25	7-D25	8-D25	7-D25	7-D25　6-D25
下端筋	6-D25	7-D25	7-D25	5-D25	7-D25　8-D25	6-D25	8-D25	7-D25	8-D25	7-D25	7-D25　8-D25
肋筋	D13-□-@100	D13-□-@100	D13-□-@100	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@100	D13-□-@100	D13-□-@100	D13-□-@100	D13-□-@100	D13-□-@200
腹筋	1X2-D10	1X2-D10	2X2-D10	3X2-D13	3X2-D13	1X2-D10	1X2-D10	1X2-D13(柱内に定着L2)	1X2-D10	2X2-D10	3X2-D13

基礎小梁リスト　1/30

符号	FB1	FB2	FB3	FB4	FB5	FB6	FB7	FB8	FB9
位置	全断	(X4)通端　中央　(X3)(X5)通端	(X0)通端　中央　(X1)通端	(X1)通端　中央　(X2)通端	両端　中央	全断	全断	両端　中央	全断
断面	▽設計GL 400 600 300	400 600 300	400 600 300	400 600 300	400 600 400	400 900 300	400 850 300	400 900 300	400 900 550
上端筋	3-D16	4-D16　3-D16　3-D16	3-D16　3-D16　5-D16	5-D16　3-D16　3-D16	3-D16　3-D16	3-D16	3-D16	3-D16　3-D16	8-D25
下端筋	3-D16	3-D16　3-D16　3-D16	3-D16　5-D16　3-D16	3-D16　3-D16　3-D16	3-D16　5-D16	3-D16	3-D16	3-D16　5-D16	8-D25
肋筋	D10-□-@200	D10-□-@200	D10-□-@200	D10-□-@200	D13-□-@200	D10-□-@200	D10-□-@200	D10-□-@200	D13-□-@200
腹筋	1X2-D10	1X2-D10	1X2-D10	1X2-D10	1X2-D10	1X2-D10	1X2-D10	1X2-D10	1X2-D10



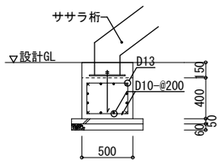
スラブリスト

記号	版厚	位置	短辺方向	長辺方向	備考
FS1	180	上筋	D13-@200	D13-@200	
		下筋	D13-@200	D13-@200	
FS2	200	上筋	D13-@150	D13-@150	
		下筋	D13-@150	D13-@150	
S1	180	上筋	D13-@200	D13-@200	
		下筋	D13-@200	D13-@200	

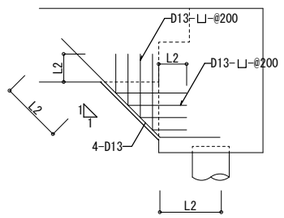
土間コンクリートリスト

採用	記号	厚さ	X方向	Y方向	備考
●	DC15	150	D10-@200シングル	D10-@200シングル	土間下、防湿材・断熱材等は意匠図による。
○	DC18	180	D10-@200ダブル	D10-@200ダブル	地業クラッシャーラン　t=100
○	DC20	200	D13-@200ダブル	D13-@200ダブル	

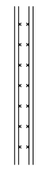
階段受基礎(f1)要領図　1/30



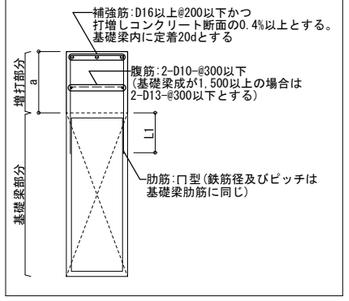
基礎梁ハンチ補強要領図　1/30



壁リスト　1/30

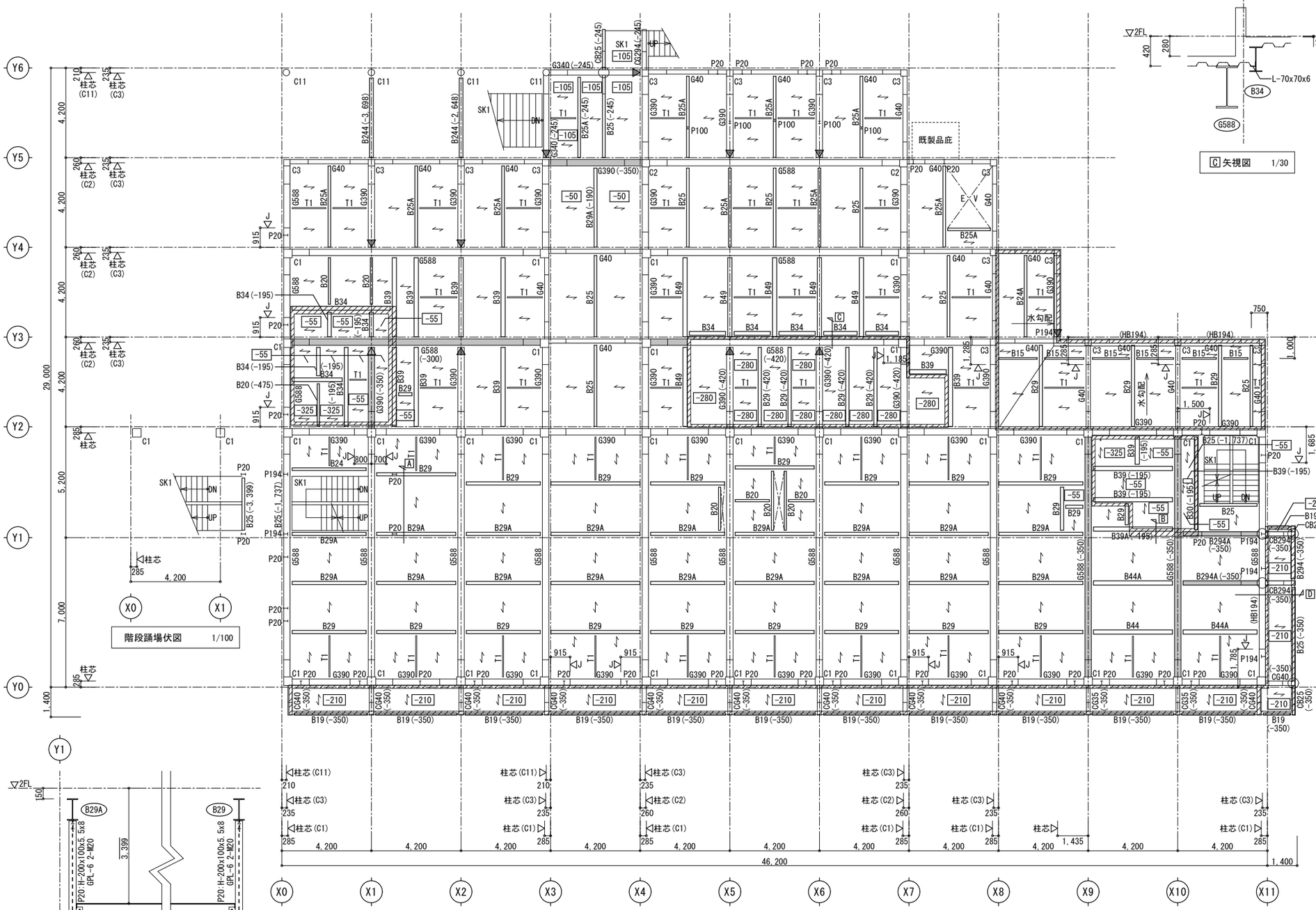
符号	W180
壁厚	180
断面	
配筋法	ダブル
縦筋	D13-@200
横筋	D13-@200 扉上部の横筋は扉側部から定着L2

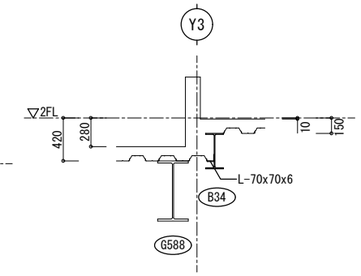
基礎梁増打要領図(a>100)



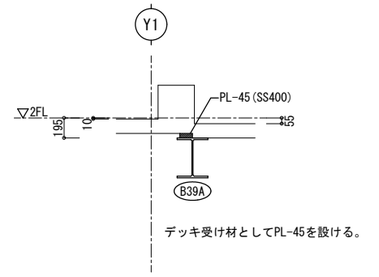
構造設計者
株式会社　コンパース
一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号　戸田　友一

徳島県県土整備部営繕課	●工事名　第2三好寮・三好市地域利便性施設 (仮称)新築工事のうち建築工事	●図面番号　S-18	1級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号 株式会社　宮建築設計 徳島市福島1丁目5番6号 TEL　(088)－625－5505(代) 管理建築士　清水　康代　1級333707
	●図面名　基礎梁リスト	●縮尺　A1:1/30　A3:1/60	



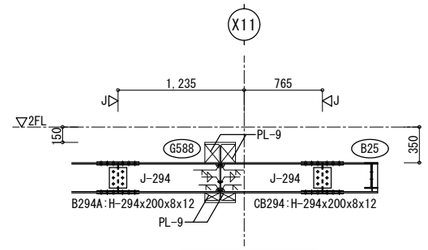


C 矢視図 1/30

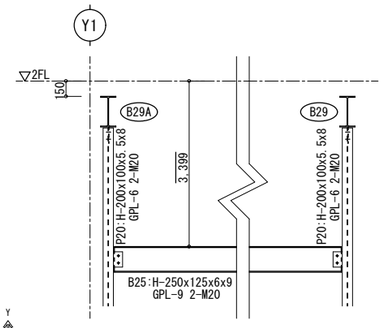


デッキ受け材としてPL-45を設ける。

B 矢視図 1/30



D 矢視図 1/30



A 矢視図 1/30

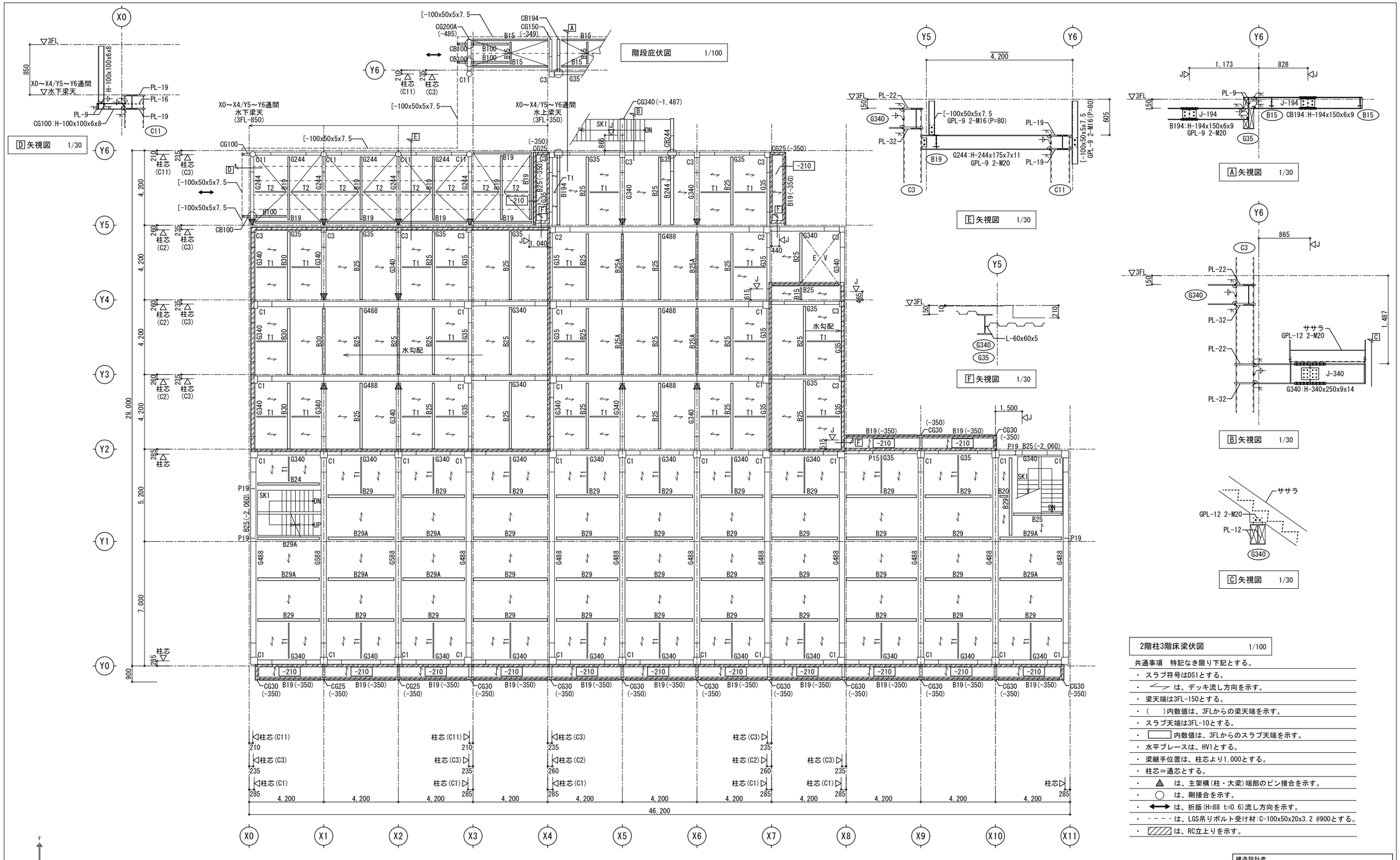
1階柱2階床梁伏図 1/100

共通事項　特記なき限り下記とする。

- スラブ符号はDS1とする。
- ⟋ は、デッキ流し方向を示す。
- 梁天端は2FL-150とする。
- (　)内数値は、2FLからの梁天端を示す。
- スラブ天端は2FL-10とする。
- ▭ 内数値は、2FLからのスラブ天端を示す。
- 梁継手位置は、柱芯より1,000とする。
- 柱芯＝通芯とする。
- ▲ は、主架構(柱・大梁)端部のピン接合を示す。
- ○ は、剛接合を示す。
- ▭ の範囲の梁上には、デッキプレート受け材を設けること。
- ▨ は、RC立上りを示す。

構造設計者
株式会社　コンパース
一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号　戸田　友一

徳島県県土整備部営繕課	●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事	●図面番号　S-19	１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号 株式会社　宮建築設計 徳島市福島１丁目５番６号 TEL　（088）－625－5505（代） 管理建築士　清水　康代　１級333707
	●図面名　1階柱2階床梁伏図	●縮尺　A1:1/100,30　A3:1/200,60	



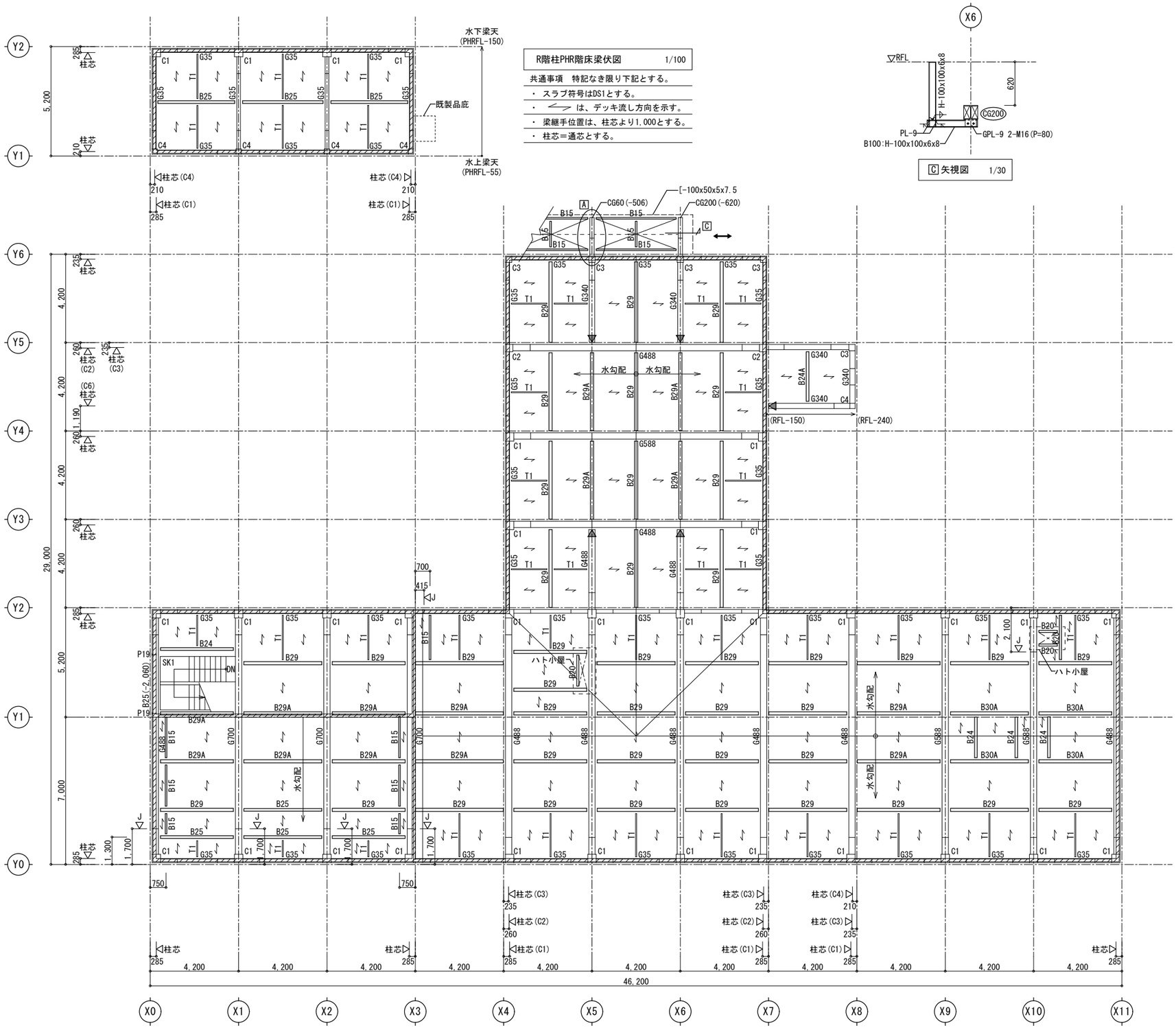
2階柱3階床梁伏図 1/100

共通事項　特記なき限り下記とする。

- スラブ符号はDS1とする。
- ⟋ は、デッキ流し方向を示す。
- 梁天端は3FL-150とする。
- (　　)内数値は、3FLからの梁天端を示す。
- スラブ天端は3FL-10とする。
- ▭ 内数値は、3FLからのスラブ天端を示す。
- 水平ブレースは、HV1とする。
- 梁継手位置は、柱芯より1,000とする。
- 柱芯＝通芯とする。
- ▲ は、主架構(柱・大梁)端部のピン接合を示す。
- ○ は、剛接合を示す。
- ⟷ は、折版(H=88 t=0.6)流し方向を示す。
- ----は、LGS吊りボルト受け材:C-100x50x20x3.2 @900とする。
- ▨ は、RC立上りを示す。

構造設計者
株式会社　コンパース
一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号　戸田　友一

徳島県県土整備部営繕課	●工事名　第２三好察・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事	●図面番号　S-20	１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号 株式会社　宮建築設計 徳島市福島１丁目５番６号 TEL　(088)－625－5505（代） 管理建築士　清水　康代　１級333707
	●図面名　2階柱3階床梁伏図	●縮尺　A1:1/100,30　A3:1/200,60	

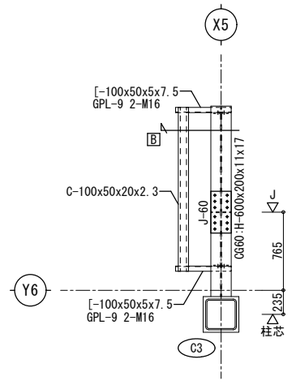


R階柱PHR階床梁伏図　1/100

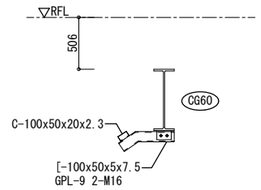
共通事項　特記なき限り下記とする。

- スラブ符号はDS1とする。
- ⟋ は、デッキ流し方向を示す。
- 梁継手位置は、柱芯より1,000とする。
- 柱芯＝通芯とする。

C 矢視図　1/30



A 部折版受け要領図　1/30



B 矢視図　1/30

3階柱R階床梁伏図　1/100

共通事項　特記なき限り下記とする。

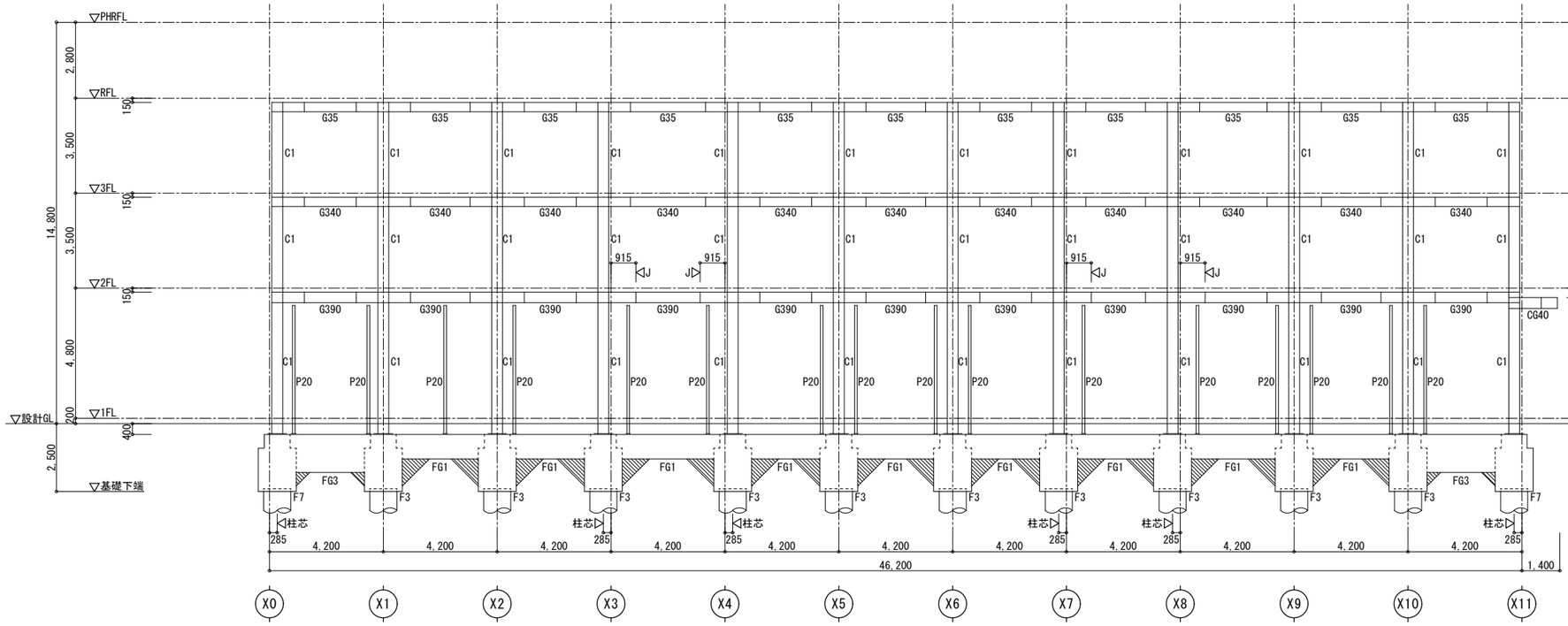
- スラブ符号はDS1とする。
- ⟋ は、デッキ流し方向を示す。
- 梁天端はRFL-150とする。
- (　)内数値は、RFLからの梁天端を示す。
- スラブ天端はRFL-10とする。
- 水平ブレースは、HV1とする。
- 梁継手位置は、柱芯より1,000とする。
- 柱芯＝通芯とする。
- ▲ は、主架構(柱・大梁)端部のピン接合を示す。
- ⟷ は、折版(H=88 t=0.6)流し方向を示す。
- ---- は、LGS吊りボルト受け材:C-100x50x20x3.2 @900とする。
- ▨ は、RC立上りを示す。

構造設計者

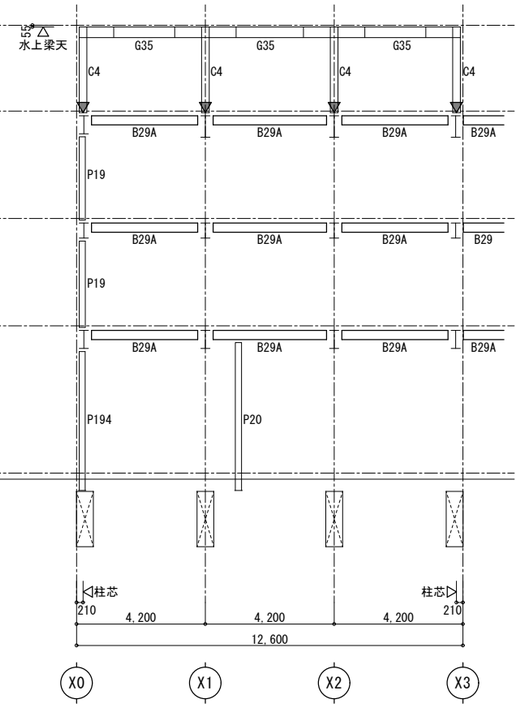
株式会社　コンパース

一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号　戸田　友一

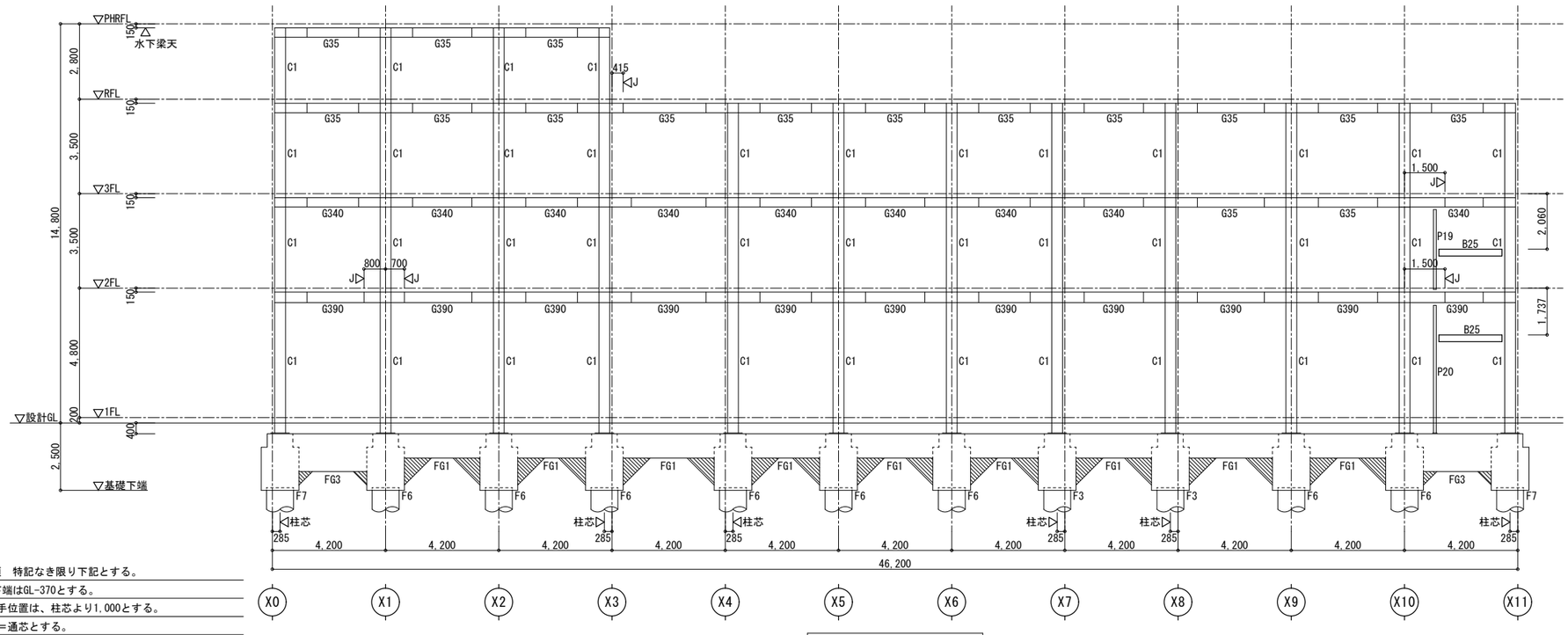
徳島県県土整備部営繕課	●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事	●図面番号　S-21	１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号 株式会社　宮建築設計 徳島市福島１丁目５番６号 TEL　(088)－625－5505（代） 管理建築士　清水　康代　１級333707
	●図面名　3～R階柱R～PHR階床梁伏図	●縮尺　A1:1/100,30　A3:1/200,60	



Y0通り軸組図　1/100



Y1通り軸組図　1/100



Y2通り軸組図　1/100

共通事項　特記なき限り下記とする。

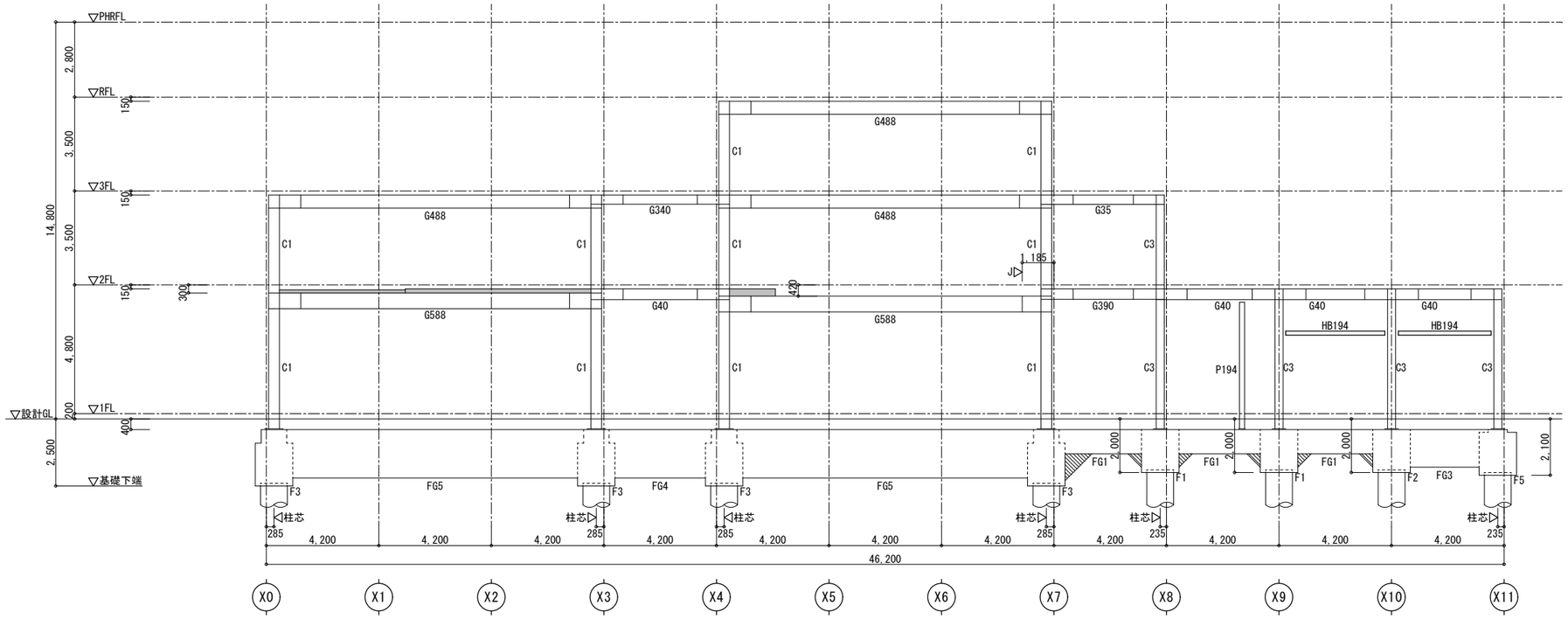
- BPL下端はGL-370とする。
- 梁継手位置は、柱芯より1,000とする。
- 柱芯＝通芯とする。
- ▲ は、主架構(柱・大梁)端部のピン接合を示す。
- ▨ は、コンクリート増打を示す。

構造設計者

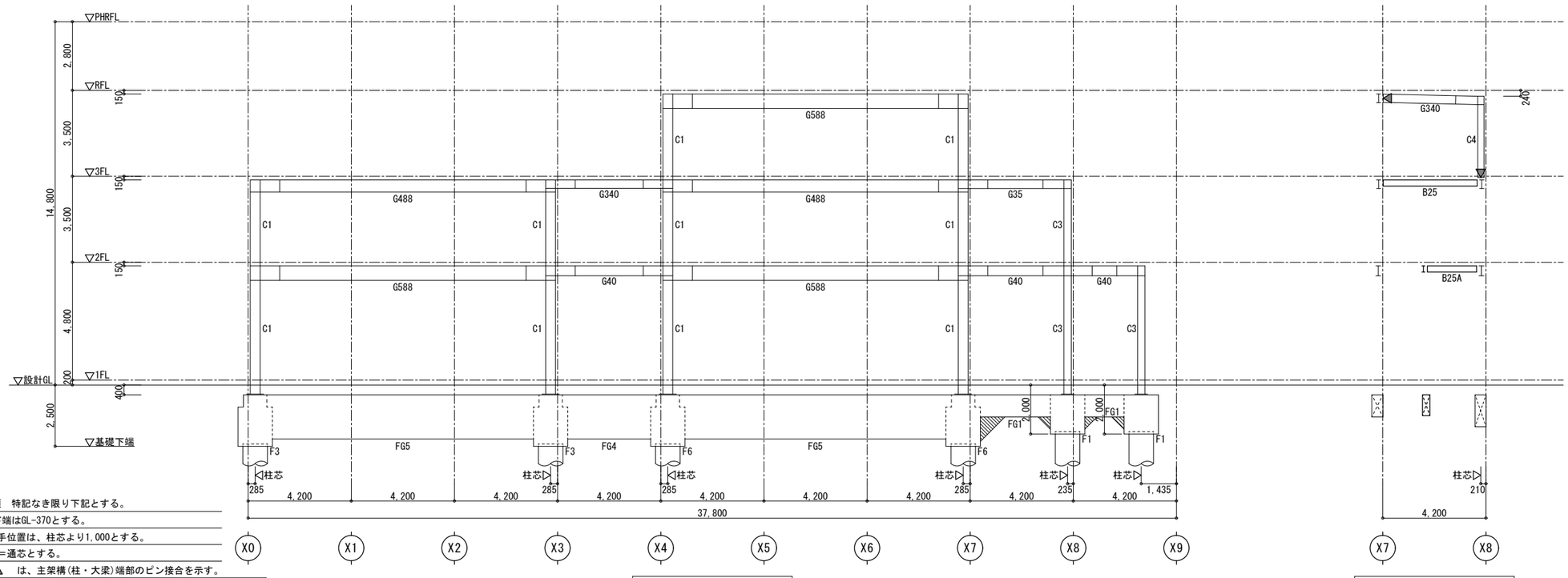
株式会社　コンパース

一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号　戸田　友一

徳島県県土整備部営繕課	●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事	●図面番号　S-22	１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号 株式会社　宮建築設計 徳島市福島１丁目５番６号 TEL　(088)－625－5505（代）
	●図面名　軸組図(1)	●縮尺　A1:1/100　A3:1/200	管理建築士　清水　康代　１級333707



Y3通り軸組図　1/100



Y4通り軸組図　1/100

Y4+1,190通り軸組図　1/100

共通事項　特記なき限り下記とする。

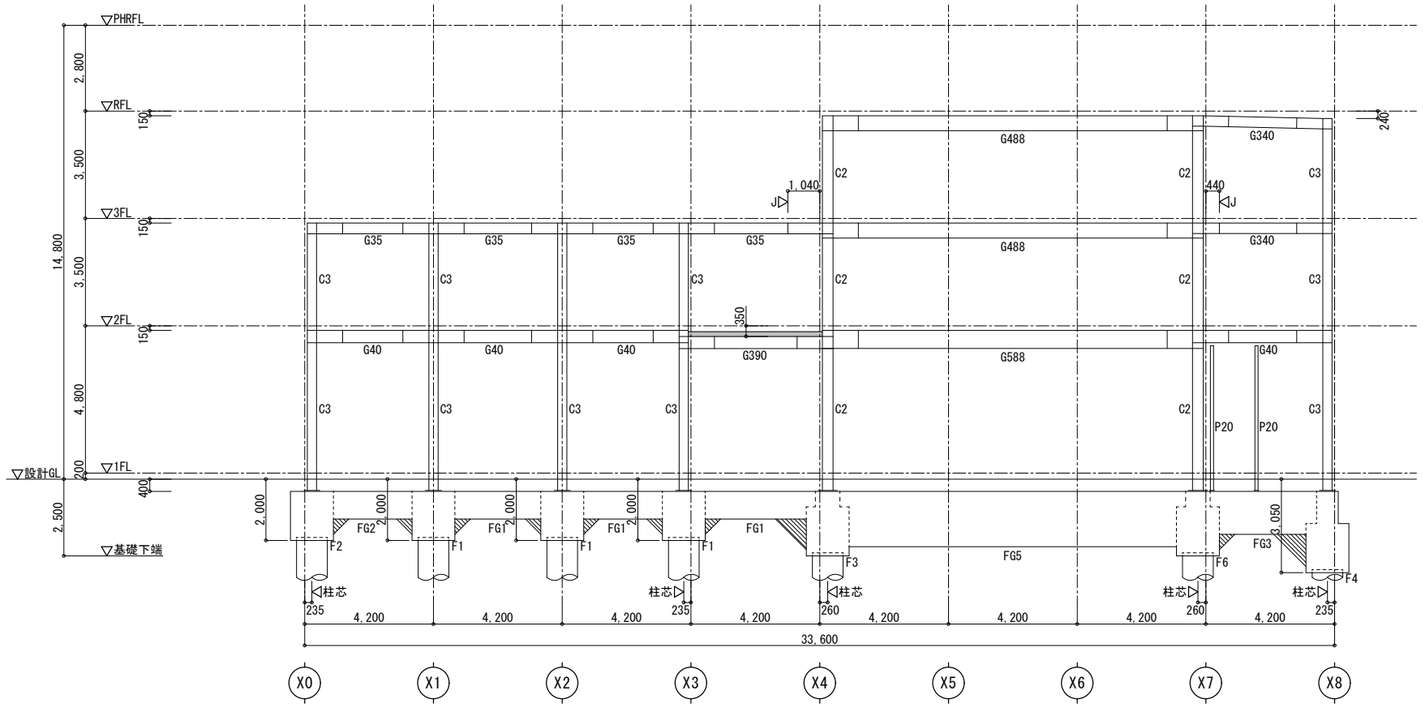
- BPL下端はGL-370とする。
- 梁継手位置は、柱芯より1,000とする。
- 柱芯＝通芯とする。
- ▲ は、主架構(柱・大梁)端部のピン接合を示す。
- ▭ の範囲の梁上には、デッキプレート受け材を設けること。
- ▨ は、コンクリート増打を示す。

構造設計者

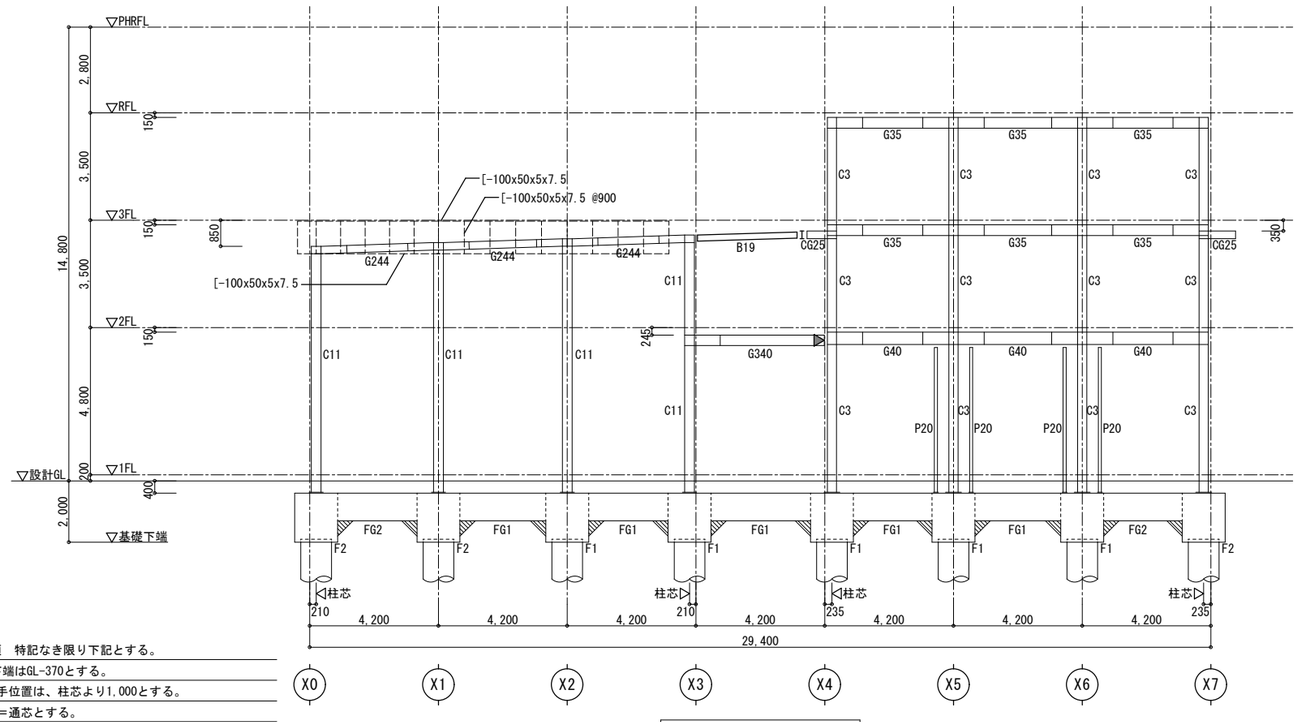
株式会社　コンパース

一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号　　戸田　友一
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号

徳島県県土整備部営繕課	●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事	●図面番号　S-23	1級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号 株式会社　宮建築設計 徳島市福島１丁目５番６号 TEL　(088)－625－5505（代） 管理建築士　清水　康代　1級333707
	●図面名　軸組図(2)	●縮尺　A1:1/100　A3:1/200	



Y5通り軸組図　1/100



Y6通り軸組図　1/100

共通事項　特記なき限り下記とする。

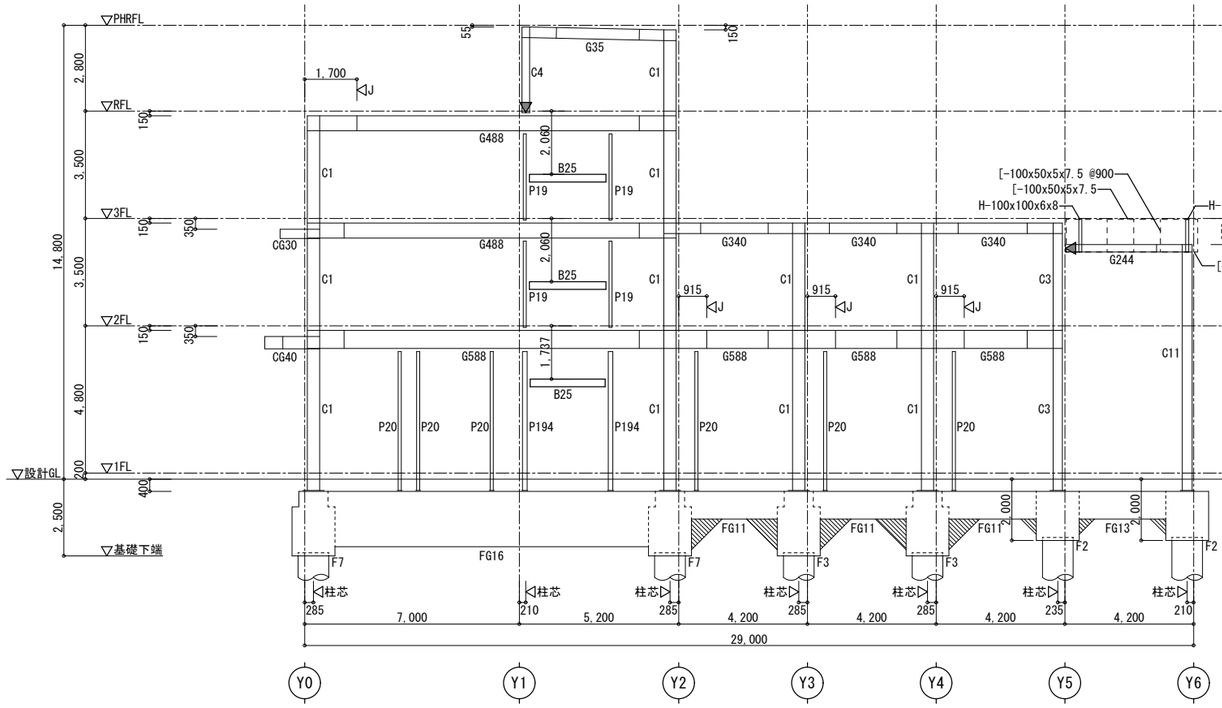
- BPL下端はGL-370とする。
- 梁継手位置は、柱芯より1,000とする。
- 柱芯＝通芯とする。
- ▲ は、主架構(柱・大梁)端部のピン接合を示す。
- ▨ は、コンクリート増打を示す。

構造設計者

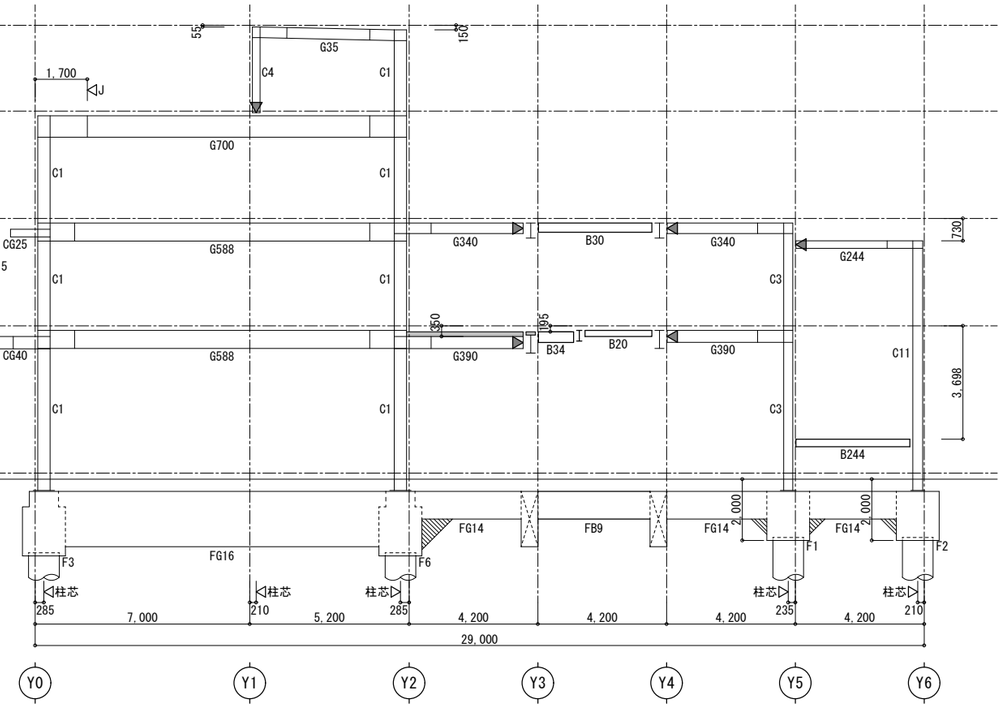
株式会社　コンパース

一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号　戸田　友一

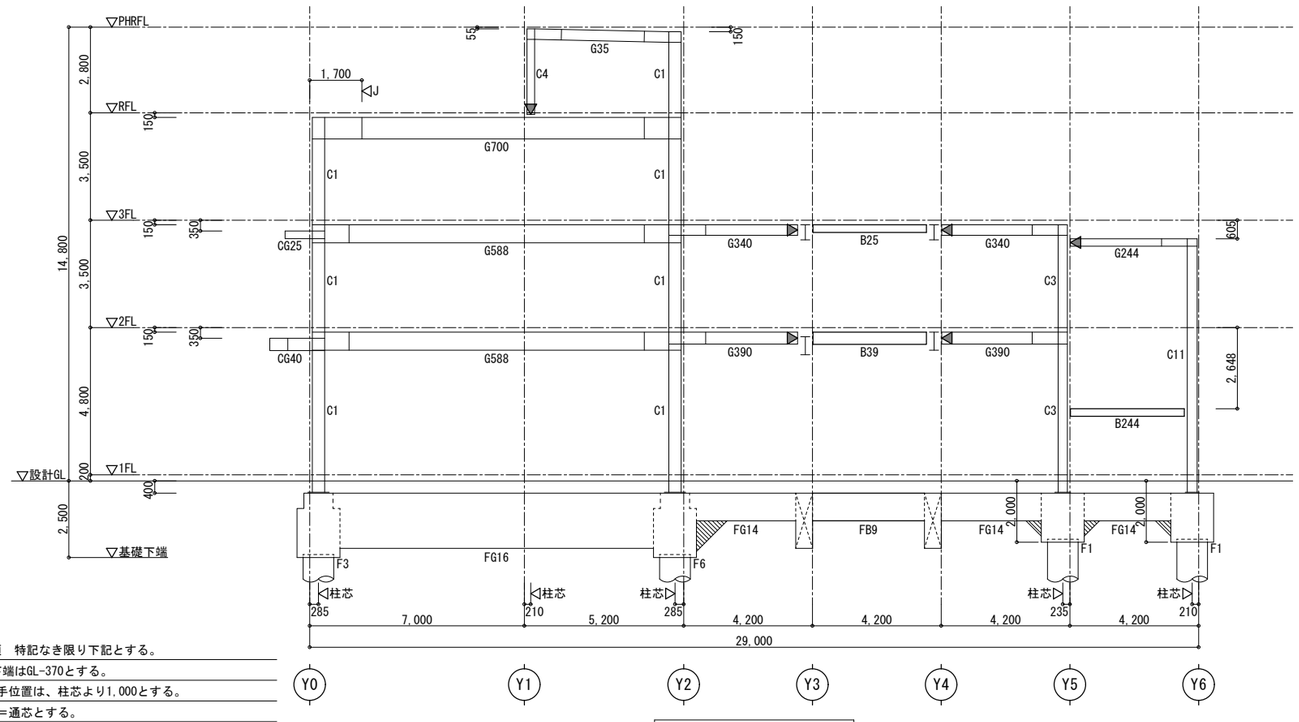
徳島県県土整備部営繕課	●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事	●図面番号　S-24	１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号 株式会社　宮建築設計 徳島市福島１丁目５番６号 TEL　(088)－625－5505（代） 管理建築士　清水　康代　１級333707
	●図面名　軸組図(3)	●縮尺　A1:1/100　A3:1/200	



X0通り軸組図　1/100



X1通り軸組図　1/100



X2通り軸組図　1/100

共通事項　特記なき限り下記とする。

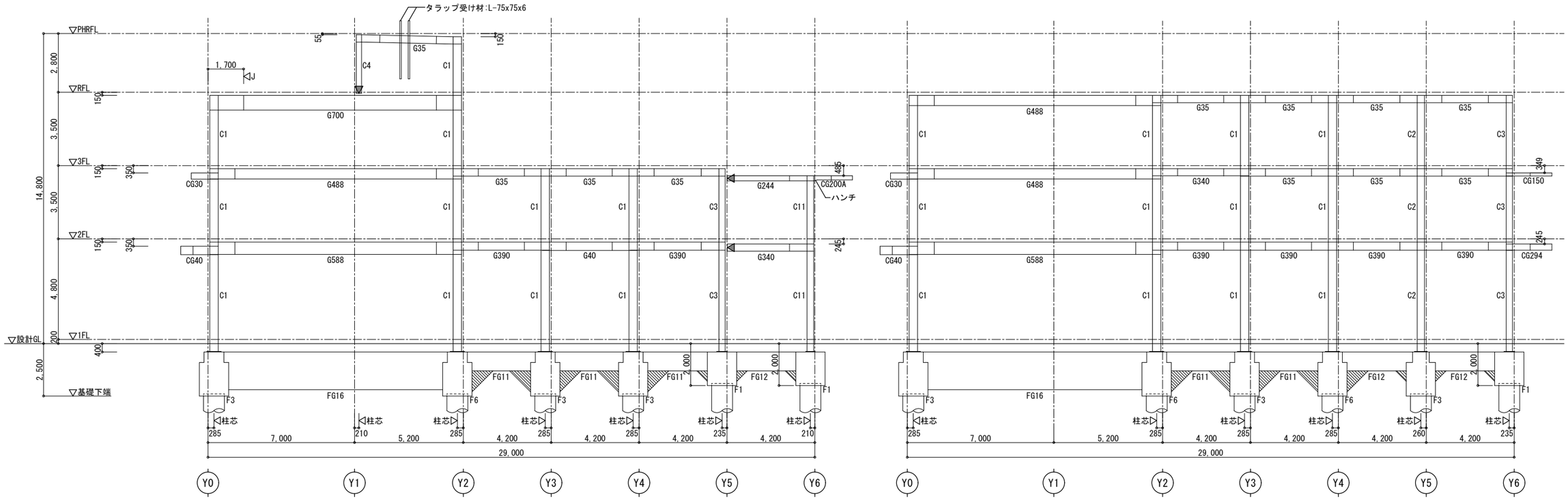
- BPL下端はGL-370とする。
- 梁継手位置は、柱芯より1,000とする。
- 柱芯＝通芯とする。
- ▲ は、主架構(柱・大梁)端部のピン接合を示す。
- ▨ は、コンクリート増打を示す。

構造設計者

株式会社　コンパース

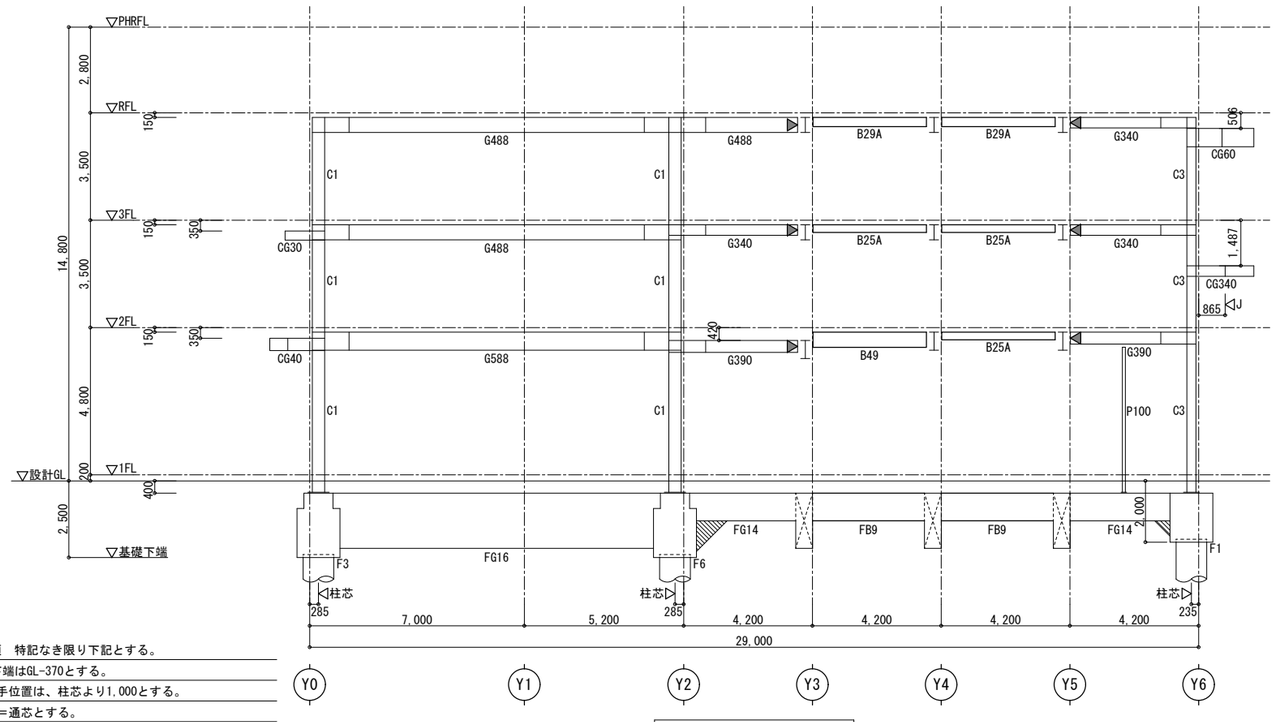
一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号　戸田　友一

徳島県県土整備部営繕課	●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事	●図面番号　S-25	１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号 株式会社　宮建築設計 徳島市福島１丁目５番６号 TEL　(088)－625－5505（代）
	●図面名　軸組図(4)	●縮尺　A1:1/100　A3:1/200	管理建築士　清水　康代　１級333707



X3通り軸組図 1/100

X4通り軸組図 1/100



X5通り軸組図 1/100

共通事項　特記なき限り下記とする。

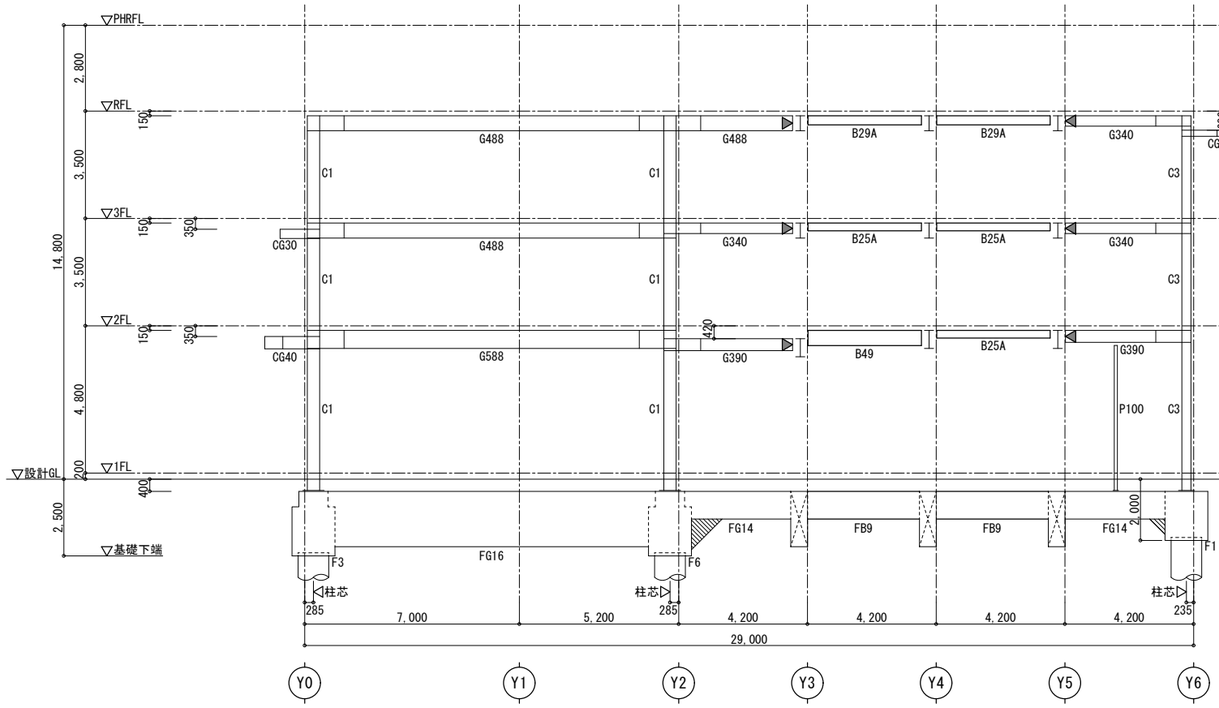
- BPL下端はGL-370とする。
- 梁継手位置は、柱芯より1,000とする。
- 柱芯＝通芯とする。
- ▲ は、主架構(柱・大梁)端部のピン接合を示す。
- ▨ は、コンクリート増打を示す。

構造設計者

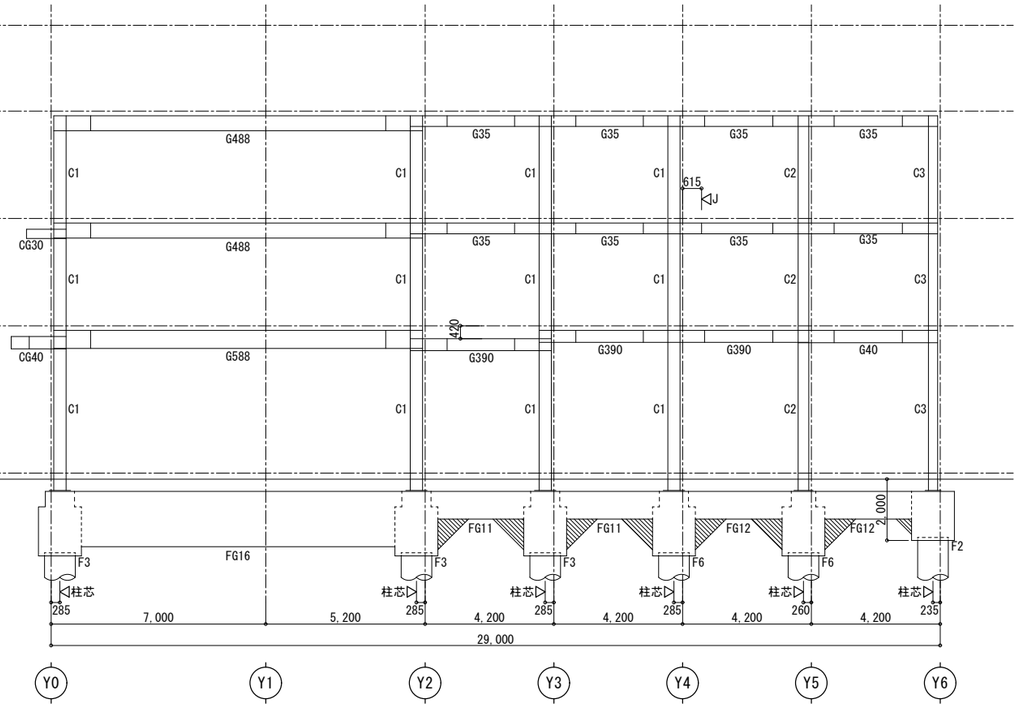
株式会社　コンパース

一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号　戸田　友一

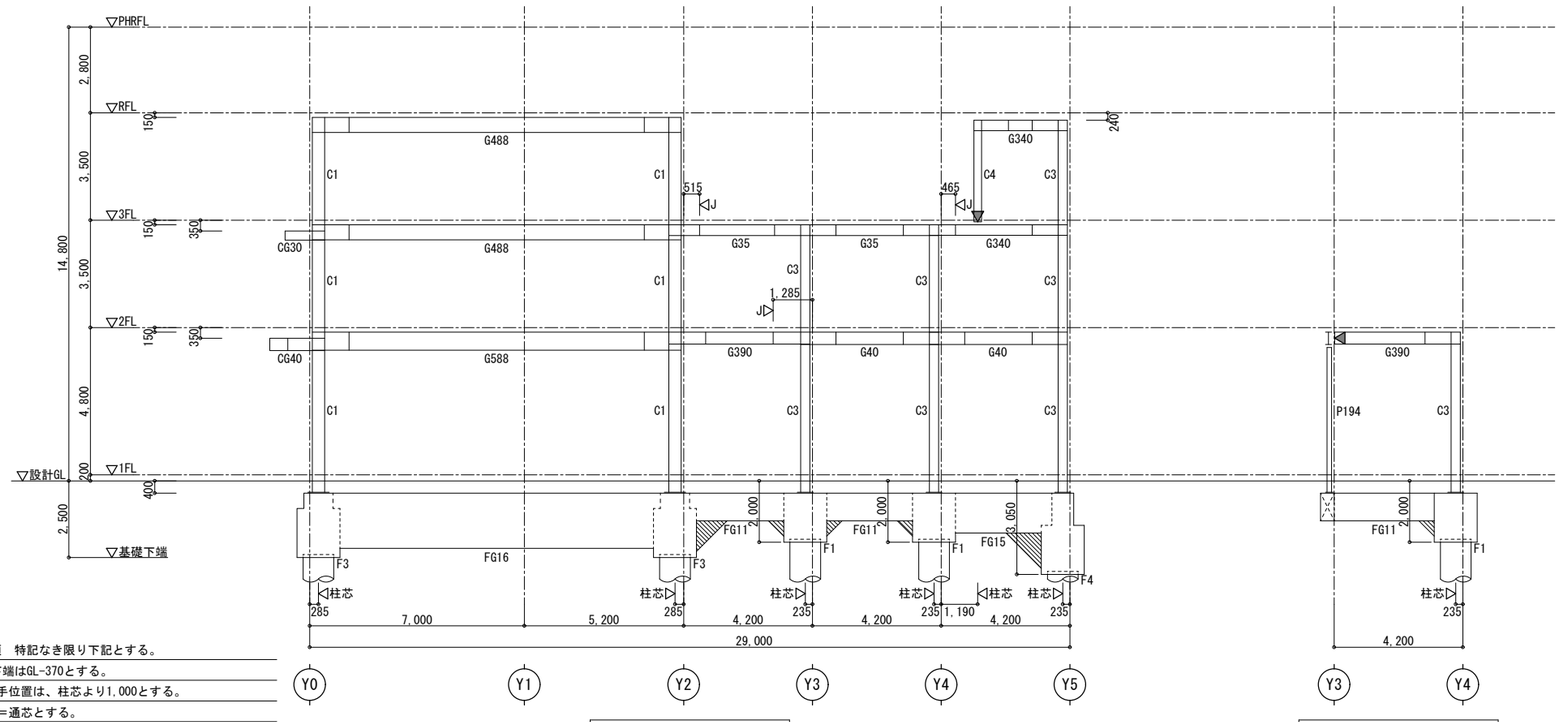
徳島県県土整備部営繕課	●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事	●図面番号　S-26	１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号 株式会社　宮建築設計 徳島市福島１丁目５番６号 TEL　(088)－625－5505（代）	
	●図面名　軸組図(5)	●縮尺　A1:1/100　A3:1/200	管理建築士　清水　康代　１級333707	



X6通り軸組図　1/100



X7通り軸組図　1/100



X8通り軸組図　1/100

X8+2,765通り軸組図　1/100

共通事項　特記なき限り下記とする。

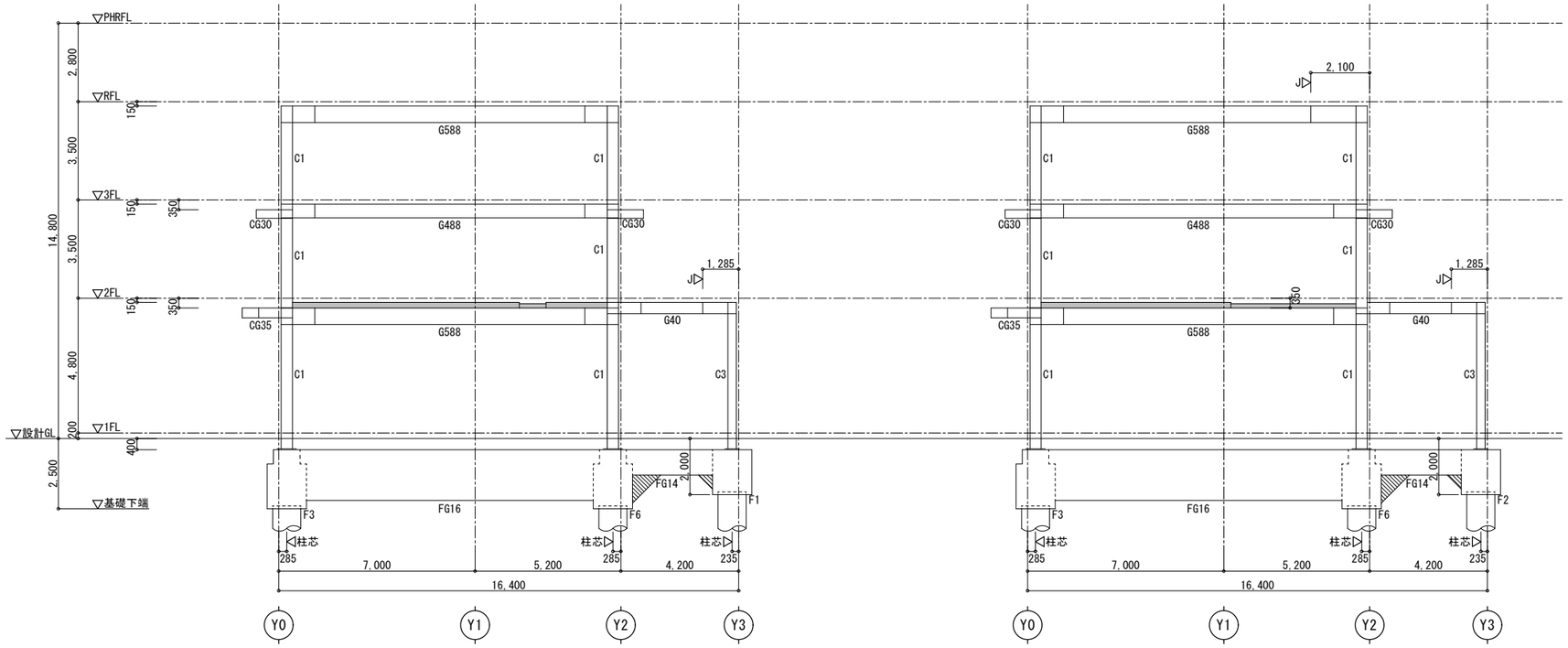
- BPL下端はGL-370とする。
- 梁継手位置は、柱芯より1,000とする。
- 柱芯＝通芯とする。
- ▲ は、主架構(柱・大梁)端部のピン接合を示す。
- ▨ は、コンクリート増打を示す。

構造設計者

株式会社　コンパース

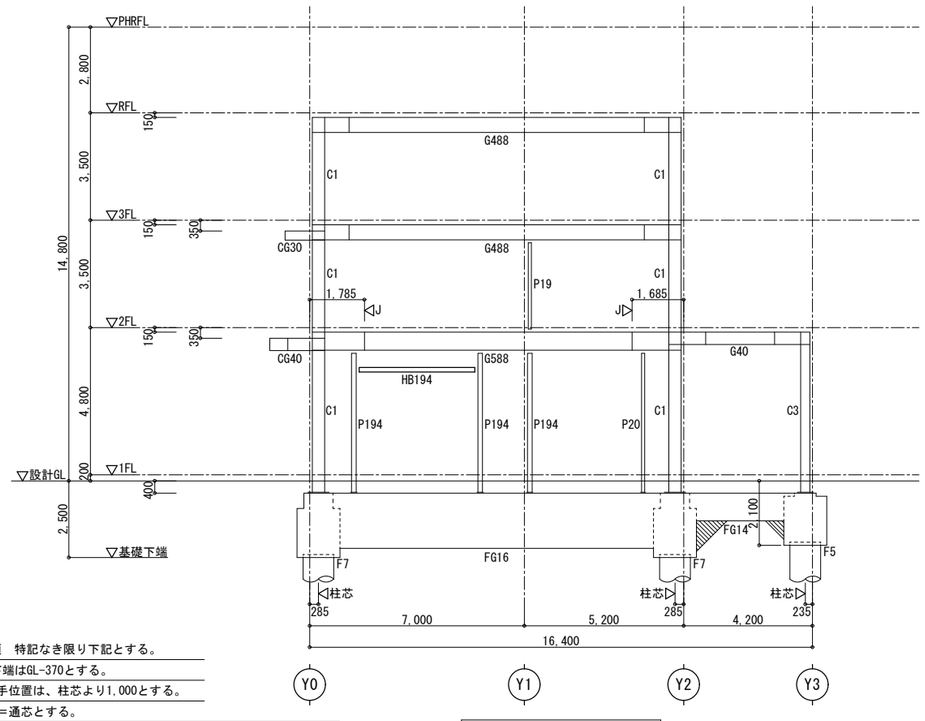
一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号　戸田　友一

徳島県県土整備部営繕課	●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事	●図面番号　S-27	１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号 株式会社　宮建築設計 徳島市福島１丁目５番６号 TEL　(088)－625－5505（代） 管理建築士　清水　康代　１級333707
	●図面名　軸組図(6)	●縮尺　A1:1/100　A3:1/200	



X9通り軸組図　1/100

X10通り軸組図　1/100



X11通り軸組図　1/100

共通事項　特記なき限り下記とする。

- BPL下端はGL-370とする。
- 梁継手位置は、柱芯より1,000とする。
- 柱芯＝通芯とする。
- ▭ の範囲の梁上には、デッキプレート受け材を設けること。
- ▨ は、コンクリート増打を示す。

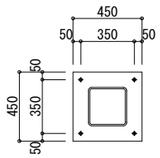
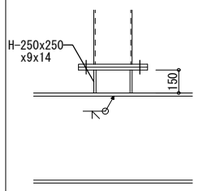
構造設計者

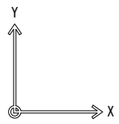
株式会社　コンパース

一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号　戸田　友一

	徳島県県土整備部営繕課	●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事	●図面番号　S-28	１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号 株式会社　宮建築設計 徳島市福島１丁目５番６号 TEL　(088)－625－5505（代）
		●図面名　軸組図(7)	●縮尺　A1:1/100　A3:1/200	管理建築士　清水　康代　１級333707

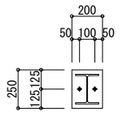
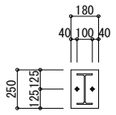
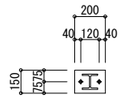
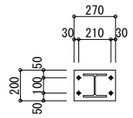
柱リスト　1/20

符号	C1	C2	C3	C4	C11
PHF階	全断　□-400x400x16 (BCR295)			全断　□-250x250x9 (BCR295)	
3階	全断　□-400x400x16 (BCR295)	全断　□-350x350x16 (BCR295)	全断　□-300x300x12 (BCR295)	全断　□-250x250x9 (BCR295)	
2階	全断　□-400x400x16 (BCR295)	全断　□-350x350x16 (BCR295)	全断　□-300x300x12 (BCR295)		全断　○-318.5x10.3 (STK400)
1階	全断　□-400x400x19 (BCR295)	全断　□-350x350x16 (BCR295)	全断　□-300x300x16 (BCR295)		全断　○-318.5x10.3 (STK400)
鉄骨柱脚	ベースパック標準図による 40-19R	ベースパック標準図による 35-16R	ベースパック標準図による 30-16V		ベースパック標準図による 318-13V2
ピン接合					
仕口	――	――	――	BPL-19 4-M20	――
ベースプレート	――	――	――	――	――
アンカーボルト	――	――	――	――	――
RC柱脚	ベースパック標準図による 40-19R	ベースパック標準図による 35-16R	ベースパック標準図による 30-16V		ベースパック標準図による 318-13V2
主筋	――	――	――	――	――
帯筋	――	――	――	――	――

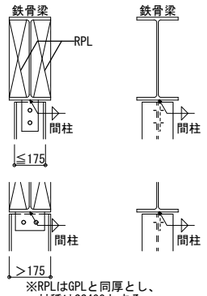


間柱リスト　1/20

※のついた部材は、亜鉛メッキ加工とする。

符号	P194	P20	P19	P100	CP150 ※
鉄骨柱脚	全断　H-194x150x6x9 	全断　H-200x100x5.5x8 	全断　H-198x99x4.5x7	全断　H-100x100x6x8 	全断　H-150x150x7x10 
仕口	GPL-9 2-M20	GPL-6 2-M20	GPL-6 2-M20	GPL-9 2-M16	――
ベースプレート	BPL-16	BPL-16	――	BPL-16	BPL-19
アンカーボルト	A.B.2-M20(SS400)L=400 フック付きダブルナット締め	A.B.2-M16(SS400)L=320 フック付きダブルナット締め	――	A.B.2-M16(SS400)L=320 フック付きダブルナット締め	A.B.4-M16(SS400)L=320 フック付きダブルナット締め

間柱仕口要領



※RPLはGPLと同厚とし、
材種はSS400とする。

鉄骨部材リスト　共通事項

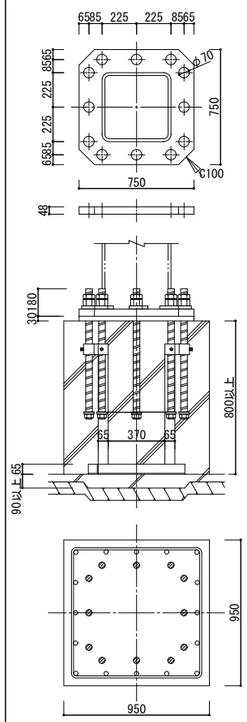
- 特記なき限り、鋼材材質はSS400とする。
- 特記なき限り、ボルトはS10Tとする。
- F8Tは溶融亜鉛めっき高力ボルトとする。

構造設計者
株式会社　コンパース
一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号　戸田　友一

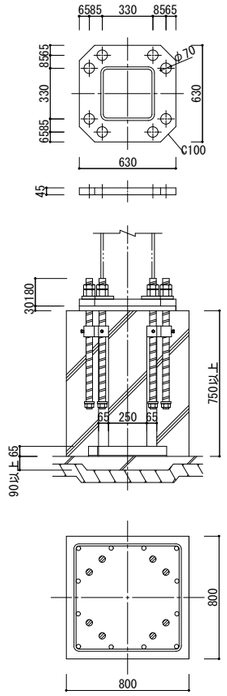
徳島県県土整備部営繕課	●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設 （仮称）新築工事のうち建築工事	●図面番号 S-29	１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号 株式会社　宮建築設計 徳島市福島１丁目５番６号 TEL　(088)－625－5505（代）	
	●図面名　鉄骨部材リスト(1)	●縮尺 A1:1/20 A3:1/40	管理建築士　清水　康代　１級333707	

ベースパックリスト 1/20

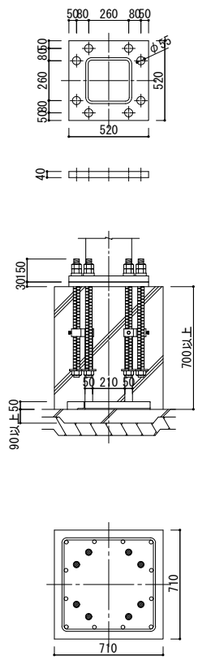
ベースパック 40-19R



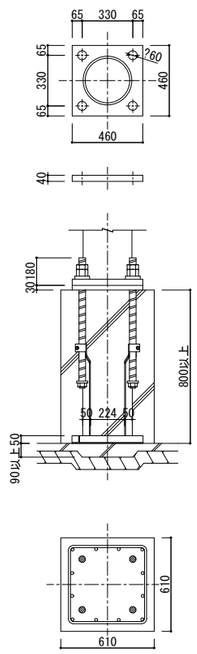
ベースパック 35-16R



ベースパック 30-16V



ベースパック 318-13V2



柱部材	□-400x400x19	柱部材	□-350x350x12	柱部材	□-300x300x16	柱部材	外径	板厚
							φ300.0, φ318.5	t≦12.7
ベースプレート	750×750×48	ベースプレート	630x630x45	ベースプレート	520×520×40	ベースプレート	460x460x40(SN490B)	
アンカーボルト	12-D38(BPD-SD390)	アンカーボルト	8-D38(BPD-SD390)	アンカーボルト	8-M36(BPM-SD490)	アンカーボルト	4-D38(BPD-SD390)	
コンクリート柱断面	950×950	コンクリート柱断面	800x800(780x780)	コンクリート柱断面	710×710	コンクリート柱断面	610x610	
立上り筋	16-D25(SD345)	立上り筋	12-D25(SD345)	立上り筋	12-D22(SD345)	立上り筋	12-D19(SD345)	
フープ筋	D13@100(SD295)	フープ筋	D13@100(SD295)	フープ筋	D13@100(SD295)	フープ筋	D13@100(SD295)	
コンクリート設計基準強度	21N/mm²以上	コンクリート設計基準強度	21N/mm²以上	コンクリート設計基準強度	21N/mm²以上	コンクリート設計基準強度	21N/mm²以上	

鉄骨部材リスト　共通事項

・特記なき限り、鋼材材質はSS400とする。
・特記なき限り、ボルトはS10Tとする。
・F8Tは溶融亜鉛めっき高力ボルトとする。

構造設計者

株式会社　コンパース

一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号　戸田　友一

徳島県県土整備部営繕課	●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事	●図面番号　S-30	１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号 株式会社　宮建築設計 徳島市福島１丁目５番６号 TEL　（088）－625－5505（代） 管理建築士　清水　康代　１級333707
	●図面名　鉄骨部材リスト(2)	●縮尺　A1:1/20　A3:1/40	

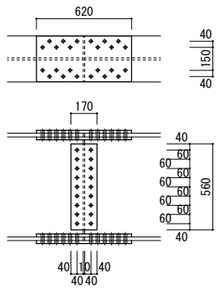
大梁リスト

符　号	G700	G588	G488	G390	G40	G340	G35	G244
断面	全断　H-700x300x13x24	全断　H-588x300x12x20	全断　H-488x300x11x18	全断　H-390x300x10x16	全断　H-400x200x8x13	全断　H-340x250x9x14	全断　H-350x175x7x11	全断　H-244x175x7x11
	継手　J-700	継手　J-588	継手　J-488	継手　J-390	継手　J-40	継手　J-340	継手　J-35	継手　J-244
			仕口　GPL-12 4-M20	仕口　GPL-12 4-M20		仕口　GPL-12 3-M20		

符　号	CG60	CG340	CG40	CG35	CG294	CG30	CG200	CG200A	CG25	CG150	CG100
断面	全断　H-600x200x11x17	全断　H-340x250x9x14	全断　H-400x200x8x13	全断　H-350x175x7x11	全断　H-294x200x8x12	全断　H-300x150x6.5x9	全断　H-200x200x8x12	元端　BH-244x200x8x12	全断　H-250x125x6x9	全断　H-150x150x7x10	全断　H-100x100x6x8
	継手　J-60	継手　J-340	継手　J-40	継手　J-35	継手　J-294	継手　J-30	継手　J-200	先端　H-200x200x8x12		継手　J-150	
								継手　J-200			

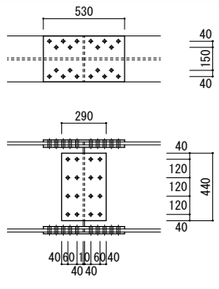
継手リスト　1/20

J-700	H-700x300x13x24



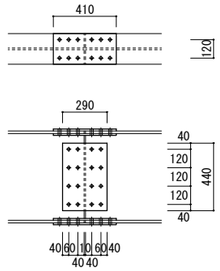
フランジ外添板:19x300x620
内添板:19x110x620　48-M20
ウェブ　添板: 9x560x170　18-M20

J-588	H-588x300x12x20



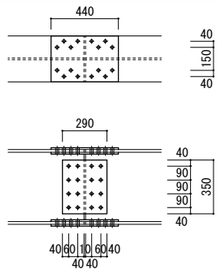
フランジ外添板:12x300x530
内添板:16x110x530　40-M20
ウェブ　添板: 9x440x290　16-M20

J-60	H-600x200x11x17 H-596x199x10x15



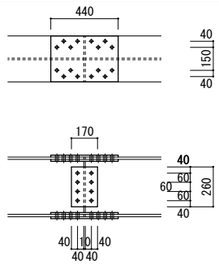
フランジ外添板:12x200x410
内添板:12x 80x410　24-M20
ウェブ　添板: 9x440x290　16-M20

J-488	H-488x300x11x18



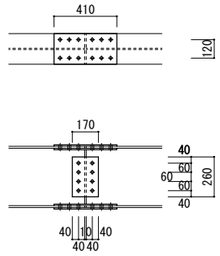
フランジ外添板:12x300x440
内添板:12x110x440　32-M20
ウェブ　添板:12x350x290　16-M20

J-390	H-390x300x10x16



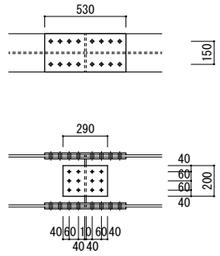
フランジ外添板:12x300x440
内添板:12x110x440　32-M20
ウェブ　添板: 9x260x170　8-M20

J-40	H-400x200x8x13 H-396x199x7x11



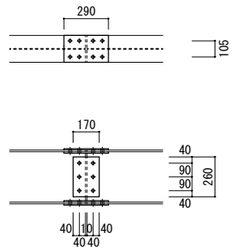
フランジ外添板: 9x200x410
内添板: 9x 80x410　24-M20
ウェブ　添板: 9x260x170　8-M20

J-340	H-340x250x9x14



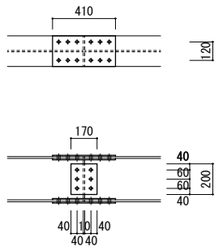
フランジ外添板:12x250x530
内添板:12x100x530　32-M20
ウェブ　添板: 9x200x290　12-M20

J-35	H-350x175x7x11 H-346x174x6x 9



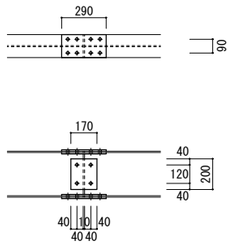
フランジ外添板: 9x175x290
内添板: 9x 70x290　16-M20
ウェブ　添板: 6x260x170　6-M20

J-294	H-294x200x8x12



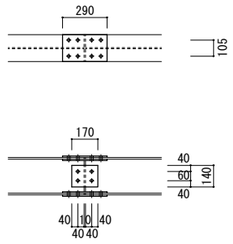
フランジ外添板: 9x200x410
内添板: 9x 80x410　24-M20
ウェブ　添板: 9x200x170　6-M20

J-30	H-300x150x6.5x9 H-298x149x5.5x8



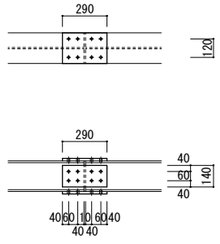
フランジ外添板: 9x150x290
内添板: 9x 60x290　16-M20
ウェブ　添板: 6x200x170　4-M20

J-244	H-244x175x7x11



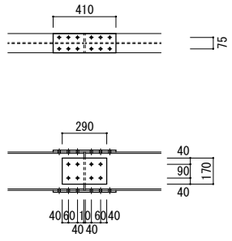
フランジ外添板: 9x175x290
内添板: 9x 70x290　16-M20
ウェブ　添板: 9x140x170　4-M20

J-200	H-200x200x8x12



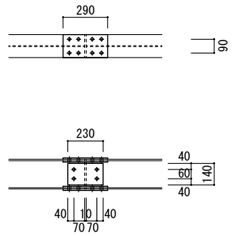
フランジ外添板: 9x200x290
内添板: 9x 80x290　16-M20
ウェブ　添板: 6x140x290　8-M20

J-25	H-250x125x6x9 H-248x124x5x8



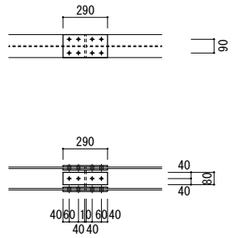
フランジ外添板:12x125x410　24-M16
内添板:　————
ウェブ　添板: 6x170x290　8-M16

J-194	H-194x150x6x9



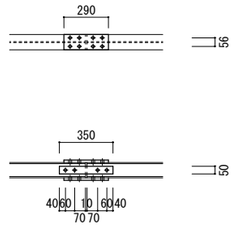
フランジ外添板: 9x150x290
内添板: 9x 60x290　16-M20
ウェブ　添板: 6x140x230　4-M20

J-150	H-150x150x7x10



フランジ外添板: 9x150x290
内添板: 9x 60x290　16-M16
ウェブ　添板: 9x 80x290　4-M16

J-100	H-100x100x6x8



フランジ外添板:16x100x290　16-M16
内添板:　————
ウェブ　添板: 9x 50x350　4-M16

鉄骨部材リスト　共通事項

- 特記なき限り、鋼材材質はSS400とする。
- 特記なき限り、ボルトはS10Tとする。
- F8Tは溶融亜鉛めっき高力ボルトとする。

構造設計者
株式会社　コンパース
一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号　戸田　友一

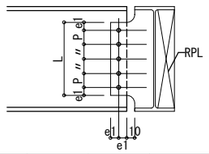
徳島県県土整備部営繕課	●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事	●図面番号　S-31	１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号 株式会社　宮建築設計 徳島市福島１丁目５番６号 TEL　(088)－625－5505（代） 管理建築士　清水　康代　１級333707
	●図面名　鉄骨部材リスト(3)	●縮尺　A1:1/20　A3:1/40	

部材リスト

※のついた部材は、亜鉛メッキ加工とする。

符号	部材	符号	部材	符号	部材	符号	部材
B49	全断 H-496x199x9x14	B244	全断 H-244x175x7x11	CB294	全断 H-294x200x8x12	HB194	全断 H-194x150x6x9
			継手 J-244		継手 J-294		(横使い)
	仕口 GPL-12 5-M20		仕口 GPL-9 2-M20				仕口 GPL-9 2-M20
B44	全断 H-446x199x8x12	B25	全断 H-250x125x6x9	CB244	全断 H-244x175x7x11		
			継手 J-25		継手 J-244		
	仕口 GPL-9 4-M20		仕口 GPL-9 2-M20				
B44A	全断 H-446x199x8x12	B25A	全断 H-250x125x6x9	CB25	全断 H-250x125x6x9		
					継手 J-25		
	仕口 GPL-9 4x2-M20		仕口 GPL-9 2x2-M20				
B39	全断 H-396x199x7x11	B24	全断 H-248x124x5x8	CB194	全断 H-194x150x6x9		
					継手 J-194		
	仕口 GPL-9 4-M20		仕口 GPL-6 2-M20				
B39A	全断 H-396x199x7x11	B24A	全断 H-248x124x5x8	CB20	全断 H-200x100x5.5x8		
	仕口 GPL-9 4x2-M20		仕口 GPL-6 2-M20				
B34	全断 H-346x174x6x9	B194	全断 H-194x150x6x9	CB100	全断 H-100x100x6x8	T1	全断 [-100x50x5x7.5
			継手 J-194				
	仕口 GPL-9 3-M20		仕口 GPL-9 2-M20				仕口 GPL-9 2-M16
B294	全断 H-294x200x8x12	B20	全断 H-200x100x5.5x8			T2	全断 [-100x50x5x7.5
	継手 J-294						
	仕口 GPL-9 3-M20		仕口 GPL-6 2-M20				仕口 GPL-9 2-M16
B294A	全断 H-294x200x8x12	B19	全断 H-198x99x4.5x7				
	継手 J-294						
	仕口 GPL-9 3x2-M20		仕口 GPL-6 2-M20				
B30	全断 H-300x150x6.5x9	B15	全断 H-150x75x5x7			SK1	ササラ桁 PL-12x300
							踏板・蹴込み板 PL-6
	仕口 GPL-9 3-M20		仕口 GPL-6 2-M16				仕口 GPL-12 2-M20
B30A	全断 H-300x150x6.5x9	B15A ※	全断 H-150x75x5x7				柱脚 BPL-16
							A.B.2-M16(SS400)L=320
	仕口 GPL-9 3x2-M20		仕口 GPL-6 2-M16(F8T)				ダブルナット締め(フック付き)
B29	全断 H-298x149x5.5x8	B100	全断 H-100x100x6x8				
			継手 J-100				
	仕口 GPL-6 3-M20		仕口 GPL-9 2-M16				
B29A	全断 H-298x149x5.5x8						
	仕口 GPL-9 3x2-M20						

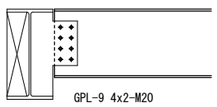
小梁仕口要領



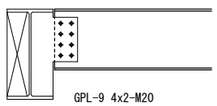
ボルト径	ボルト孔径	標準ピッチ	縁端距離
	φ(mm)	P(mm)	e1(mm)
M16	18.0	60	40
M20	22.0	70	40

※RPLはGPLと同厚とする。

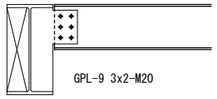
B44A仕口要領図 1/20



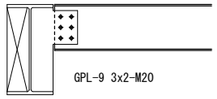
B39A仕口要領図 1/20



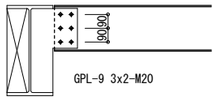
B294A仕口要領図 1/20



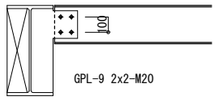
B30A仕口要領図 1/20



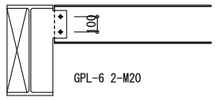
B29A仕口要領図 1/20



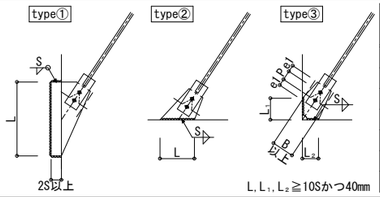
B25A仕口要領図 1/20



B24A仕口要領図 1/20



ブレースリスト(JISターンバックル筋かい)

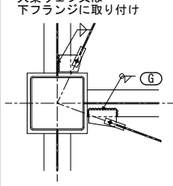


符号	部材	仕口	プレート必要幅	溶接長さ		
			B(mm)	type①L	type②L	type③L1+L2
	M12	GPL- 6 1-M16	60	60	42	54
	M16	GPL- 9 1-M16	70	80	56	72
HV1	M20	GPL- 9 1-M20	80	97	65	81
	M22	GPL-12 1-M22	80	100	70	90
	M24	GPL-12 2-M20	90	112	76	96
	M27	GPL-12 2-M20	90	145	93	113
	M30	GPL-12 2-M22	100	177	109	129

水平ブレース取付要領図

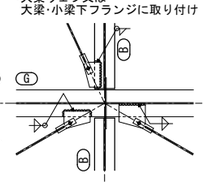
柱-大梁仕口部

・大梁ウェブ又は
下フランジに取り付け



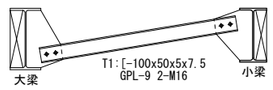
梁交差部

・大梁ウェブ又は
大梁・小梁下フランジに取り付け

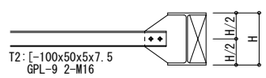


※やむを得ず偏心させる場合は監理者と協議すること。
※T符号の部材には取り付けないこと。

床デッキ部分座屈止め(T1)要領図 1/20



屋根部分座屈止め(T2)要領図 1/20



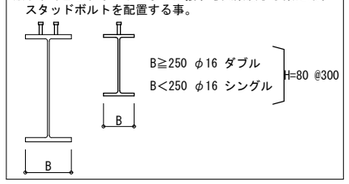
床版リスト 1/20

DS1

※ 勾配コンクリート部
X・Y方向共D10-@200

梁上スタッドボルト要領(大梁・小梁)

※デッキコンクリートスラブに接する大梁及び小梁には、
スタッドボルトを配置する事。

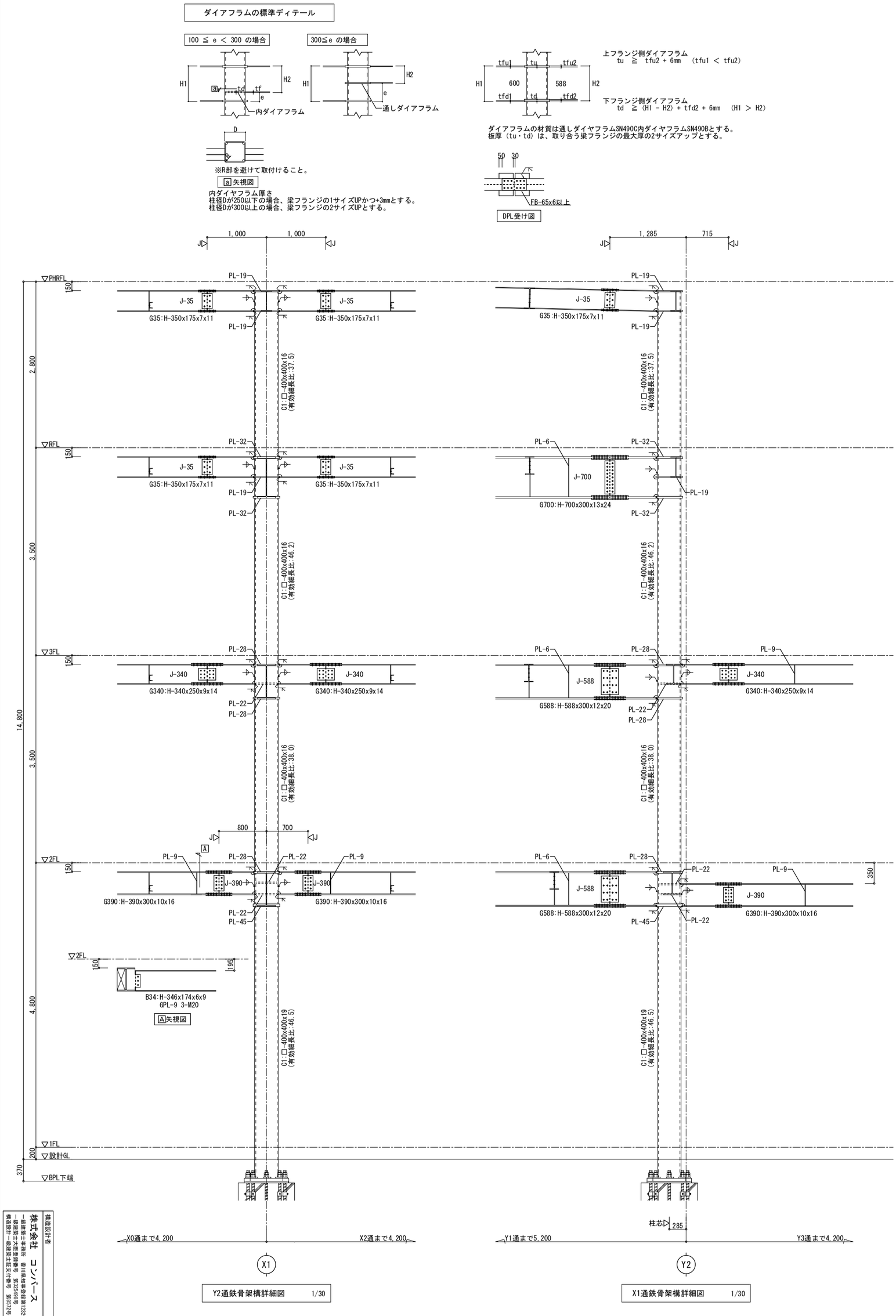


鉄骨部材リスト 共通事項

・特記なき限り、鋼材材質はSS400とする。
・特記なき限り、ボルトはS10Tとする。
・F8Tは溶融亜鉛めっき高力ボルトとする。

構造設計者
株式会社 コンパース
一級建築士事務所 香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号 第325498号
構造設計一級建築士証交付番号 第8572号 戸田 友一

徳島県県土整備部営繕課	●工事名 第2三好寮・三好市地域利便性施設 (仮称) 新築工事のうち建築工事	●図面番号 S-32	1級建築士事務所 徳島県知事登録第11050号 株式会社 宮建築設計 徳島市福島1丁目5番6号 TEL (088)-625-5505(代) 管理建築士 清水 康代 1級333707
	●図面名 鉄骨部材リスト(4)	●縮尺 A1:1/20 A3:1/40	



構造設計者
株式会社 コンパース
一級建築士事務所 香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号 第325498号
構造設計一級建築士証交付番号 第8572号 戸田 友一

●工事名 第2三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事

●図面名 鉄骨架構詳細図

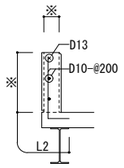
●図面番号 S-33

●縮尺 A1:1/30 A3:1/60

1級建築士事務所 徳島県知事登録第11050号
株式会社 宮建築設計
徳島市福島1丁目5番6号
TEL (088)−625−5505（代）
管理建築士 清水 康代 1級333707

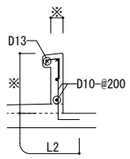
徳島県県土整備部営繕課

パラペット配筋要領図 1/30



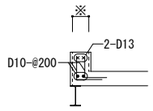
※は意匠図による。

出入口踏板部配筋要領図 1/30



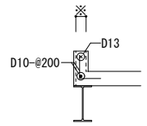
※は意匠図による。

ベランダ手摺配筋要領図 1/30



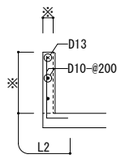
※は意匠図による。

玄関庇配筋要領図 1/30



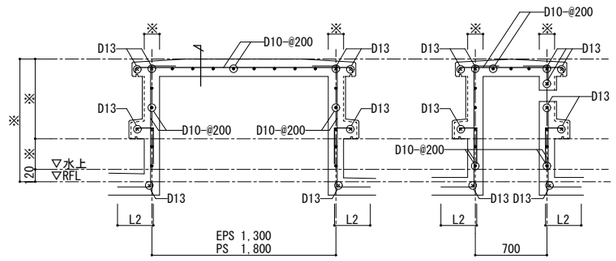
※は意匠図による。

防水立上げ配筋要領図 1/30



※は意匠図による。

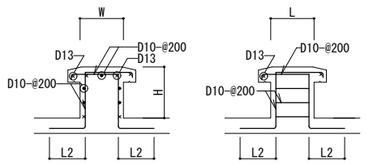
ハト小屋詳細図 1/30



※は意匠図による。

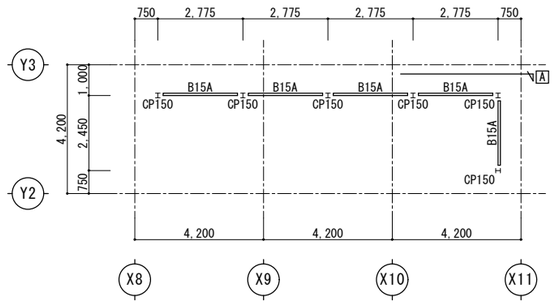
矢視図

設備基礎詳細図

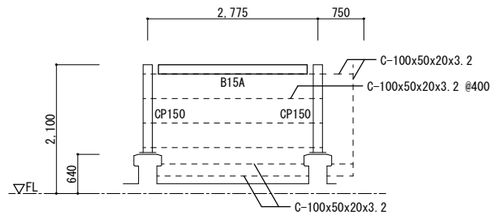


位置 種類	W	L	H
太陽光パネル基礎	300	300	400
フェンス基礎	300	300	640
キュービクル基礎	300	2020	400
蓄熱ユニット基礎	1000	4000	350
洗濯室用室外機基礎	1300	600	350
空気調和機室外機基礎(1)	1100	2850	350
空気調和機室外機基礎(2)	1100	3350	350
空気調和機室外機基礎(3)	1100	2050	350

目隠しルーバー詳細図 1/100

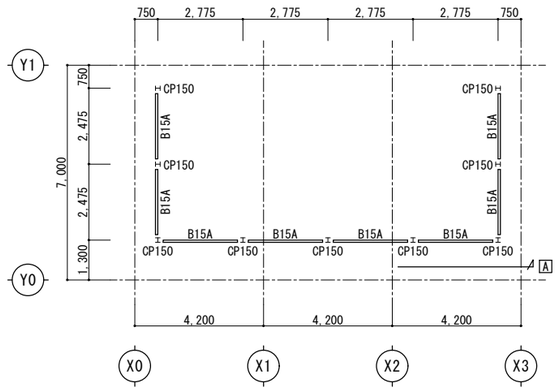


2階・物干し(女子)



A 矢視図 1/50

※BPL下端はFL+640とする。



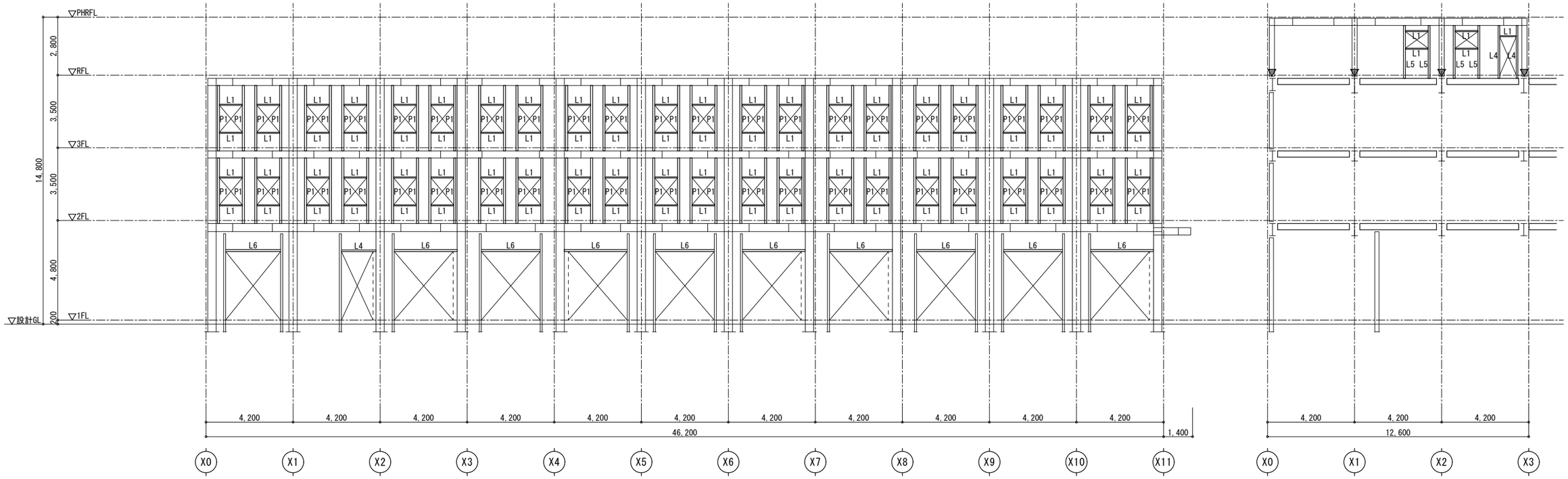
R階・物干し(男子)

構造設計者

株式会社 コンパース

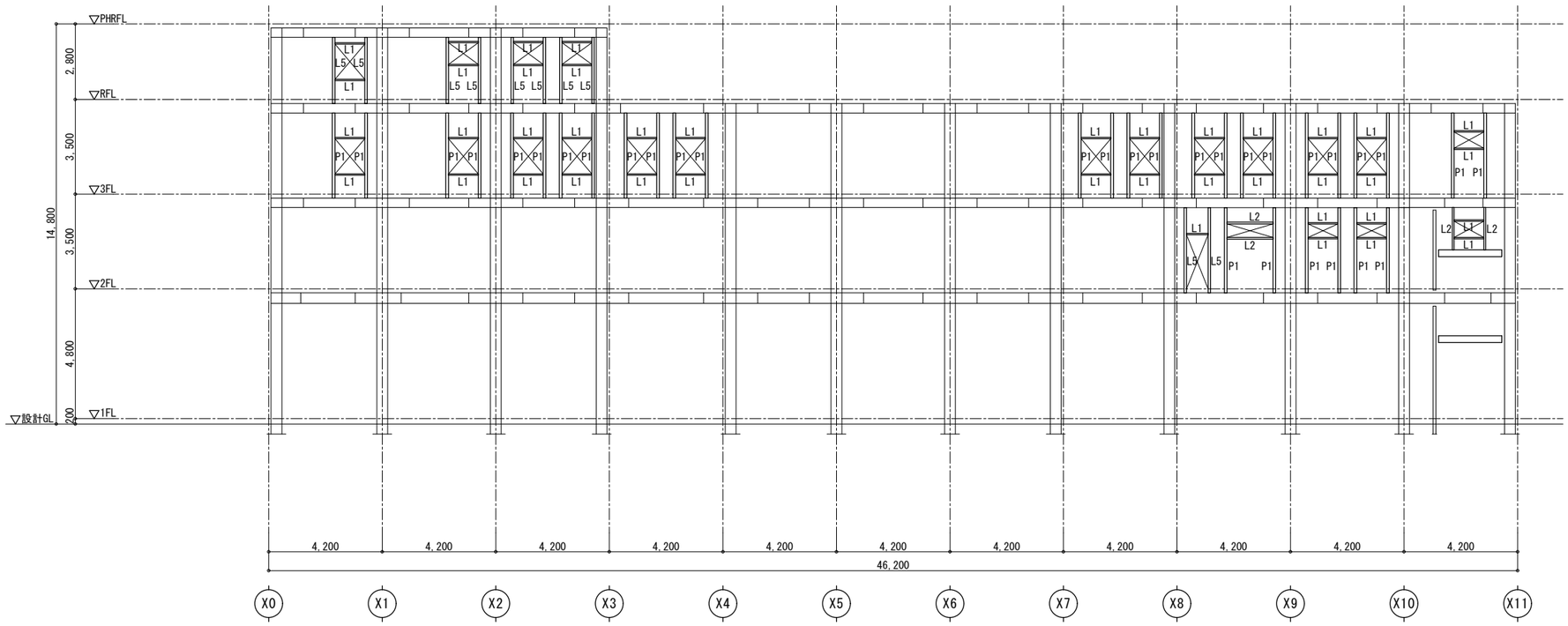
一級建築士事務所 香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号 第325498号
構造設計一級建築士証交付番号 第8572号 戸田 友一

徳島県県土整備部営繕課	●工事名 第２三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事	●図面番号 S-34	１級建築士事務所 徳島県知事登録第11050号 株式会社 宮建築設計 徳島市福島１丁目５番６号 TEL (088) －625－5505（代）
	●図面名 雑詳細	●縮尺 A1:1/100,50,30 A3:1/200,100,60	管理建築士 清水 康代 １級333707



Y0通り軸組図　1/100

Y1通り軸組図　1/100



Y2通り軸組図　1/100

開口補強材			
L1	L-50x50x6	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L2	L-65x65x6	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L3	L-75x75x6	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L4	L-75x75x9	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L5	L-90x90x7	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L6	□-100x100x3.2	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
P1	□-100x100x3.2	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
P2	□-100x100x4	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)

構造設計者
株式会社　コンパース
一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号　戸田　友一

徳島県県土整備部営繕課

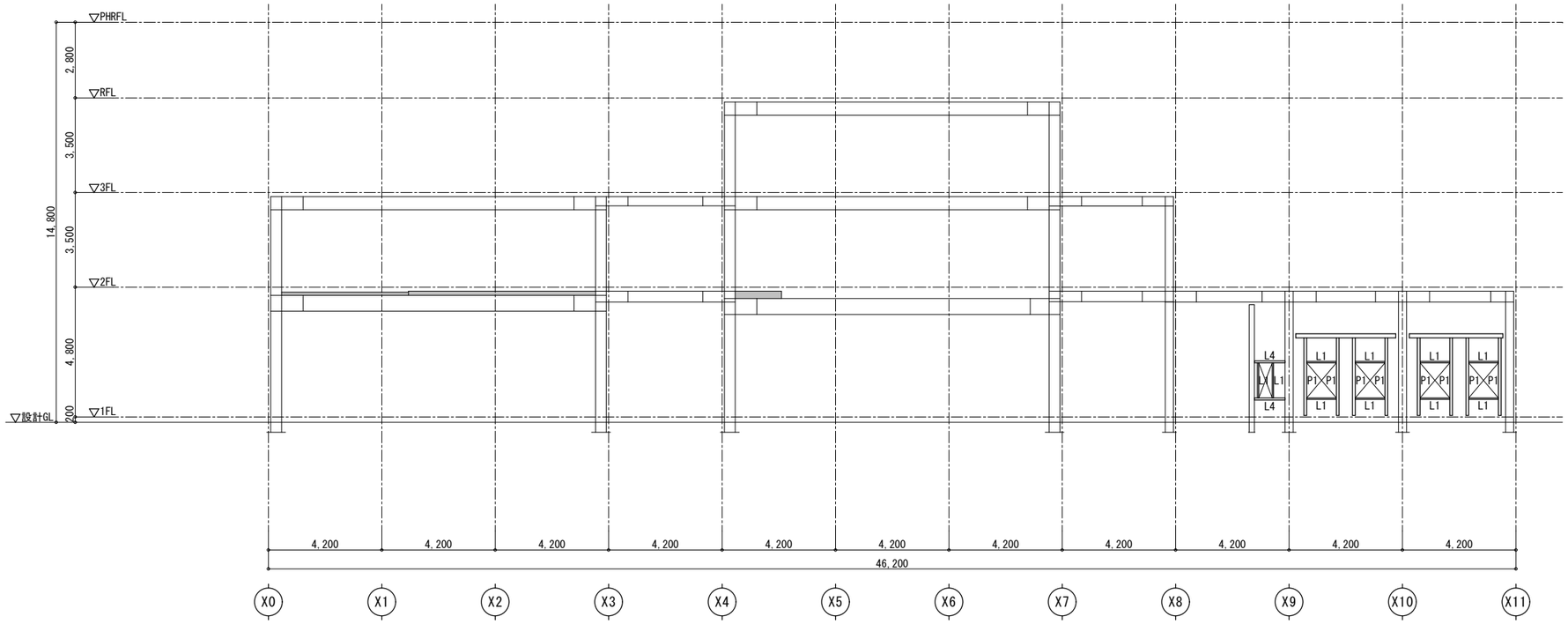
●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設
（仮称）新築工事のうち建築工事

●図面名　軸組図(1)<開口補強材>

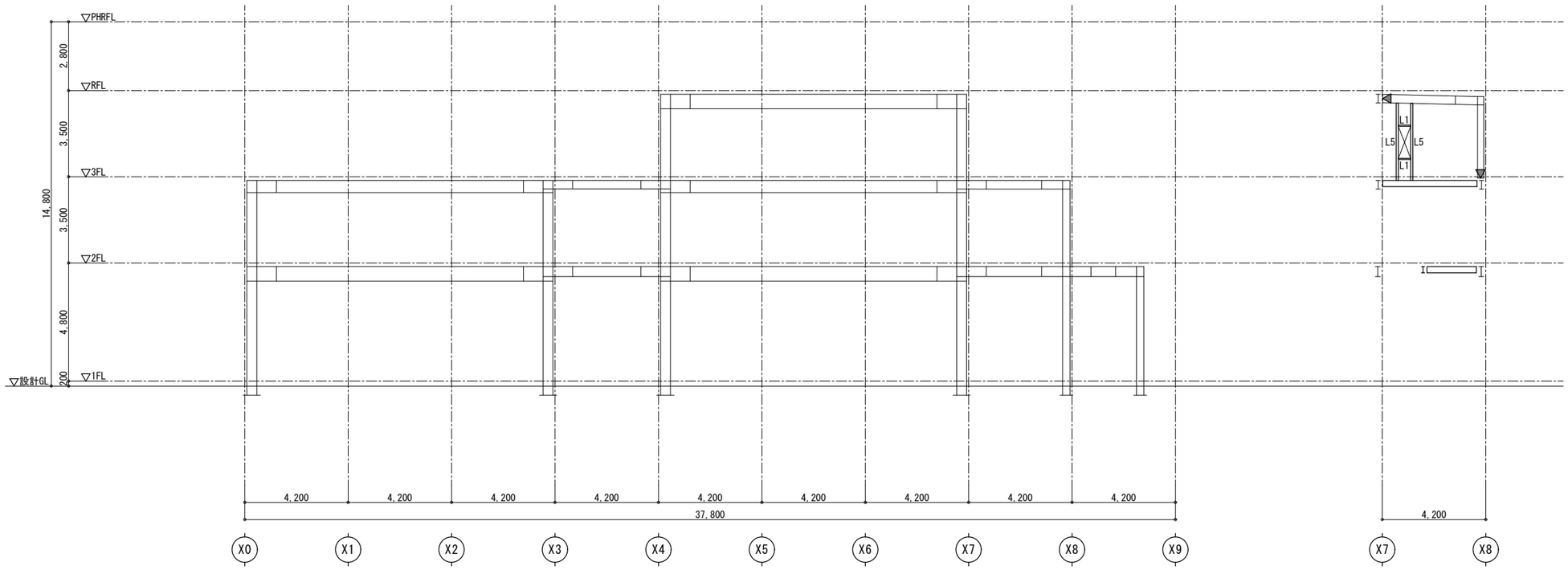
●図面番号　S-35

●縮尺　A1:1/100　A3:1/200

１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号
株式会社　宮建築設計
徳島市福島１丁目５番６号
TEL　(088)－625－5505（代）
管理建築士　清水　康代　１級333707



Y3通り軸組図　1/100



Y4通り軸組図　1/100

Y4+1,190通り軸組図　1/100

開口補強材			
L1	L-50x50x6	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L2	L-65x65x6	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L3	L-75x75x6	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L4	L-75x75x9	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L5	L-90x90x7	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L6	□-100x100x3.2	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
P1	□-100x100x3.2	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
P2	□-100x100x4	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)

構造設計者
株式会社　コンパース
一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号　戸田　友一
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号

徳島県県土整備部営繕課

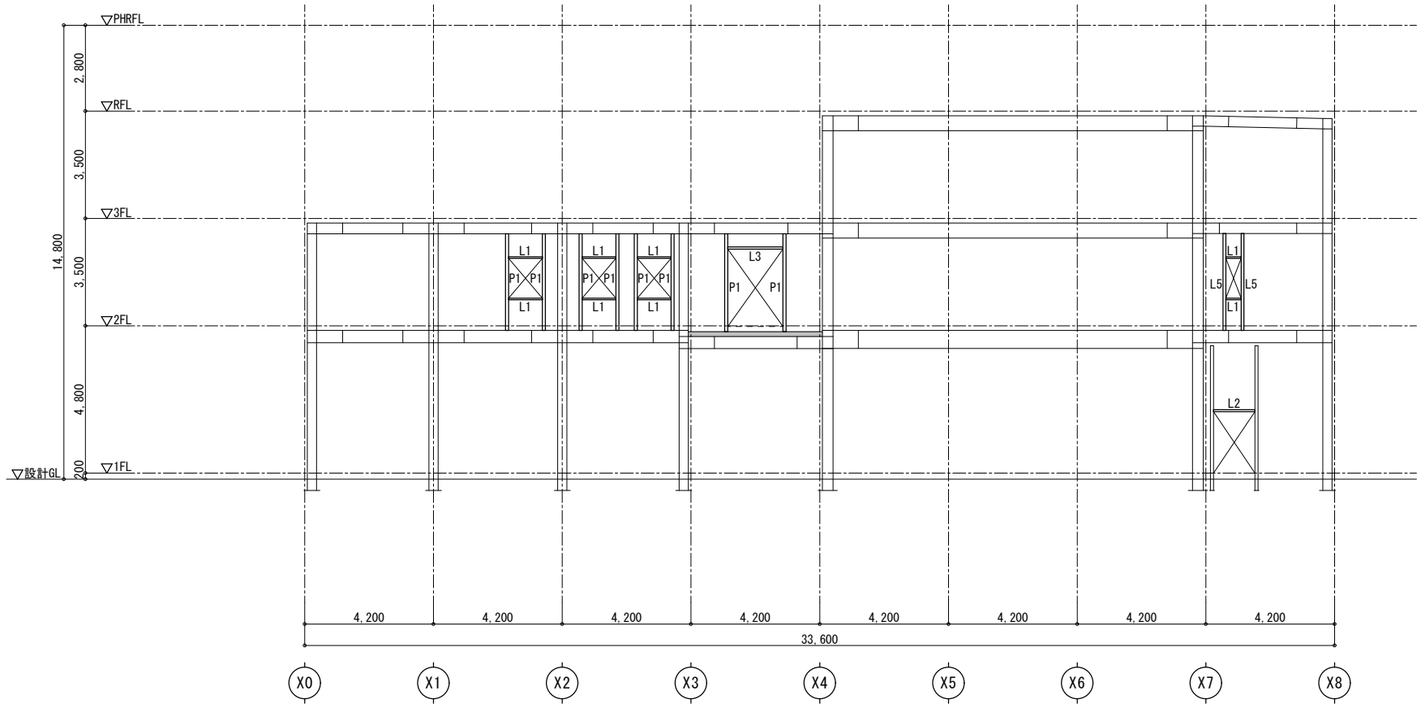
●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設
（仮称）新築工事のうち建築工事

●図面名　軸組図(2)<開口補強材>

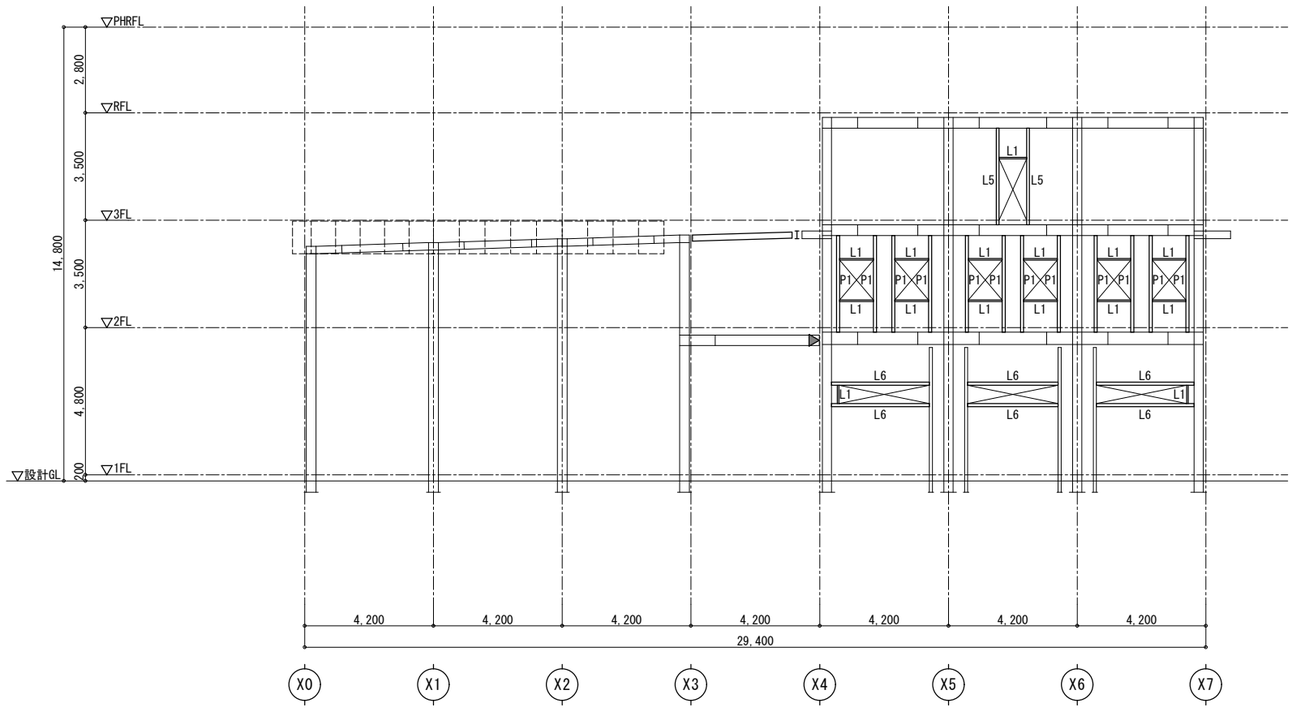
●図面番号　S-36

●縮尺　A1:1/100　A3:1/200

１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号
株式会社　宮建築設計
徳島市福島１丁目５番６号
TEL　(088)－625－5505（代）
管理建築士　清水　康代　１級333707



Y5通り軸組図　1/100



Y6通り軸組図　1/100

開口補強材			
L1	L-50x50x6	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L2	L-65x65x6	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L3	L-75x75x6	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L4	L-75x75x9	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L5	L-90x90x7	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L6	□-100x100x3.2	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
P1	□-100x100x3.2	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
P2	□-100x100x4	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)

構造設計者
株式会社　コンパース
一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号　戸田　友一
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号

徳島県県土整備部営繕課

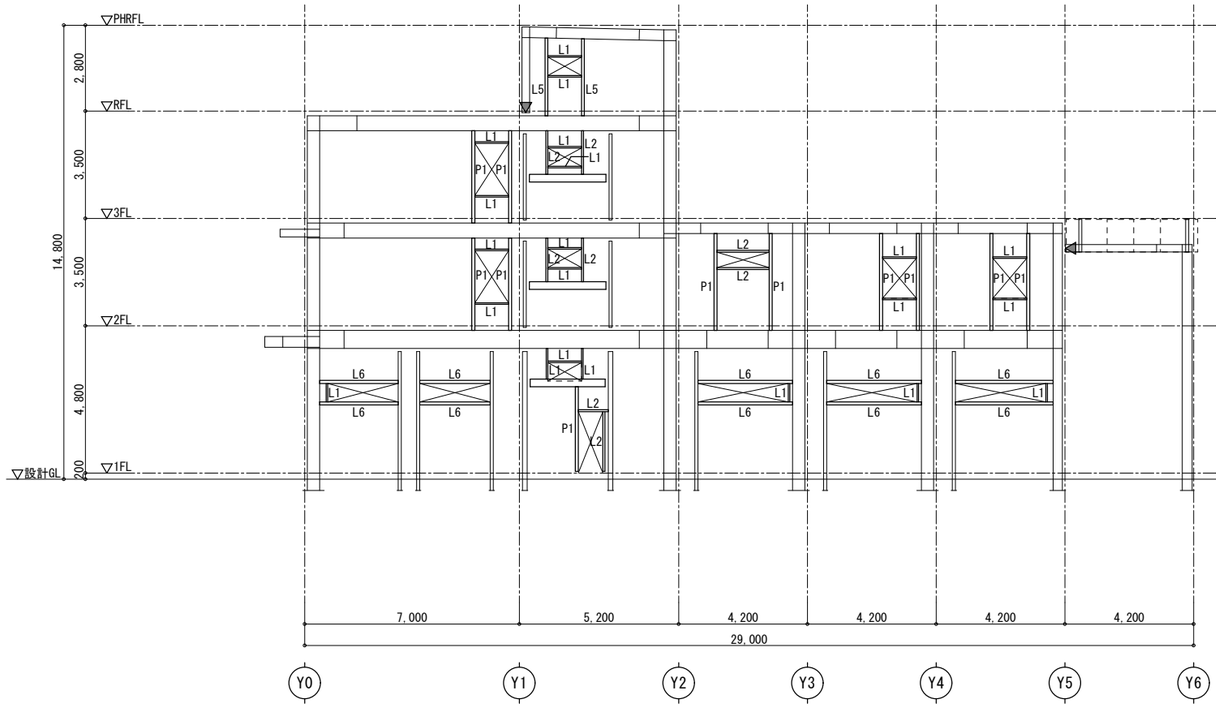
●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設
（仮称）新築工事のうち建築工事

●図面番号　S-37

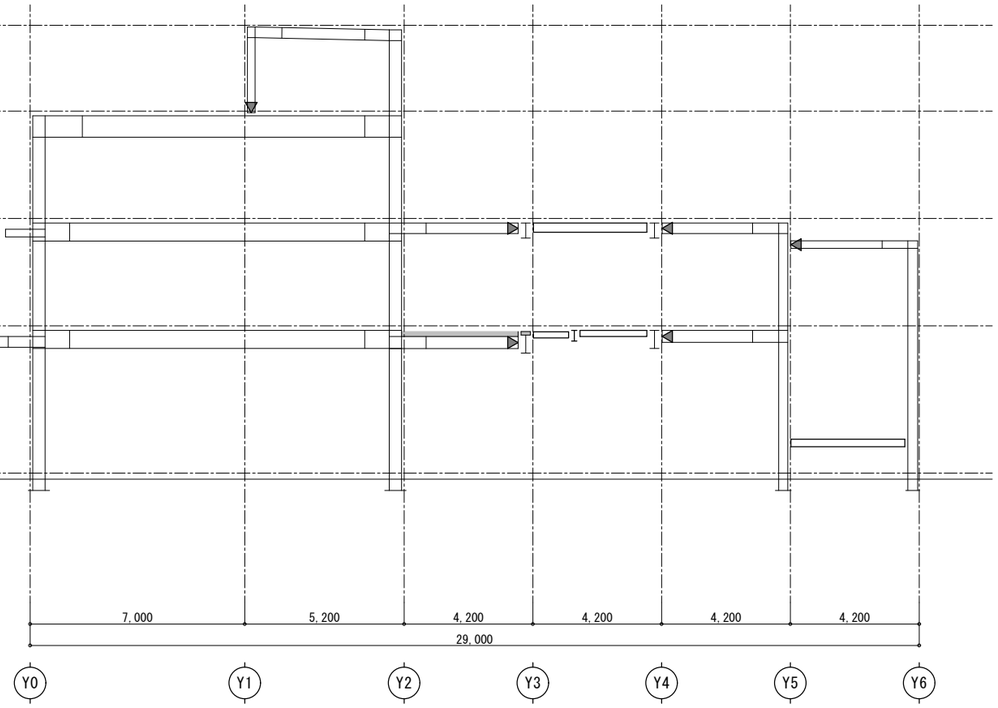
●図面名　軸組図(3)<開口補強材>

●縮尺　A1:1/100
A3:1/200

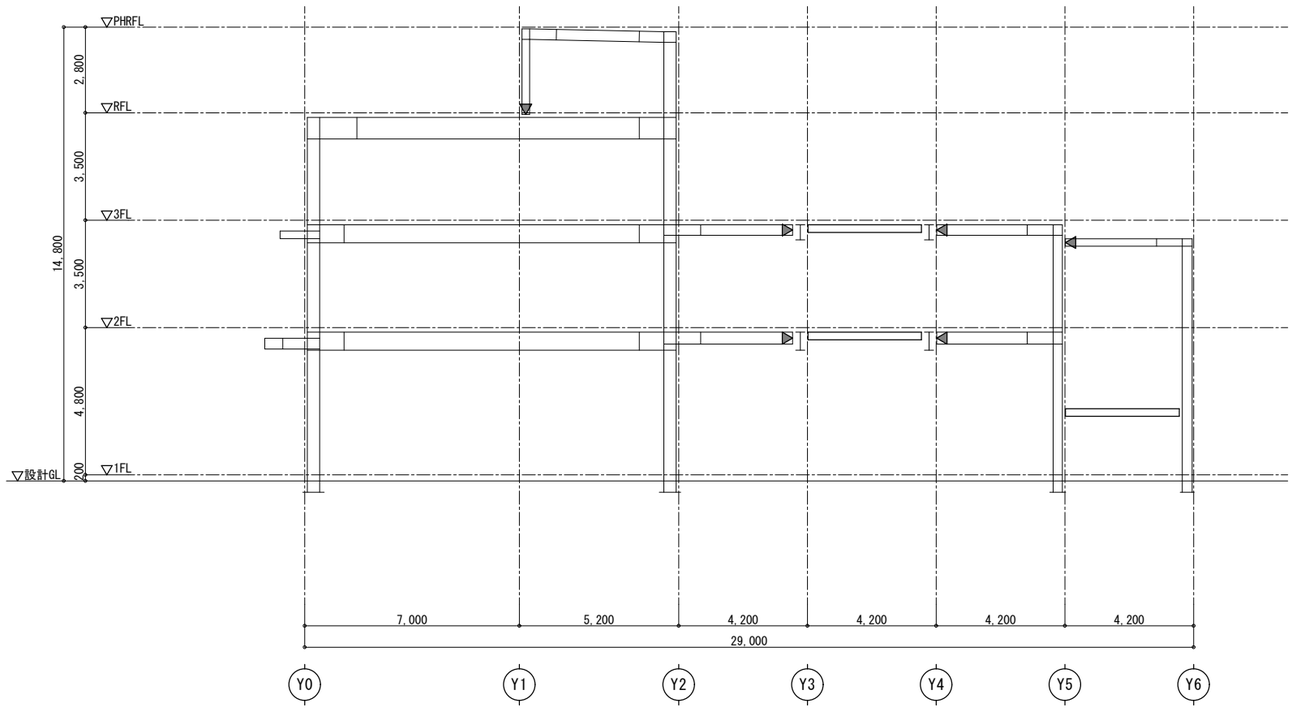
１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号
株式会社　宮建築設計
徳島市福島１丁目５番６号
TEL　(088)－625－5505（代）
管理建築士　清水　康代　１級333707



X0通り軸組図　1/100



X1通り軸組図　1/100



X2通り軸組図　1/100

開口補強材			
L1	L-50x50x6	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L2	L-65x65x6	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L3	L-75x75x6	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L4	L-75x75x9	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L5	L-90x90x7	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L6	□-100x100x3.2	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
P1	□-100x100x3.2	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
P2	□-100x100x4	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)

構造設計者
株式会社　コンパース
一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号　戸田　友一
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号

徳島県県土整備部営繕課

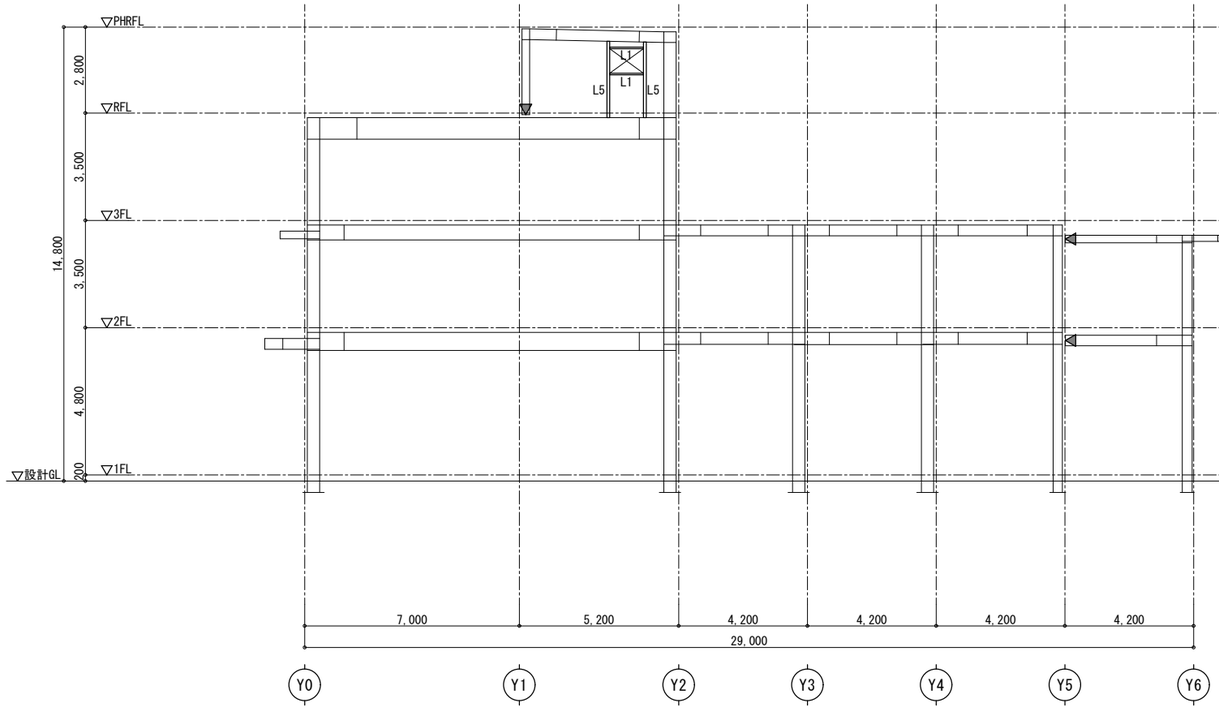
●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設
（仮称）新築工事のうち建築工事

●図面名　軸組図(4)<開口補強材>

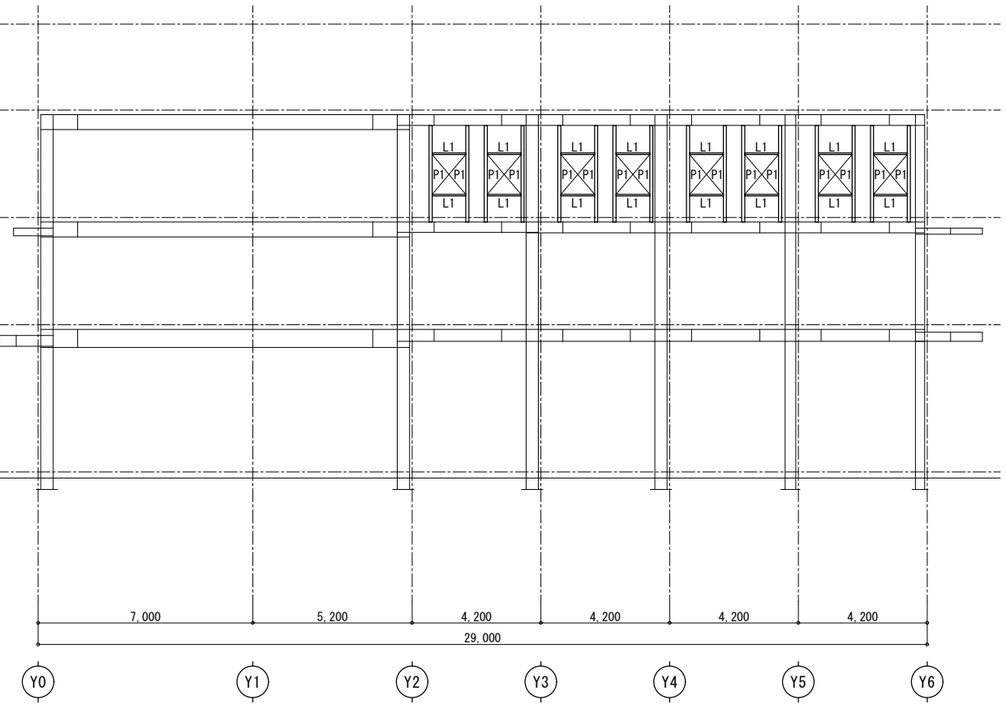
●図面番号　S-38

●縮尺　A1:1/100　A3:1/200

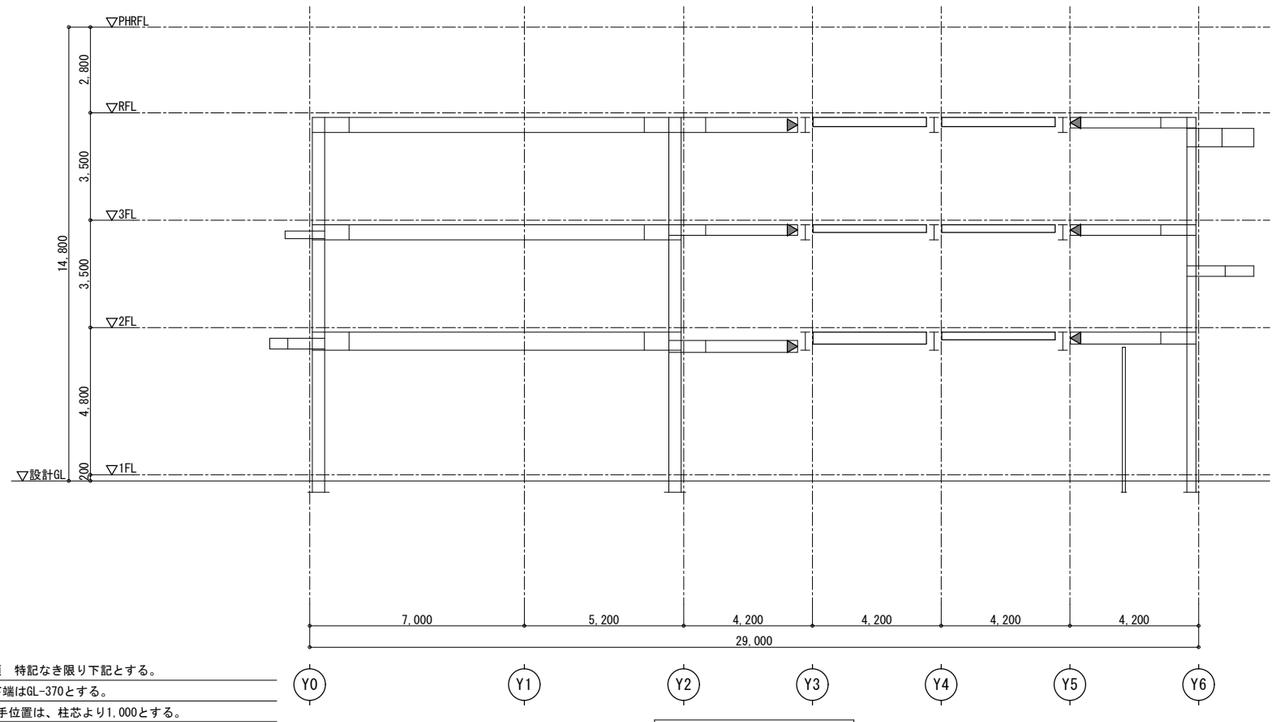
１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号
株式会社　宮建築設計
徳島市福島１丁目５番６号
TEL　(088)－625－5505（代）
管理建築士　清水　康代　１級333707



X3通り軸組図　1/100



X4通り軸組図　1/100



X5通り軸組図　1/100

共通事項　特記なき限り下記とする。

- BPL下端はGL-370とする。
- 梁継手位置は、柱芯より1,000とする。
- 柱芯＝通芯とする。
- ▲ は、主架構(柱・大梁)端部のピン接合を示す。

開口補強材			
L1	L-50x50x6	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L2	L-65x65x6	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L3	L-75x75x6	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L4	L-75x75x9	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L5	L-90x90x7	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L6	□-100x100x3.2	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
P1	□-100x100x3.2	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
P2	□-100x100x4	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)

構造設計者
株式会社　コンパース
一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号　戸田　友一
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号

徳島県県土整備部営繕課

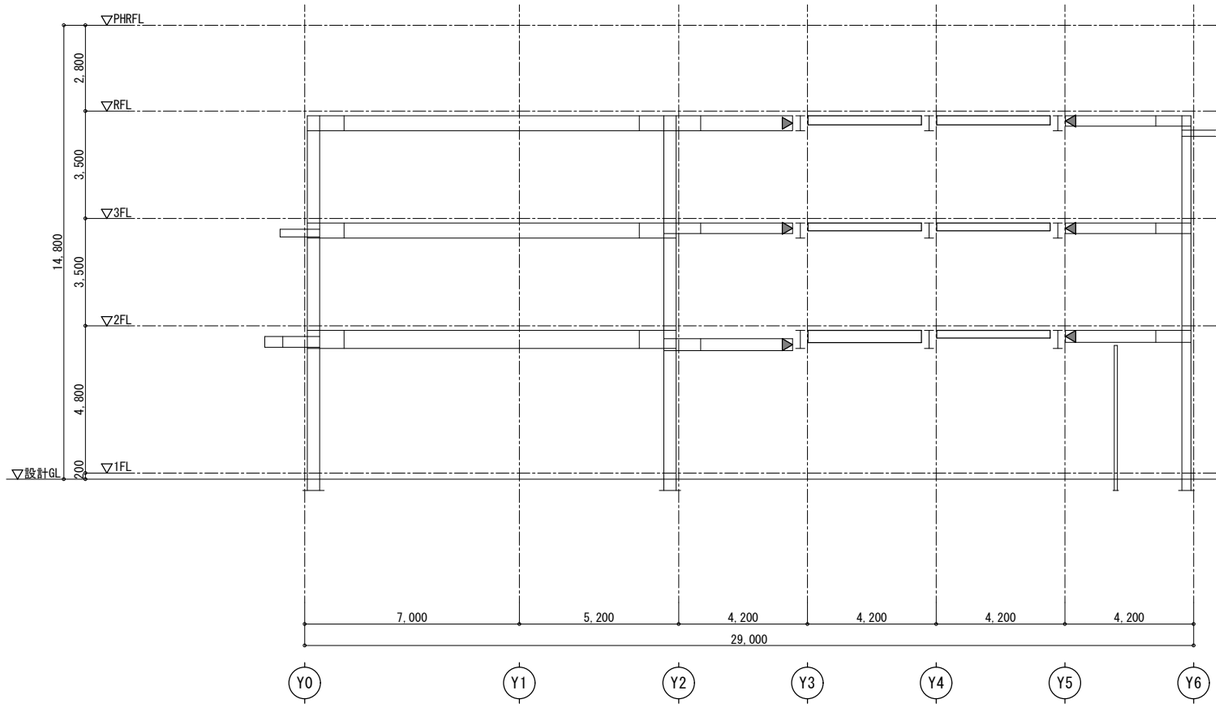
●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事

●図面名　軸組図(5)<開口補強材>

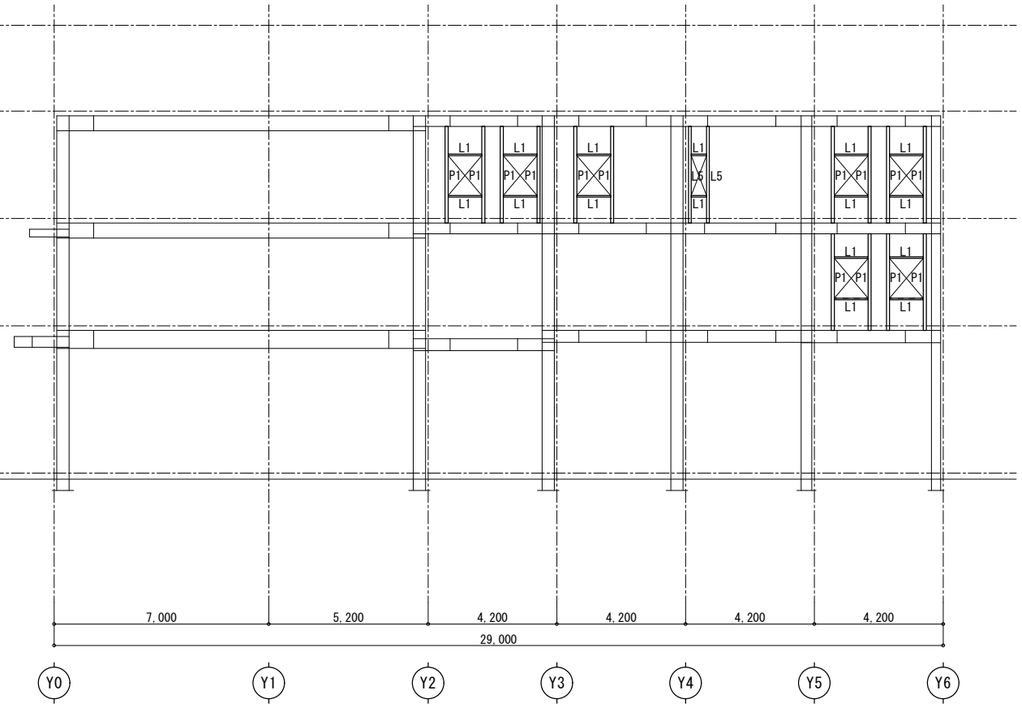
●図面番号　S-39

●縮尺　A1:1/100　A3:1/200

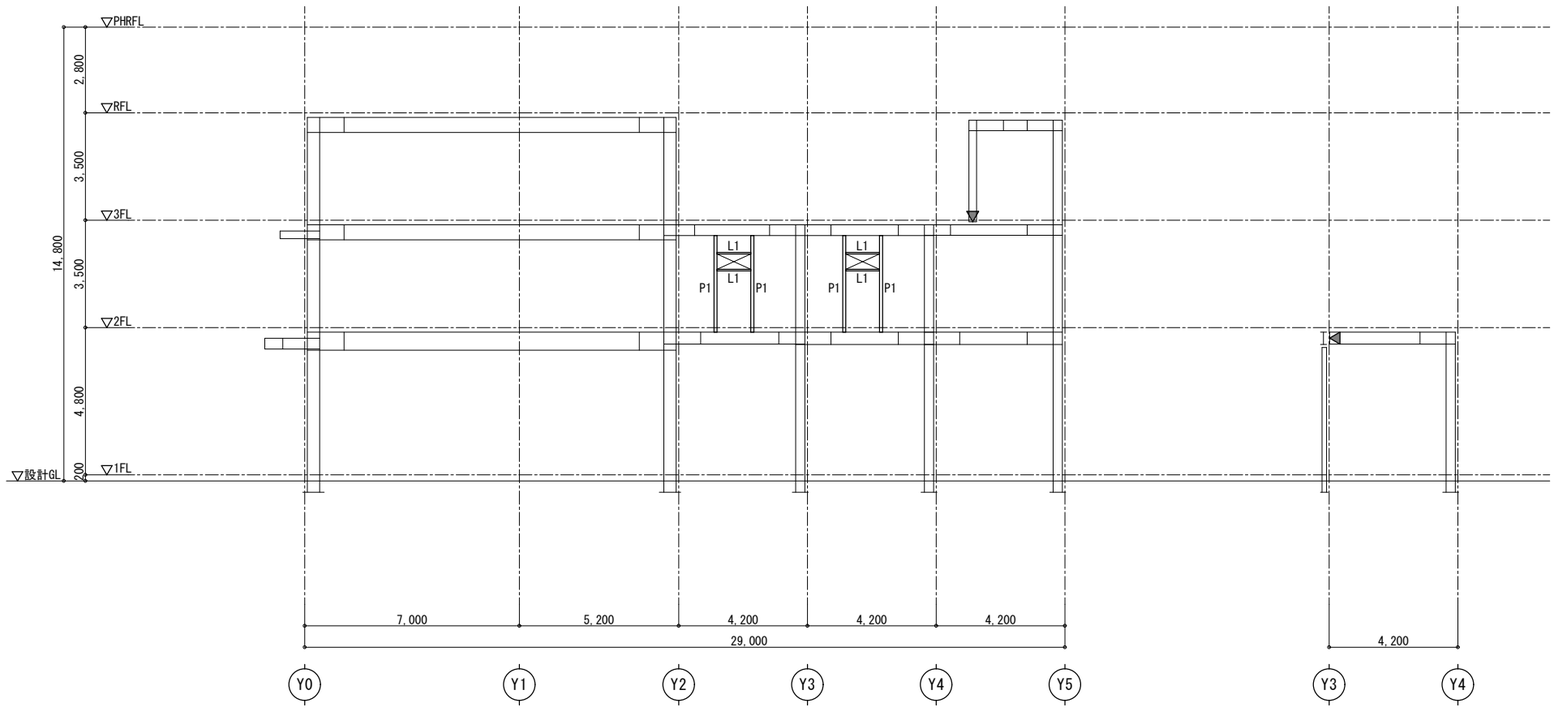
１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号
株式会社　宮建築設計
徳島市福島１丁目５番６号
TEL　(088)－625－5505（代）
管理建築士　清水　康代　１級333707



X6通り軸組図　1/100



X7通り軸組図　1/100



X8通り軸組図　1/100

X8+2,765通り軸組図　1/100

開口補強材			
L1	L-50x50x6	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L2	L-65x65x6	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L3	L-75x75x6	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L4	L-75x75x9	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L5	L-90x90x7	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L6	□-100x100x3.2	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
P1	□-100x100x3.2	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
P2	□-100x100x4	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)

構造設計者

株式会社　コンパース

一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号　戸田　友一

徳島県県土整備部営繕課

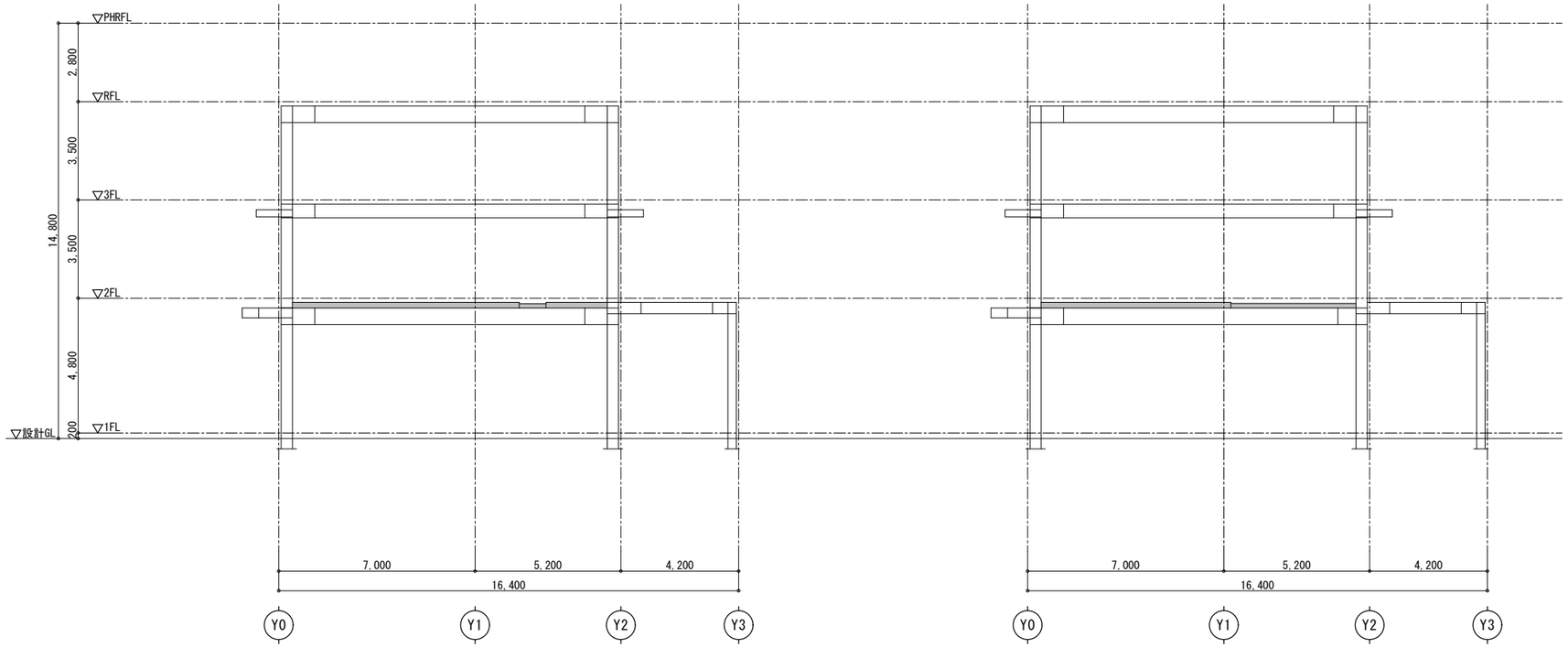
●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設
（仮称）新築工事のうち建築工事

●図面番号　S-40

●図面名　軸組図(6)<開口補強材>

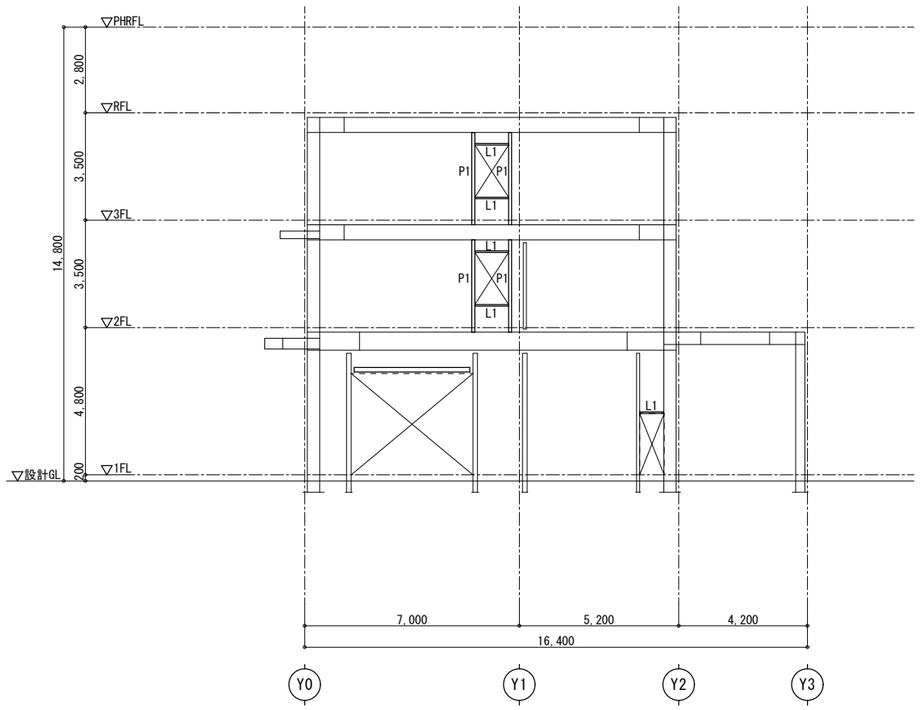
●縮尺　A1:1/100　A3:1/200

１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号
株式会社　宮建築設計
徳島市福島１丁目５番６号
TEL　(088)－625－5505（代）
管理建築士　清水　康代　１級333707



X9通り軸組図　1/100

X10通り軸組図　1/100



X11通り軸組図　1/100

開口補強材			
L1	L-50x50x6	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L2	L-65x65x6	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L3	L-75x75x6	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L4	L-75x75x9	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L5	L-90x90x7	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
L6	□-100x100x3.2	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
P1	□-100x100x3.2	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)
P2	□-100x100x4	仕口	GPL-6 2-M16(中ボルト)

構造設計者
株式会社　コンパース
一級建築士事務所　香川県知事登録第1232号
一級建築士大臣登録番号　第325498号　戸田　友一
構造設計一級建築士証交付番号　第8572号

徳島県県土整備部営繕課

●工事名　第２三好寮・三好市地域利便性施設
（仮称）新築工事のうち建築工事

●図面番号　S-41

●図面名　軸組図(7)<開口補強材>

●縮尺　A1:1/100
A3:1/200

１級建築士事務所　徳島県知事登録第11050号
株式会社　宮建築設計
徳島市福島１丁目５番６号
TEL　(088)－625－5505（代）
管理建築士　清水　康代　１級333707